

わい ふ

特集◆再就職で得た仕事・
得られなかった仕事

新連載 愛するって？

新連載 アメリカ南部 小さな町の学校

投稿誌

読んで書いて、みんなでつくる

269

逐次刊行物

平 10, 1, 19 歳

国立婦人教育会館
婦人教育情報センター



有斐閣

(表示価格は税別)

東京・神田・神保町2/Tel:03-3265-6811
[ご注文はTel:03-3817-0711へ]

●図書目録送呈●

女性学教育／学習

ハンドブック

国立婦人教育会館編
A5判161頁 1,000円

◆ジェンダーフリーな社会をめざして◆

実際に女性学の教育に携わっている研究者が協力して、今、女性学のコアとなっている問題を明らかにするとともに、現実にとどのような課題を設定して、どうプログラムを組んだらいいかを具体的に示す。生涯教育の時代、学ぶ人・教える人・実践的に役に立つ一冊。

Part1 社会教育における女性学教育／学習の内容 (I. 性別役割分業の見直し／II. 多様な家族・ライフスタイルへ／III. セクシュアリティ)
Part2 社会教育における女性学教育／学習の方法 (I. 社会教育における女性学教育／学習の方法についての考え方／II. 対象別学習課題とプログラム例)……… 参考情報(文献・ビデオ／キーワード)解説

執筆者●伊藤公雄(大阪大学)／井上輝子(和光大学)／金井淑子(長岡短期大学)／加野芳正(香川大学)／國信潤子(愛知淑徳大学)／塩田咲子(高崎経済大学)／直井道子(東京学芸大学)／荒谷信子(文部省)／上村千賀子(群馬大学)／伊藤真知子(国立婦人教育会館)／中野洋恵(国立婦人教育会館)

女性学への招待

新版 井上輝子 著 (有斐閣) 一六〇〇円
新装版 〇変わる／変わる／変わらない女の一生

未婚化社会の親子関係

宮本みち子・若上真珠・山田眞弘 著 (有斐閣) 一六〇〇円
〇お金と愛情にみる家族のゆくえ

若者犯罪の社会文化史

間庭充幸 著 (有斐閣) 一八〇〇円
〇犯罪が映し出す時代の病像

家族データブック

久武綾子・戒能民江・若原典子・吉田あけみ 著 (有斐閣) 一八〇〇円
A5判161頁 付二八〇頁
〇年表と図表で読む戦後家族 1945～96

裁判の女性学

福島瑞穂 著 (有斐閣) 一八〇〇円
〇女性の戦がかった

特養ホーム

入居者の

ホンネ

家族の

ホンネ

大反響! 最新刊

本間郁子[著]

A5判188ページ
税込1,680円

ある主婦が全国各地の特養ホームの入居者100人とその家族100人から面談で聞き取った切実な願い、ありのままの生の声。『今までにない本』と各方面から絶賛、話題の書。

特養ホームで暮らすということ

本間郁子・著
税込1,530円
好評5刷!
一番ヶ瀬康子、樋口恵子、中川晶輝、他絶賛!

これ有料老人ホームからの

利用者のためあるべき姿を求めて。
川村匡由・著
有料老人ホームの実態に迫り、今後を提言する。
豊富な資料編と入居の際のチェックポイント付
税込1,000円

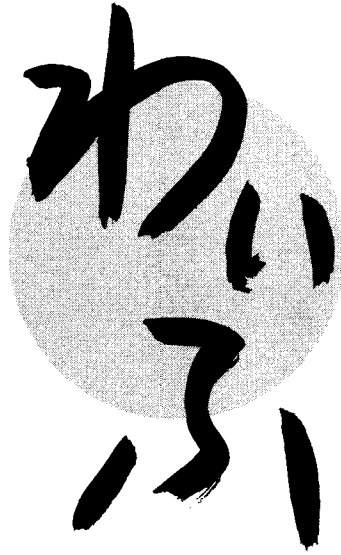
全国老協会長
石井 岱三
長崎純心大学教授
一番ヶ瀬康子
井護士
高野 範城

全国老研会長
中川 晶輝
さわやか福祉財団理事長
堀田 力
ジャーナリスト
安田 陸男

推せん

あけび書房

東京都千代田区九段北1-9-5-1208
TEL 03-3234-2571 FAX 03-3234-2609



「わいふ」を読む

「わいふ」に書く

あなたの人生が開ける

読んで書いて、
みんなでつくる

わいふ

269号

目次

デザイン／宮塚真由美

題字／石渡希和子

表紙イラスト／箕輪絵衣子

イラスト／奥島千恵子 小沢恵子

カステラネンコ 弘法堂建二 小林正子

小宅昌枝 佐藤瑞江子 田沼千恵

田村幹代 鳥居禎子 西宮さき

橋本美智子 藤井恵子

4

私の仕事1◆甲斐恵美さん

写真提供・文／甲斐恵美さん

特集 再就職で得た仕事・得られなかった仕事

私はガス配管の設計士 野崎美智子

五十二歳からの再就職 中川祥子

夫は学生に、私は教師に 匿名

家族のスケッチ

古川芳枝・米良恭子・三田サキ・寿々木つた

親友は逝ってしまった 十文字圭子

87

一筆両断① 西田淑子

88

座談会 私も言いたい
「倒産する老人ホーム、しないホーム」

97

ブック情報

100

ズバリ一言

石井しのぶ

102

新連載
アメリカ南部 小さな町の学校 河上友子

109

わいふネット

大久保れい子・近藤和子

110

フリートーク

大沢陽子・浅川涼子・寺尾香織・風垂 祐・中野かおる
青木清美

123

私の意見・あなたの意見

千葉信子・鈴木美奈・横山のり子・井上いづみ・竹田千文
沢潟裕子・流縞さよ・岡 あやり・クワシイトモミ

128

コミック これが子供の生きる道① 栗田笑

おすすめの二冊 佐藤ゆかり

子育てフォーラム

ながはたみか・福田幸子・伊藤良重・香山なおみ

あなたへスマッシュ

匿名・田口恵子・新井純子・香山なおみ・青木清美
宮崎貴子・小林智枝・十河温子・入江由里

今これに夢中

荒 友美・家守恭子

コミック 猪苗代の思い出1 W氏漫太郎

新連載

愛するって? 須賀まり子

おすすめの二冊 松本とみよ

笑える!

福田由利子・荒木裕子

パソコンワールド

麦穂

最終回

自主保育っておもしろい! 川村美代子

ワーキングライフ

西野蘭美・田村安子

私もひとこと

島 初美・入江由里・松崎理恵・佐藤留美・岩井由利子
松本育子・武口敬子・村上悦子・中野耀子・花岡京子
嵯峨久美子・後藤 晶・鈴木美奈・伊藤琴子・杉澤庸代
横山のり子・鈴木和子

おすすめの二冊 木村澄子

情報コーナー

スタッフから 147
募集します 149
編集だより 152
選考を終えて 148
投稿のきまり 150

バックナンバー 17
文章講座のおすすめ 122
わいふインフォメーション 144
お友達にわいふを 21
本をプレゼント 143
自費出版はわいふへ 148

私の仕事

子育て支援事業で活躍する

甲斐 恵美さん

保田になつて十数年。こどもが好きなことと、中学生の時からやってきたレクリエーションや、野外活動で身につけたものが生かせることなどから、この道を選びました。

子育て支援事業を展開している「さかえ・こどもセンター」の建物
(私のいる場所)



子育て支援事業で活躍する甲斐恵美さん





独身時代は、結婚したら
専業主婦になろう、また、
こどもは自分の手で育てた
いと思っていました。しか
し、実際は結婚と同時に親
と同居をしたので、仕事を
続けることにし、出産後も
育児休暇を一年貰い、復帰



をしました。復帰した当時
は、こどもの可愛さといと
おしさ、そして、保育園で
大泣きする姿がつらく、後
る髪を引かれながら仕事に
向かいました。一方自分は
他のこどもを抱き、あやし
めていることに矛盾を感じ、
仕事をやめるべきかと悩ん
だこともありました。
でも、今は続けていてよ
こどもセンターにあそびにきた親
子たち

公園で歌や手あそび、人形劇をしてあそぶ。右端が私





公民館を借りて親子であそぶ

夫婦が集まって 親子あそびとトーク



かつたと思っています。仕事をし、こどもと離れている時間が、こどもをより一層可愛く思わせ、限られた時間の中で関わりを大事にしながら、毎日を過ごすことができました。また、その思いや、子育ての経験が、そのまま仕事にも生か

されています。もちろんこどもも、保育園の先生に愛され、たくさんの友達と共に様々な経験をし、心も体も豊かになりました。

今は、保育園で保育をしているのではなく、地域にいる（幼稚園や保育園にいく前の）親子を対象にした、地域子育て支援事業を担当しています。電話相談に始まり、親子の集まる場や、保育のあそび・知恵の提供等を通して、親子のリフレッシュを図ると同時に仲間作りをしています。

常に親と心を交わし合う仕事なのでエネルギーを使いますが、こどもたちの笑顔と、お母さんたちの笑顔に出会うたびに心が和み、エネルギーが湧いてきます。こどもたちや親が、幸せに毎日を過ごせるように、少しでも役に立てればと思っています。

やりがいのある仕事です。主人にそしてこどもに感謝しています。



ふれあいあそび

美容院ごっこ



園庭でジャングルジム

電車ごっこ



投稿誌 **わいふ** から
生まれた

ニュー・マザリングシステム (NMS)

ゼロ歳から満3歳までの子どもを持つお母さんを対象とする通信教育です

「生きる力」のある子を育てましょう!!



- ・実践と理論の両方を学べます
- ・子育ての悩みから解放されます
- ・徹底した個人指導で安心できます

お問い合わせ先 **NMS研究会** 〒162 東京都新宿区市谷加賀町2-5-26
(株)グループわいふ分室内 ☎03-3260-2509 FAX03-3260-9398

妻と夫が 定年後を 楽しく 暮らす本

グループわいふ・編著

- 趣味だけでは人生を過ごす支えにならない
- 老後の資格、最も将来性あるのは……
- 身体を動かす暮らしが老後を支える
- 「老後はボランティアで」の落とし穴

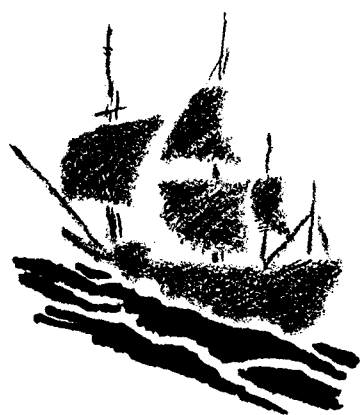
“主婦集団”が
足で集めた
エピソードの数々

河出書房新社 (03) 3260-1101

◎本体1400円 (税別)

特集

再就職で得た仕事
得られなかった仕事



再就職で得た仕事・ 得られなかった仕事

私はガス配管 の設計士

埼玉県東松山市●野崎美智子（43歳）

ガス屋さん？ 私のこと？

雨が降りしきる中、作業服に身を包み、左手にカサ、右手に設計手帳、ポケットにはメジャーをつっこんで、お

客様の家のまわりをうろつく私。安全靴はドロドロ、作業服にも木の葉やくもの巣がついてしまう。

「ガス屋さんちよつと！」家の中から、奥様の声がする。「えっ、ガス屋さんて私のこと？」思わず驚いて、一步引く私。「そうだ私はガス屋さんなんだ」

実は私が今やっている仕事は、都市ガスの設計士。都市ガス工事の配管のルートや、工事内容をお客様と打合わせて、設計図面を書いて見積りを出す仕事だ。女性の設計士はガス業界でも

少なく、社内でも十五人いる設計士の中で、女性は私を含めて二人しかいない。そういうと、私の過去を知っている「わいふ」の田中喜美子さんあたりから、「どうしてそんな仕事しているの？」と不思議がられそうだが、ヘガス屋さん」になってからもうすぐ五年が経つ。

私の再就職先は中堅の都市ガス会社の子会社。簡単にいうとガス工事の会社で、社員は事務の女性以外は全員作業服。工事の設計を担当する私も作業

服、というブルーカラーの職場。

入社のかっかけは、以前働いていたリフォーム関係の会社で知りあった、ガス会社の人の紹介だ。その時会社が設立されたばかりで、新入社員の採用が間に合わず、人が足りず、私は当時三十八歳だったが、最初から正社員で採用された。しかし今考えれば、それはラッキーとしかいいようがなく、私のあとから中途採用で正社員になれた女性には、ほとんどいない。

しかも、今年は新卒の採用はゼロ。やめた正社員の穴埋めはパートさん

で、去年まであったパートから準社員への昇格も、立消えになった。現在パートは六名。事務職で、全員二十代、ここにはパートのおばさんはいない。女性の最年長者が私で、四十三歳。三十代が二人、他は全員二十代。全社員七十名中、女性は二十名、男性も半分以上二十代が占めている。

「そんな若い人ばかりの中で、正社員なんてすごいわね。手に職があつていいわね」。私が正社員で働いているのを知っている友人や、主婦のお客さんは、うらやましそうに言う。しか

し、仕事としては、私にはお世辞にも向いているとはいえないし、ワープロ、パソコン、CAD^{キャド}などOA器械があふれかえる職場、若くなけりゃ女じゃないといった男性の目にさらされて働くのは、つらいことも多い。ただし、収入は、今が一番よい。

内職↓パート↓正社員

私の再就職歴は、今から十五年前、内職から始まる。当時、三歳と四歳の息子がいてもできる仕事といえば内職しかなく、一個二円とか三円の紙製品の組立てやダイレクトメールの封入をした。要領の悪い私は、納期に間に合わせるために、友人に下請けに出す始末で、一カ月二千円にもならなかったと思う。

次に始めたのが、タウン紙の配達。二千軒を三日間で配って八千円。内職よりよいが、疲れてしまって、続かなかった。その時、配るより書くほうが向いている……と思って、そのタウン



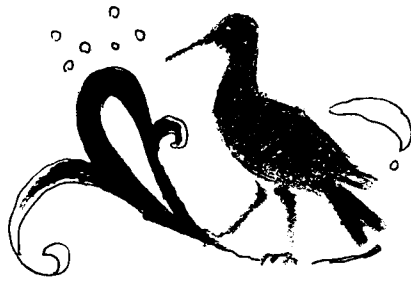
紙でライターのパートになった。ところがそのタウン紙も経営悪化で、二年足らずで人員カットされ、私もやめた。

そのタウン紙での人脈のおかげで、別のタウン紙に移れたが、そこも経営者が交替するなどして、半年でやめ、移ったのがリフォームの営業の会社だった。その時三十四歳。子供達は、小学校一年生と三年生になっていた。

入社の時、パートか正社員を選ぶことになった。それまでパートという不安定な身分ばかりだった私は、思いきって正社員を選んだ。子供は、学童保育に預け、決心しての入社だったが結果的には、それがよかった。なぜなら三十六歳の時、三人目を予期せずして妊娠。悩んだ末、産休と育児休業をとって産んだからだ。社会保険が役に立ち、職場復帰もできた。

その会社もバブルの崩壊が始まる平成四年、会社解散となった。すでに私は三十八歳。なんて仕事運のない私の勤め先は次々と消えていった。そ

れでも働きたくて、職安やチラシを見て探したが、年齢と一歳の息子（三男）がいるのを理由に断わられた。そんな時、前のリフォーム会社で取引き



があつたガス会社の人から、現在の会社を紹介された。リフォームがわかる人がほしい」ということだったが、

一応履歴書を出すことにした。

実は、私はリフォームの営業といつても、「壁紙はどれにしますか？カーテンはどれがいいですか？」程度で、工事がわかるわけではなかった。しかし、このチャンス逃がしたら仕事はないと思い、履歴書には思いきりハデに書いた。リフォームの営業及び販売促進業務経験。子供の年齢も二歳にして、近くに住む私の両親も同居ということにした。面接時も、タウン紙のことなど（もちろん履歴書にも書いてないが）話さず、リフォームが、いかにこれからの時代大切かを力説した。課長、次長、部長面接までいき、社長面接の時は「お子さんさえ大丈夫なら、ぜひ来て下さい」と言ってもらえた。今思えばキャリアもない主婦の再々就職としては好条件で、嬉しさに仕事の内容まで聞かずに入社した。

入社してから資格を取る

なにしろ、自分の家のガスのことさ

え知らない私が配属されたのは、設計の仕事だった。私の出身大学は、文学部日本文化学科。小さいころから機械に弱いし、ぶきつちよで超文系人間だと思っていた。線引きで線を引くのも苦手なのに、仕事は、配管の図面書きだった。

しかも、作業服で新築現場やお客様宅を訪問し、打合わせもしなければいけない。"リフォームがわかる"という看板を上げなければ、事務にまわったかもしれない。でも時すでに遅く、事務系は別の人が決っていた。

それからの私は、まず、資格を取らなければならなかった。ガス会社で特に重要な資格は"ガス主任技術者"という資格で、甲・乙・丙があり、一番下の丙でさえかなりむずかしい。私は資格を取るために、物理と化学の勉強を始めた。当然、大嫌い。でも取れなければプロになれない。苦労の末、二年がかりで大卒の新人に交じって合格した。配管の実技もぶきつちよな私が、油と汗にまみれて取った。

この五年間で取った資格は次のようなもの。

ガス主任技術者 丙（国家資格）
液化石油設備士（筆記と配管の実技）
ガス消費器械設置監督（給湯器などを設置するための資格）
可とう管設備士（システムキッチン
のガスパイプをつなぐための資格）
危険物取扱者 丙・乙四（ガソリン
などを扱う時に必要）

入社の際は、運転免許と国語の教員免許しかなく、社長に"リフォームと国語の先生はどんな関係があるのですか"などと皮肉られたが、やっとガスのプロとしてスタートラインに立てた。資格がものを言う会社なので、資格の有無が、ただのおばさんと専門職を分ける。

最近就職難のせいか、国立やレベルの高い私大の工学部を出た新卒が多く、工事会社の中では設計が一番知的な仕事（？）なので、私と同じ仕事に配属される。若い知的頭脳と一緒に仕事なんて、つらい。

コンピューターが私を救った

線も満足に引けない私が、なんとか設計士としてやってこられたのには、CAD（キヤド・図面を書くコンピューターソフト）の導入が大きい。入社してすぐCADが導入された。最初に研修を受けたのが、私を含めて三人。高校出たばかりの女の子と二十代の男性社員だったが、結局私以外は研修だけ受けて他の仕事に移動し、使えるのは私だけになった。

最初は、一日がかりで、やっと一枚図面ができるかできないかで、「手のほうがよっぽど早い」と言われたが、会社の方針で図面は全部CADで書くようになると、私は、指導の立場になった。慣れるまで若者の二倍はかかったと思うが、覚えてしまえば、鉛筆で線を引くより簡単できれい。キャリアに関係なく図面が書けるので、私も設計士としてやってこられたのだと思う。

ただCAD以外のパソコンは苦手



で、メールのやりとりなど社内では盛んだが、私は加われないでいる。

仕事はやめられない

時々、今の仕事が無性にいやになることがある。まず、社内に友達と呼べ

る同世代がいない。社内が、女性はいはうがいいという空気。ガスの配管の設計なんて向いてない。仕事に追われる。私生活にもうるさい。……あげればきりがなし。

「そろそろやめたくなくなったんですよ。もう年齢制限で他の仕事に移れない

んだから、がまんがまん」
昔のタウン紙の仲間にこんなことを言われる。

バブルが崩壊し、夫の給料は年収百五十万円以上下がった。私の年収は、今四百万円を超え、夫の年収との差は二百万円近くになってしまった。そうになると、なぜ私ばかりが仕事、家事、育児を……と疑問も出てくるが、夫の年収が多ければ、きつと働くのに反対するから、これでいいんだと自分で納得するようにしている。

夫も、働いている私に氣を使うようになり、自分のことは自分で……と靴みがきから、季節ごとの衣類の入替えなどもするようにになった。「五十歳になったらやめたい」と言う私に、夫は、「五十からがいいんじゃないか。子供も大きくなって、気がねなく働けるようになるし、やめないほうがいいよ」と言う。それもそうかなと思うが、親会社を含めて、かつて五十歳の声を聞いても勤めていた女性はいないという。そんな会社に、私いられるかしら？

五十二歳からの再就職

東京都江東区●中川祥子

突然の再就職話

今の会社に就職したのは五十二歳の時だった。前の会社を辞めてから、ちょうど一年。もうこの年では、再就職は無理と半分はあきらめかけていた。

四十七歳で消費生活アドバイザーの資格を取り、通販会社の顧客サービス室に三年勤めた。その会社は不況のあおりで千葉のほうに移転になった。とても通える距離ではない。一日の勤務時間数は少なかったものの、週五日勤務で、丸三年続けてきたせいかな、少々疲れが出ていたところだった。

ちょうどというか、高校生の息子が二年生を二回やり、やっと三年生になったばかりで大学受験も控えて大事



な時だ。一年余分に高校へ行っているのだから、もう浪人などして欲しくない。それで一年は再就職しないで我慢しようと、仕事は探さなかった。

受験の日程も決まり、もう一息と思っていた時、孫の大学進学を楽しみにし、学費の援助もしてくれていた義父が亡くなった。一九九五年一月の阪神大震災だった。家をなくした義母を一時引き取った。息子は何とか進学を果たしたが、亡くなるまで現役で仕事をしていた義父に代り、義母の生活費の面倒は誰に頼めるわけでもない。一人っ子の夫や私が、義母の面倒をみなくてはならない。そろそろかと覚悟はしていたものの、こんなに突然やってくるとは思ってもいなかった。皆目、将来の設計がたたく、どうしようかと考えていたところに、就職の話が転がり込んできた。大手メーカーのお客様相談の仕事である。

前の会社での実績が採用の判断基準になったかどうかは分からない。自主的な研究会に参加し、順番ということ



面接では積極的に

会社のほうでは、派遣として雇うか
嘱託として雇うかで揉めたらしく、な
かなか面接の連絡がこない。やっと三
月も中ごろ過ぎて、面接の連絡がき
た。面接当日、三人必要という話に、
来たのは三人だったので、これは大丈
夫かなと思ったが、あとの二人はどう
見ても三十代、一人だけ五十代の私は
胸ドキドキ。

試験とか面接は本当に嫌なものだ。
初めて会う他人に一方的に評価される
というのは子どもでも嫌だろうけれ
ど、半世紀も生きてきた人間にとって
は、少々屈辱的な感じを受ける。しか
し、そんな事を考えていては就職出来
ない、ぐつとこらえて質問に答える。

「土日祭日の出勤は出来ますか」

夫は自宅で仕事しているので土日も
関係なし、息子も親がついていなくて
もいい年なので「出来ます」。あとの
二人は子どもがまだ小さいようで

を救ってくれた。

そうだ、この話を受けよう。義母は
まだ自立した生活が出来る。八十歳ま
で「疲れる疲れる」と言いながらも、
「おじいちゃんの面倒は私が最後まで
見るからね」と常々話していた通りに
なったのだから。義母の事は本人にま
かせよう。彼女は私が働くことを喜ん
でくれたのだ。

で代表をしていたことがあった。その
時、名前を覚えてもらっていたらし
く、その事務局からの紹介だった。
もちろん、そろそろ再就職をと思え
ていたのだから願ってもない話だが、
大震災でいくあてのない義母をほった
らかして就職してもいいものか、悩ん
でしまった。しかし、義母の「いい話
があつてよかったね」という言葉が私

「時々なら」。

「週五日間勤務出来ますか」

うーんこれはつまりは少々きつい。

前の会社でも短時間だったが、週五日通っていたら疲れが溜まってしまった。あまり無理はしたくない。長く働くためには疲れを溜めないことが必要。週四日にしていただけないでしょうか」あとの人は「週三日ぐらいなら」。

「給与はこれですが、よろしいですか」

三年勤めた前の会社に入社した当時の給与と同じくらい。三年前の水準に戻ることになるのだが、我慢出来ないほどでもない。

「ゼロから出発のつもりでがんばります」

「端末は使えますか」

三人とも「大丈夫です」。

今から思えば、簡単な面接で就職が決まったといえる。あと二人の内、一人は引越したばかりで通勤に不安ありということで辞退され、二人採用された。

どんな経験も役に立つ

新人研修で大阪の本社に初出張の時、電話での相談窓口ということで、電話対応の実践の研修があった。ロールプレイングで実際に話してみるのがある。これには消費生活アドバイザーの資格をとる前、派遣スタッフに登録して働いていた時に、電話をかける仕事をしていたのが役に立った。その時に本社の人が言った一言が、印象に残っている。

「安心しました」

東京の現場の人が面接し、雇ったのはいいけれど履歴書を見れば五十代、仕事が出来るとはどうか、オバサンの井戸端会議風にならないだろうか、きつと心配したのでしょね。

その年の三月初めから、生まれ故郷である岡山の親戚の家に移っていた義母のほうも、芦屋市の仮設住宅へ落ち着いている。「長年住んでいた所になりたい」と望んでいたもので、これでよ

★わいふバックナンバー

- 241号 こうして夫を変えました
255号 家事サービスを利用してみたら
257号 ああ、マンション暮らし！
258号 時事放談「私たちのゴミ問題」
259号 夫の過労死は他人ごとか？
260号 トラブル旅行記
261号 嫌われる姑・好かれる姑
263号 わが家の親子ゲンカ
264号 ふるさとの伝統行事
265号 私の初体験
266号 一世一代の買物

どうせ死ぬなら上手に死のう

死ぬのに必要な手続きのすべて

こんなにかえた

本体二二六円十税

安くはいれる有料老人ホーム

―付 退院後の療養・リハビリに老人保健施設

本体二五〇円十税

シリス老後の暮らし

お年寄りが安全に暮らすために

一五〇〇円

変わる主婦・変わらない主婦

一五〇〇円

お申し込みは電話でどうぞ。

☎〇三―三二六―四七七―

かったと思う。周りに知人も多く、かかりつけの医者もいる。

私が再就職出来たのは

再就職出来て二年半、義母の生活費の面倒をみなくてはならない。夫は相変わらず頑固で、自分の主義を曲げてまでお金を得ようとは思わないらしい。私が働かなくては、食べていけないのだ。

思えば、若きころ、サルトルとボーボワールにあこがれて、仕事を持った二人が自立した個人として仲良く暮らす、という生活を望んでいた私。なのに、学卒で就職し、二年足らずの間で二つの会社を、わがまま、世間知らずで辞めてしまった。二十年のブランクの末、仕事を始めたいと考えた時、何といってもハードルは年齢だった。

四十歳ごろから求人広告を隅から隅まで読むようになり、初めての再就職は四十五歳。新聞の折り込みチラシで、年齢不問というのを見つけた時

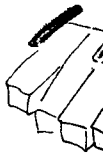


だった。バブル時の人手不足も助けとなり、派遣スタッフとなる。収入はよかったが、バブル崩壊とともに身分は不安定、次の仕事がくるかどうかは分からない。仕事内容もつまらない。一念発起、消費生活アドバイザーの資格を取る。

アドバイザーの名簿を見たとき、最初に声をかけてくれた通販会社にも、嘱託社員で就職。その時四十八歳。辞めた時は五十一歳。そして再々就職は五十二歳。

この三度の再就職で得たポイントは、まず、第一にハングリー精神。必ず就職したいという気持ちが大事だと思う。自由業で収入が不安定な夫と、学費などの援助をしてくれていた義父の死。是が非でもお金が必要。貧しい事はいいことだ。貧しさも力になるのです。

第二に家族の理解。もちろん家事を手伝うといった現実的なものだけでなく、妻を、一人の人格を持った人間として考えているかどうか、大切だと思ふ。



第三に流れに逆らわない事。話があった時は、自分に合わないかなと思っても、引き受けてみる事。案ずるより生むが易し、深く考えているとチャンスを逃してしまふ。チャレンジしてみるほうがいい。

第四に向上心、勉強も必要。仕事上で必要な知識を学ぶのはもちろん、パソコンは覚えていたほうが絶対得である。今の会社も、入社時は端末への入力だけですんでいたのが、この一年余りでOA化が進み、パソコンに変わってきた。二十代の女性は次々覚えていくが、五十代半ばの男性の中にはつい



ていけない人もいる。私は以前からパソコンは好きだったので、自学自習で勉強している。パソコンを使えるという事で、私も今の職場で生き残っているのではと感じる事もある。

第五にあきらめないこと。心の奥深くであっても、希望は持ちつつづけていたい。

今年の四月から、週四日を月十五日に変更してもらい、年齢と体力と記憶力と、義母の健康と、家事と、多くの心配を背中に背負いながらも、今仕事が出来ることがありがたく思っている。このごろである。

夫は学生に、 私は教師に

匿名(38歳)

夫は大学卒業以来、十七年間勤めた会社を七月で辞めた。七月二十日が最後の「給料日」であり、その前月末に出た夏のボーナスが最後の「ボーナス」となった。ゴールデンウィーク明けに、会社に辞職の意向を示したことも、そして最後の給料もボーナスも、自らが実行して「実現」させた。とはいえ、私たち夫婦にとって、よくぞここまで来ましたが、と誉めてやりたい出来事であった。

夫は仕事をしながら大学院へ

夫は数年前、たまたま書店で立ち読みして見つけた、社会人のために開設

された夜間大学院という制度に応募して、社会人の大学院生という身分となった。このことがきっかけで、大学時代あまり熱心に勉強しなかった経済学を再び学び、研究することとなった。そこで社会人としての経験も交ぜ合わせて、はじめて研究してゆくことのおもしろさに気づいたのである。

私は大いに応援した。夫が会社以外の様々な業種の「学友」と交流するのも新鮮でうれしかった。それに、辞令一つで動かされる会社の世界から、あわよくば、大学の教員や研究所の研究者などを、職にできたらいいと思ったからである。

もちろん数年前は、「二年間だけ修士課程で勉強する」といった、ささやかな「趣味」であった。しかし、その当時から「会社なんて辞めて、研究者としての道を歩めば？」とか、「いいわよ、会社辞めても、私が再就職すれば何とかなるわよ」とか、常に夫の勉強への意欲を、かきたてるような助言はしていた。

夫と夢について語り合うのも好きだった。「どうせ一度しかない人生なんだから、後悔のない生き方をしたいよね。本当に続けたいのならやるべきよ。会社なんて、その人の代わりは何人でもいるし、定年になったらボーイだもの。つまらないわよ。それより自分の専門を身につけて、それで生きていく生き方のほうが絶対いいわよ」

うなずく夫も、次第に夢を語る青年へと変身していき、とうとう会社には内緒で修士課程の学生となった。(もはや社会人のためのものではなかった) モーレッツに働かされるビジネスマンと、修士課程の学生との二足のワラジ生活は、果して両立するの不安は多かったが、いざとなったら学業をとるという覚悟を秘めてスタートした。

大学の研究室へは、そんなに通う必要はなかったが、夜も十時、十一時にまでになる会社の仕事をこなした上で、帰宅してから机に向うというのは、かなりきついことであった。励ましたり慰めたりした私も、受験生を一人かか

えたように結構大変だった。学業を選ぶという気持ちがあるのなら、割切って仕事は最低限にすれば、とも思えるのだが、夫には、それができない。仕事は仕事で懸命にやりたいほうだった。

地方への転勤

そんな矢先、地方への転勤が決まった。首都圏ではない、飛行機で行くほどのところだ。夫は、この時、ひとまず仕事に専念して、ちゃんとした仕事をしたという自信がついたところで、



学業に転じようと考えたようだった。ただ、大学の教授から休学を勧められた時、細々でも研究は続けていたいという気持ちから、休学はしないで、必要な時には、飛行機で教授のもとへ参上することにした。

学位を取得するということは、夫の悲願だ。しかし、やはり一二年は学業に専念しなければ無理だということがわかってきた。でも学位さえ取得すれば、少なくともどこかの大学や研究所への就職の道は開ける。問題は、その一二年（とは限らず、それ以上か

**お友達に「わいふ」を
おすすめください**

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介くださるごとに誌代プラス送料とも一号延長。

「わいふ」年間分をプレゼントにお使いください

●結婚、赤ちゃん誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。お申し込みいただければ、新読者に、贈り主のお名前とプレゼントのおしらせを同封の上、一年分、計六回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介の場合と同様に、お一人につき一号分延長させていただきます。

●また十冊以上ご購入くだされば割引がございます。

も知れない）会社を辞めてやっていけるか、それが夫婦間の現実的な話題となった。

楽天家の私は、「何とかなるよ」とすぐ言ってしまう。慎重な夫は、

「そんなに甘くはないよ。三人も子どもがいるんだぜ。不安だらけだよ」と言う。私は、

「誰だって、人と違うことをしようとする時は、リスクがあるし不安もあるわよ。でも今の時代、どうやったって生きていけるし、何とかなるものよ」私は先のことまで考えないタイプなので、口からポンポン熱い言葉が出てしまう。

「じゃあ、まず君が職につけてくれ。保険証をもらえるくらいの収入のある職に」

（おりつと）夫が学生で、それを働いて支える妻……。これも私の理想の一つだったが、急に迫られるとひるんでしまった（ちよつちよつと待って。子どもができてからも丸十年も専業主婦だったから、ほんとうに再就職なん

てできるのだろうか）。夫には大胆な選択を迫っておきながら、いざ自分の

こととなると、からつきし心の準備ができていなかった。



私が仕事をしよう

それでも、ここ数年、夫が夢の実現へ向けて奮闘している姿を見て、それを実現させてあげたいというのが、私の夢でもあることに気づいた。私自身の人生の計画からすると少々早い気持ちだったが、転勤して地方へ行ったその年の秋、勇気を奮い立たせて再就職へのコンタクトをとった。長子が小学三年生、末の子が三歳の時だった。

私は専業主婦だった期間に、通信教育で英語の教員免許を取っていた。英語を勉強したいという目的で始めた通信教育だったが、せっかくだから免許も取っておいたら、という夫のアドバイスによるものだった。

まさか英語の教師になるなんて考えてはいなかった。人生、どこで資格が生きるかわからない。運よく翌春からの再就職が決まり、今、その職場で二年目のキャリアを重ねている。というのも年収百万円以下の時間給の仕事で

はあるが。

夫の退職

転勤して丸二年たった今年の八月、夫は退社し東京に戻り、学生に返った。ありがたいことに、以前、夫が出向していたことのある財団法人の研究所から、研究テーマに関連のある仕事を発注してもらえることになり、わずかなが、収入の道は確保できることになった。

私は夫の転勤でこの地方に來たのだが、年度半ばで夫が東京生活を始めてしまっても、すぐに仕事を辞めるわけにはいかない。来年三月の切りのよいところまで続けるため、子どもとともに、ここに残っている（ちよっと逆身赴任っていう感じ）。

二年目を引受ける時、すでに夫の退職はわかっていたが、重い腰をあげてスタートさせた私の再就職に、どうしても二年目という実績が欲しかった。それを自分の履歴に加えて、次の職場

探しに臨みたかったのだ。会社を辞めたら出ることを覚悟していた社宅は、夫の上司の特別ななほからい（なんと夫の選択に共感してくれたそうだ）、年度末まで住みつづけられることになった。人の情が身に沁みた。

別居生活も覚悟して

ここまで書いてくると、私は夫の夢の実現のためにただ献身的な妻という像となるが、私も一つの選択をした。東京には戻らない（実際、住宅事情などで難しいこともあるが）。来年度から、私は出身地の東海地方の都市で生活する。そこに根をおろすことに決めた。

理由はいくつもある。出身地なので再就職のコネが多少なりともある（結婚前まで勤務していた職場や高校時代の恩師など）、子どもにこの先、転校の繰り返しをさせないで済む、夫の将来の再就職先が何処になるのか未定であるが、生活の拠点は作っておきたい、

住居として親の借家を提供してもらえ
ることになった等……。そして何より
も、そこは私の一番安らぐ土地なのだ。

私のライフワークとしてやりたいこ
とは、そこで今後、英語の教師として
働いていくことである。これは夫のた
めに再就職してから、初めて具体的に
開かれた、私自身の未来の展望だ。
『英語』に取り組んでいく面白さに、
はまってしまった。今、まさにその修
業の真最中でもある。……しかし、来
年度からの再就職先は未定である。

夫が会社を退職した後、変化したこ
とは、夫と家族の保険証が会社の保険
組合の任意継続扱いとなったこと（今
後二年間は、差額を支払えば使用でき
る。しかしこの差額が年間五十万円以
上！ 安心のための金額とはいえ、か
なりである）。そして夫が加入してい
た年金が、厚生年金から国民年金と
なった。夫の生命保険料も給料からの
天引きでなくなり、今まで、定期的な
給料で補充されていた口座の預金額
は、あい変わらずの様々な自動引き落



しと生活費のため、常に残高に注意が
必要な状態となった。つまり貯金切り
崩し生活というわけだ。

今後は、初めての別居家族の精神的
変化に、どう対応していくかである。
普段からウィークデーには、ほとんど
父親に触れ合えなかった子どもたちだ
から、毎日の生活は、それほど変わら
ない様子だが、やはり変化は感じてい
るはずだ。楽天家を自負する私も、夜
考え出すと、胸がドキドキして眠れな

くなることがある。このような形で子
どもたちをうまく育てていけるのだろ
うか。夫か私が病気になったらどうな
るだろうか。夫がこのまま就職できな
かったらどうしようか。思いは、ぐる
ぐる脳裏を駆け巡る。

けれども、朝が来ると不思議に不安
が消えている。何とかなるさ！ 少な
くとも私たち夫婦は、納得して生きて
いることに充実感を感じている。これ
は感謝すべき、しあわせな状況である。

家族の スケッチ

働く家族

千葉県船橋市 古川芳枝（60歳）

我が家も漸く、このごろ落着いてきたところである。昨年の春は、今まで二十三年間住み馴れた芝山（船橋駅より北にバスで十五分くらい）の所から、現在の高野台に引越して来たのだ。

それまでは主人と二人、出前をしなから中華料理店を営んでいた。定年退職がないのだから、健康にだけは留意し、出来る限り続けるつもりだった。

それが道路拡張のため、道路に面した所が四メートルも削り取られてしまうことになった。両隣は早々と越していったので、その分をあわせれば何とか居られそうな気もしたが、夫は「そんなうなぎの寝床みたいな家は俺は嫌だぞ」と言った。

「それじゃあなたはどうするつもり」

「俺は田舎へ行きたい」

「田舎へ行って何の仕事をするの」

「その気になれば仕事は何でもある」

私は落ちこんでしまった。今さら何で田舎なの……別れて暮らすわけにもいかず、徐々に自分の心を田舎へ向けていくしかないと思った。

ところがである。長男は会社員で同居しているが、その話をするとき、

「それならそれでいいと思うが、俺は行かないよ。そんな遠く福島まで行つて、病気にでもなつたら、俺面倒も見られないからな」

その一言で夫は田舎行を取り止めたのだ。私が流した涙は何だったんだろう。

それからが家探しである。週刊住宅情報を買ひ、目ぼしいところに線を引き、片端から物件の下見である。毎朝、店の仕込をし、開店までの時間に行く。心身とも疲れぎみだった。病気にでも成つたら引越しの方角が悪かったのよ、なんて近所から言われるかも知れない。少しばかり世間体も気になる、

「こんな時は注意をしないとイケないよ。お互い体調だけは気を付けようね」

と念を押した。

そして決めたのが現在の家である。今までの店舗兼住宅とは違い、幾分広くなったので快適であった。

夫は「今まで充分働いてくれた。俺と伴が働く。お前は好きな事をしたら」と言ってくれた。よし、これでも一端の専業主婦である。

ところが六月に入り、健康保険の集

金が来た。

「古川さん五万二千円です。この辺りじゃ一番高額ですよ、何か不動産の売買でもしましたか」

「はい、そうなんですよ」

とは言ったものの、そんなに取られるとは思っていなかった。やっぱり私働こう。私って働くような宿命なのかも知れない。



翌日から新聞に入るチラシを見、

二、三日過ぎた土曜日、病院の食堂のパートというのがあった。時給七百四十円、五十五歳くらいまでと書いてある。私はもう五十九歳である。ままよ駄目な時は仕方がない。電話をしてみると、どうにか採用になり、現在二十三年ぶりに勤めに出て、忙しく働いている。

心——このやっかいなもの

千葉県茂原市 米良恭子（48歳）

昨秋父が入院してから、実家に行く回数が増え、必要に迫られて私の車を買った。

結婚以来ペーパードライバーなので、二十数年振りに自分で運転して実家に行った日、母が言った。

「長く乗ってないのにだいじょうぶかい？」

「足ができたから鍼に連れて行くからね。おじいちゃんも心配してるよ」

このごく普通の会話が母の疳にさわり、突然逆上してまくし立てた。

何が心配してるもんか！ 口先ばかりなんだから！ みんなは騙されてるんだよ。誰に何と言われたって、もう信用しない！ 私のことなんか心配してやしない！

七十を過ぎた母が、細くなった体から無念さを絞り出すように、泣きながらめめんと訴えるのを、ただ黙って

聞いた。

声を身を心を震わせるその悲しみの核となるものは、こんなはずではなかったという結婚生活。

——母ちゃんのは、東京へ出て洋服で身を立てたかった。でも農家から話が来て、断ったのに仲に入る人が怖くて、たつた三日で相手の顔も見ずに結婚させられたんだよ。

すぐに、あーこの人は怠け者だ、一生苦労すると思った。働くのが嫌いで、大変な仕事はみんな押し付けて自分はどこかへ行ってしまった。楽ばかりしてきたから、今までもこも悪い所なんかありやしない（母はヘルニアで腰が悪いため、長い時間座ったり歩いたりできない）。この前、体中にじん麻疹ができてかゆがっていたって、知らん振りしてるんだよ。

昔からそうだった。具合が悪くてうなって苦しんでいたって知らん振り。これで夫婦かい!? 思いやりつてものがないんだよ！

お前を大学へ上げようと思って貯め

ておいたお金を、相談もなしに勝手に弟に貸してしまった。自分の身は溶けてもと思つて、歯をくいしばって働いてきたお金なんだよ。兄二人にも、母ちゃんに内緒で山を売って、そのお金を全部貸してしまつて、未だに半分も返してくれてやしない。（二人共それで会社を興している）

自分の子どもより兄弟を大事にするんだから。これが許せるのかい!? 旅行だつて自分はずい分何回も行つてるのに、母ちゃんがたつた一回行つたら、怒つて怒つてひどかったんだから！ うまい物だつてみんなパクパク食べちゃつて、母ちゃんのことなんかちつとも考えてやしないんだよ。

それでも、心配してるつて言うのかい!?

お前達はおじいちゃんが大事なんだもんね。母ちゃんを憎んでるのはよく分かつてるよ——。

翌日早朝、私のことはいいからおじいちゃんを頼むと、嗚咽しながら短い電話があつた。

あのようすでは一睡もしないで泣き明かしたに違いない。何かあってからでは遅い。

すぐに二人の妹に連絡して相談し合った。

カウンセリングを受ければいいだろうが、そういう所に行く人ではない。

母が頼りにしている叔父に事情を話して、室内犬を勧めてもらうことにした。前々から私達が言っても渋っていたのに、コロッとその気になって、どうせならと細かな注文を付けてきた。おー、こりゃあ可愛い。けどどずい分早く見つかったねえ。と感心するほ

どの早わざで、私が知人に譲ってもらったことにして、お望みのポメラニアンを届けた。

実はペットショップで十万円だったが、姉妹で出し合ったし、お金の問題ではない。

これで心の平和が保てるのなら――。

楽しいことは何もなかったと言い切り、嘆き落ち込んで眠れない日々を重ねる母。親としてではなく、同性として、一人の女性として少しでも心満たすべく、あれこれ心砕いて思いやってきたつもりだった。

それもここ数年というのではなく、かなりの年月になる。

心の持ちかたで、同じことも違って見ることができると、気付いて欲しい。広い視野で柔軟な心で物事を見て欲しい。完全なマイナス思考を少しでもいい方向へと、今までずい分色々な話をしてきたが、子どもに叱られるという受け取りかたしかない。

いつも一方的に父ばかり責めるが、私達は、鶏が先か卵が先かと同じだと



思っている。

どうにかなると行き当たりばったりな性格の夫と、世間体を重視し、几帳面で完璧主義な妻なのだ。適当を主とする父と、それを全く許さず、自分がよかれと思い、することはすべて正しいと信じて、受け入れられるべきと考える母。それが押し付けや支配として周りをどれほど圧迫しているか、気付かない。

五十に手の届く娘の私が泊まりに行っても、布団を自由に出せない。これとこれと指示があり、母好みにピシッとしよう。

一事が万事こうなのだ。一から十どころか百までもあやつり人形になるのは、生身の感情を持つ身には辛い。心を束縛されるのは辛い。

妹達は出産のとき長姉の私を頼った。迷惑がかかるからと母がいくら説得しても、頑として聞き入れなかった。だから、一緒に暮らし、口論しない父は、若いころから時々ふらっと姿を消すのを得意とするが、その心情がよ

く理解できる。

母が父の性格を把握して、この人はいくう人だと割り切って対処すれば、夫婦の関係もまた違ったものになっただろう。いかんせん、母の辞書には「妥協」がなかった。

父ががんの手術で入院したとき、みな足繁く見舞ったが、必ず母の元にも寄り、心細いだろうと頻繁に電話したし泊まりにも行つて、充分配慮したつもりだった。

退院後も父には母のいない所で具合を聞くほど気を遣つていても、虫の居所が悪いと今回のようになる。私達はいつも、父より母の感情に左右され、振り回されてきた。

「あいたたた、こら止めなさい。メルが側でじやれていて、話もできないから切るよ」

弾んできげんいい声を聞きながら、当分はだいいじょうぶだろうとまずはほっとする。

もう——どんなに理屈に合わないことを言つても受け入れよう、母の心の

安定を第一に考えていこうと決めた。

私達が欲しいのは両親の穏やかな顔なのだ。親が嘆き悲しむさまを見るのは辛い。

私はストレスで血圧が二百近くまで上がって体調を崩し、首が回らなくなった。

ありのままを受け入れるのは、なんともしんどい。

怖かった父

横浜市緑区 三田サキ

何事もすぐかつとなる、短気で気性の激しい父である。私が中学一年のころ、父はセメント会社に勤めていた。働く事の嫌いな人だった。母は麴屋を営んでいて中々忙しい。私は長女で弟妹の子守やら、夕食の支度やらで結構役に立っていたと思う。

ある土曜日の夕方、私は翌朝のご飯の米洗いをする都合上、何気なく父に「父ちゃん明日弁当持つて行くの」と

聞いてみた。すると父は血相を変え、
厳しい顔をして私の側までとんで来て
「貴様、俺を日曜日まで働かせる気か」
と言ってどなりつけた。私はびっくり
して、しまった、明日は日曜日だった
のだと初めて気がついたが、その時は
おそかった。

母の商売が軌道に乗り、忙しくなっ
た。父はこの時とばかりに「麴屋の手
伝いをしなくては、母ちゃん一人では
やっていけないだろう」と言っさつ
さと会社を辞めてしまった。

母が麴屋を始めたおかげで、私達は
戦中戦後に泣かされたあの食糧危機か
ら、意外に早く立ち直る事が出来た。



ある日、私が桜の木に登ってサクラ
ボをもいで食べていると、運悪く父が
外から帰って来た。私の姿を見るなり
とんで来て「女のくせに木に登るとは
何だ」とどなるなり、竹竿で下から私
をつつき落そうとする。怖い父だった。

そして私を学校にやりたがらない。

「貴様は学校には遊びに行くのだ。女
の子が学校になんか行かなくてもよ
い」と言っは欠席届けを書いて、友
達に頼んで学校に届けてもらうのであ
る。

ある日私が学校で授業を受けている
と、弟が来て「父ちゃんがすぐ帰って
来いと言ってる」と言う。私は何事が

起きたのかと思い、先生に断って一目
散に帰って来た。すると父が「配達に
行って来い」と一言きっぱりと言うの
で、なんだそんな事で呼びに来たのか
と思い、がっくりしてしまった。

我が家の貧乏暮らしは依然続いた。

そのころ風呂やかまどに燃料として使
うため、父は兄三人をひきつれて裏の
山に木を切りに行く事が多かった。そ
んなある日、山で一生懸命四人で力を
合わせて木を切っている時、長兄が父
の思い通りに動かないのに腹をたてた。
かつとなり、兄に向かって持っていた
鉈なたを振りあげ「この野郎殺すぞ」と
言っておどした。すると兄は「おお殺



すなら殺せ」と言って、ひらき直ったらしい。この時父は振りあげた鉈をおろす事が出来ず、切羽詰まって「ああ分家のばあちゃん助けてくれ」と心の中で叫んだそうだ。

そして何とか自力でその場の緊張感をやわらげる事が出来て、兄を殺さずにすんだという。これは父が友人と酒を飲んでいた時に話していた。父はかつとなると正気を失う事があるので怖い。

こんな生活をしているうち、私も何とか中学を卒業する事が出来た。そんな六月のある朝、父が胸が苦しい苦しいと言って、のたうちまわった。母はとび起きて町医者者の重東先生に往診を頼んだ。先生はすぐ来て診察をして下さったが、「軽い狭心症です。何かあったらまた連絡下さい」と言い残して帰られた。

それから三十分くらい過ぎたころ、母が「みんな早く起きて来い。父ちゃんがおかしいぞ」と大声で叫んだので、皆さつと父の側に行った。すると

その時、父はふーっとひと呼吸して静かに息をひきとった。四十六年の生涯だった。

何があっても父を愛し続けた母には、父の死は相当の打撃だった。日に日に痩せこけて真つ青な顔色で気分がすぐれず、ずつと医者に通い続けていた。

今になってみると、当時私は父を恨んだりもしていたが、こうして八人も仲のよい兄弟姉妹を、この世に残してくれたのはすばらしい事だったと思ひ、ほんとうにありがたいと思えるようになった。そして今では父母に深く感謝せずにはいられない気持ちになっている。

殺人事件は起こらなかったけど

東京都世田谷区 寿々木木つた
夫の転職を機に、母の高齢を考慮して私の実家へ関西から転居してきて、十三年ほど経った。長いこと一人暮ら

しを楽しんできた母は、私達五人家族が下宿人としてしか映らなかったようなのである。家族形成のスタートライン、私の結婚そのものが母の意に反していた。

「アンタの作った食事じゃ殺される」と言って、自分一人で食事を作り、一人で食べるためにキッチンを譲らなかった。そこで、食べ盛りの三人の子供達の腹を満たすため、もう一つキッチンを増築した。工事中、ホットプレートとカセットコンロの火を使い、釣り用のアイスボックスを冷蔵庫代わりに、家族を賄った。実家は老朽化して土台が傾いてしまっていたので、ホットプレート上の目玉焼は、一方向に涙を流していた。乾電池などの丸い筒状のものは、コロコロころがって壁でとまる。車の往來の多い道路沿いに位置している家で、車が通るたび地震に見舞われていた。

末子が六年生になるころ、さすがに手狭で、夫は近くのワンルームマンションを借りて、通い夫をしていた。それでも母は、六畳、四畳半、六畳の



キッチンを専有し、自分の領域に鍵をつけ、月々九万円也の家賃を私達からとりたてて、大家の権威をかざして君臨していたのである。

一年越しで母を説得し、四十五年の風雪に耐えたボロ家を解体、鉄筋四階建てのビルにした。母から居候扱いされていた私達家族に、やっとこの地に居場所ができた。

新築して五年後、同居したところから発病したパーキンソン病が、老化と共に進行した母は、八十二歳になった。最近では、老人性ボケ症候群とおつきあいも濃くなって、一日の内の数時間、誰も知らない彼女だけの幻覚の世界に遊ぶ。

「あそこの押入れの扉のところに、おばあさんが遊びに来て、二時間近くもすわっているのヨ、お茶入れてあげてちょうだいヨ」

さらに夜中になると、
「オガクズだらけのふとんに私を寝せて……」

ホウキを持ってきて、私まで掃く。

たまったもんじゃない。

「トイレの中にうじ虫がいてね……」

洗面用のコップで汲み出している。パーキンソン病のため手が震え、コップの水が踊ってこぼれる。家族がトイレ使用を切望している時、実に困る作業である。取っても汲んでも、うじ虫がいると言う。一時間くらい続くのである。

「私ね、隣の家にご飯食べに行くの」
手には着替えの入った風呂敷包み、手提げバッグ三つ。テレビ、クーラーのリモコン等々。いっぱい荷物かかえて……。

この家は彼女にとって我が家ではないらしい。昔の彼女の家が隣にあると言う。

凄まじい現状を、私以外の家族も主治医も知らない。彼女は心得たもので、私が一人家にいる時をねらったように、妄想の世界にはまり込むのである。夫や子供達がいるところで始めると、あたりを見回し、恥ずかしそうに自室にこもる。医者の前だと従順な老

婦人患者に化す。

ノイローゼ状態になっている私に、夫は、「オレの蠟人形作って置いとくか」「オレの声、テープに入れておこるか」等々。

高校二年の次男は、私の憔悴を見ていられないのか、家に居つかななっていた。息子のことが気にかかる。切なくてやり場のない私は、朝起きてきた息子に向かって生卵をぶつけた。機敏な彼は上手に身をかわし、卵は壁に直撃。砕けて散った。黄味が白壁をヌタヌタと這って流れた。彼は、おばあちゃんの居室にむかって、

「デメーが狂うからヨォー。オレのかあちゃん狂人になった。オレのかあちゃん返せ」

バシッ。メリッ。ブスッ。
我が家の玄関の壁に二つの穴ボコができた。まわりにチョップピリ血を惨ませて。

かくして、この日我が家に殺人事件は起きなかった。

(え・佐藤瑞江子)

親友は

逝つてしまった

横浜市磯子区 十文字圭子

「助けて、ケイコ」と言って握った手の温かき、「一日でも一時間でも、長く生きたい」と訴えた声。まだ、何も消えてはいない。忘れられないヨ、

ターコ。

付き合い始めてから二十五年。一度も疎遠になることなく、それこそ楽しい時も、苦しい時も、お互いに励まし

合ってきた。これからはずっとそうだと、疑いもしなかったのに、闘病生活七カ月にして、この七月二十九日、親友はひとり逝ってしまった。病名は「肺がん」。

親友ががん

彼女は昨年の十二月の初めから、子どもたちが交互に風邪を引き、その看病に明け暮れるうち自分も調子が悪くなり、何度か内科にもかかったらしい。これは母親をしていれば、誰しも経験のあること。軽い咳が止まらないというくらいの症状だったから、そуг気にも留めずにいたのが、年が明けてからは食欲も失せてしまった。そこで、一度ちゃんと診てもらおうと、一月七日、自転車で行くのN医大病院を訪れた。

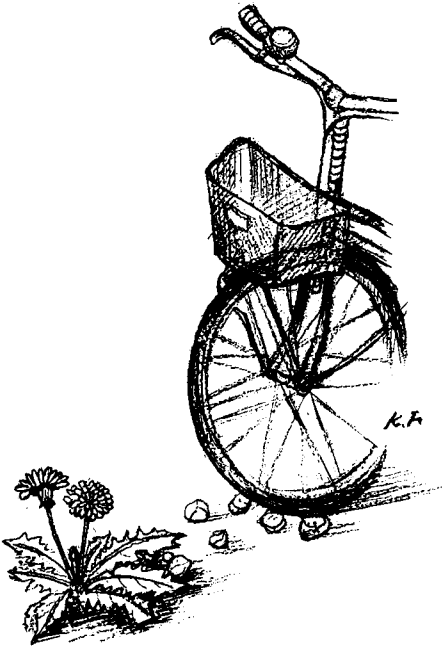
「肺炎のようですので、入院して下さい」。驚きつつも、一週間ほどで退院出来るというので慌ただしく入ったらしい。ところが二、三日もすると、「肺炎ではない」と言われた。その際

の「最悪の事も考えて」という主治医の言葉に不安を感じながら、一カ月半の間、検査すくめの日々を送ったという。

入院して半月、背中の痛みで夜中に目が覚めるようになってきたのに、特にそのことに対する治療はなされない。検査の合間の日にはすることもなく、実家に預けている二人の子どもを心配するばかり。診断は二転三転し、

まるでつきりしない。彼女だけでなく、夫君や父上も病院側の態度に不信感を募らせていたのだが、二月半ば、ついに業を煮やし、他の病院で診てもらうことにしたという。

入院時には自転車だったのが、N医大病院を出てM病院を訪れる際には、車に乗っているのも疲れるような状態になっていた。そして出された診断結



● 親友は逝ってしまった

果は、「一刻も早くがんセンターに行くこと」。電話の向こうの鳴咽に、我ながら、情けない気休めと思いがちながらも、こう言うしかなかった。「まだ、決まった訳じゃないでしょ」

三月四日、検査結果を待つて、居ても立ってもいられず、中学からの同級生でもある夫君の会社に電話を入れる。「驚かないで聞いて。N医大からの資料を見ただけで、本人も同席の上で宣告されちゃったんだ。がんだった」

後で分かったことだが、日本でがんの治療機関としては最高のこの病院は、初診で告知する方針を取っている。それは、患者の知る権利を尊重するという欧米式の考え方にも依るのだろうが、彼女の場合、その事実はいずれにも辛すぎた。

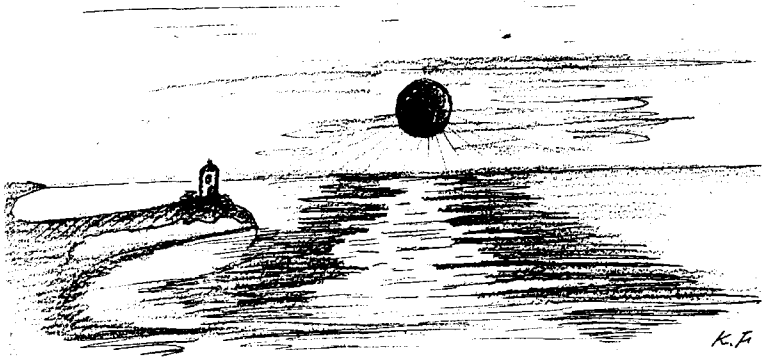
腺がんといって気管支の末端に出来るもので、既に両肺に広がっており、手術は不可能、抗がん剤もあまり期待出来ない。その事を淡々と告げられ、「なるべく多く家族との思い出を……」

というような言い方さえされたらしい。何度も「治るんですか？ 治して下さい！」と言う彼女に、医師は決して「ハイ」という返事を返さなかった、というのだ。しまいには「もうこれ以上聞きたくない」と耳を塞ぎ、彼女は部屋を出ていってしまつた。その後、夫君は「このままの状態でいくと、あと一年」という事を告げられた。

その日の午後、本人からも電話を貰つた。一体どんな話をしたのか、思い出せないくらい、ただただ一緒に泣いた。どう考えても、それしか出来ることはなかった。私は両親もまだ健在で病氣知らず、身近に大きな病を得た人は居なかつたので、全くどうしてよいやら見当がつかない。

ゆるる心

数日後、会いに行つた。茶のセーターにピッタリしたパンツを履いて、ベッドに寄り掛かつていた姿は、相変わらずほっそりとしてはいたが、顔色もよい。本当にそんな病氣なのだろう



か、と思わせるほどに変わつてはいなかった。

数時間、確かに涙もあつたが、いつもの通り笑い声のほうが多く、しみに珍しく、昔のように夫君も交え、三人で夕食を食べる。久しぶりのはずなのに、ちっともそんなことを感じない、何時会つても、まるで昨日別れたようだ。今思うと、それが最後の晩餐だつたのだが。

三月の半ば、がんセンターに入院した。初めて訪れる。検査で彼女は部屋に居なかつた。ふと傍らに目をやると、引越したばかりの新居で、初めて迎えたクリスマスマスの写真。その中で、笑っている子どもたち。毎日、どんな気持ちで彼女は眺めているのか。いくら理解しようとしても、所詮、分りようはずもない。「分かるヨ」というのは、あまりに傲慢かも知れない。じゃあ、何と言えはいいのだろうか。

帰ってくるなり、「アタシ、もうダメかもしれない」、そう言つて泣き崩れてしまう。「CTをかけたんだけど

ど、何度も同じ箇所を見てばかり……きつと他にも転移がある……」。医師たちは、その言葉や態度に、患者がこれほど神経質になっていることに、気が付いているのだろうか。

四月。「突然、重い荷物を背負わされて戸惑ったけど、どんなことをしても生きていたい。なくしてしまおうと躍起になっていたけど、がんと共存していくということを、考えなきゃネ」。少し悲しげな顔で、そんなことも言うようになった。

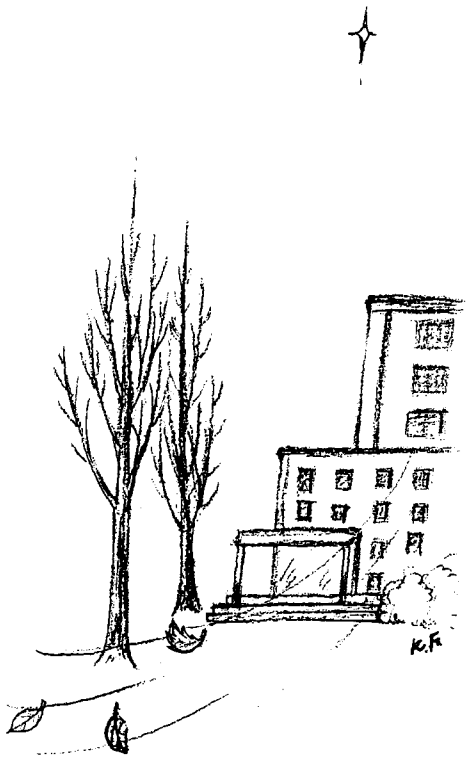
二度の手術

若い割には進行が遅いし、転移も他にはないと聞いていたが、胃がもとから弱く、吐きやすい彼女の体質を考えると、リスクの多い抗がん剤を使うのは、ためらわれた。しかしともかく、一度は試してみたいという希望を持っていたのが、連休明けに急遽「心臓に水が溜まったから、手術をした」という連絡が入った。

管を入れて一週間から十日で抜け切

れるといわれていたが、とうとう二週間にもなった。その煩わしきで背中の痛みは強くなる。痛み止めの量は徐々

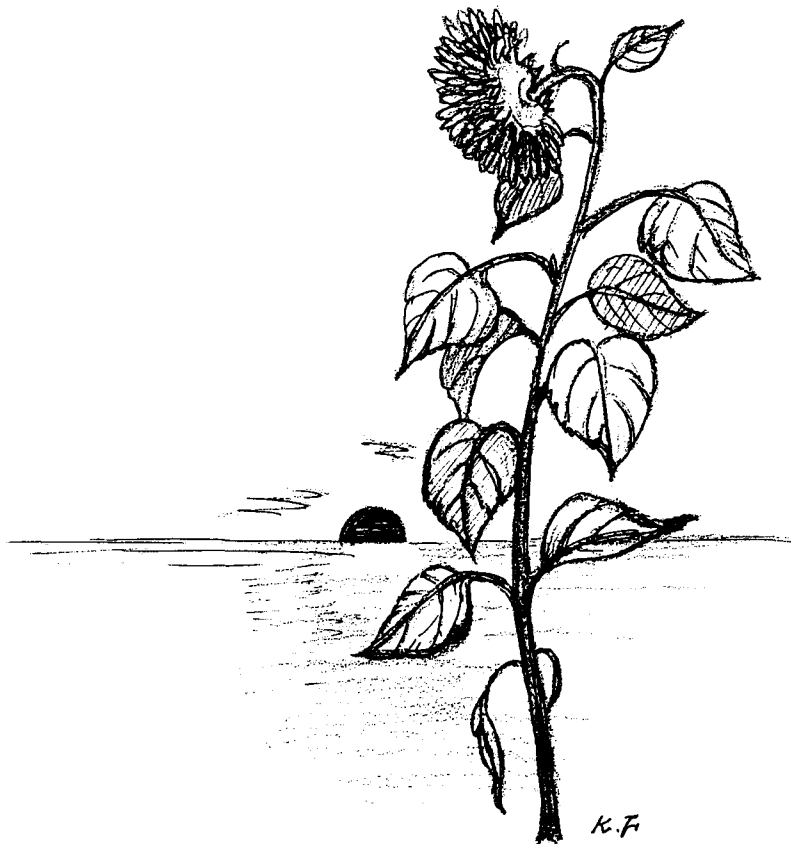
に増えていき、それに伴って吐き気止めの量の調節も、だんだんと難しいものになっていった。



それまでは週末毎に外泊をして、子どもたちの顔を見に帰っていた彼女も、このころからあまり帰れなくなっていた。初めは「病氣の話ばかりでなく、普通の話もしたいから」と、気分転換に見舞っていたが、そのうちに痛みや吐き気で、長い話は辛くなり、背中をマッサージしたりもするようになった。

六月になって、次は右肺の水を抜くために、また違う所を切開し、管を入れた。これには二十日近くもかかり、もともと八頭身で細面なのだが、パジャマから見える手足が細くなってきたのが分かる。当たり前だ。合わせて、四、五リットル近くの水を抜いたんだから。

その後も、薬を入れて胸膜を固めてしまうのに「お産より辛かった」というくらいの痛みに耐えた。七月に入って久しぶりに見た彼女の顔は、痩せて目の周りの肉が落ち、苦しきからか、穏やかだった眉の真ん中に皺が寄っていた。「何にも口に入らないの。痩せ



たでしょ」。そういう言葉を背中受けて、「そうかしら。少しね」と誤魔化すのがやっとだ。日差しは日に日に強くなり、すっかり夏になったというのに、病室の中で見える顔は青白く、険しい。そして、あんなによく笑った人が、帰るまで滅多に笑うことがなくなった。「先生から八月が危ないと言われている……」。そういう電話を夫君から貰ったのもそのころだった。

十代のころから、障害児教育がしたくて、真つ直ぐに進んできた彼女。区立の保母という恵まれた条件をあつさり捨てて、私立の施設に入り、それこそ汗まみれで頑張っていた。大好きな人と結婚し、「もし、障害のある子が生まれたらどうする？」という問いに、「普通の子と同じように育てるヨ。だって、アタシ、子どもが大好きだもの」。

そう、平然と言つてのけたあなたは、いつも強そうに見える私より、本当はずっと強いんだって、そう思っていたのに……。

闘いの日々

七月も半ばを過ぎるようになると、毎日仕事帰りに寄つていた夫君が、時折、病院に泊まり込むようになっていた。咳が酷くなり、徐々に呼吸困難を起すようになったからだ。息が出来なくなるといふのは、とてつもなく不安になるらしい。酸素吸入をして落ちついても、その恐怖から精神状態が不安定になり、誰かに付き添つていても変わらないと居られなくなるようだ。

七月二十日。午後から半日付き添う。この日は朝から酷い咳に苦しめられたが、私が行った時は既に落ちついていて、強い咳止めのせいで、酷い吐き気があり、今日は桃をほんの一口しか食べていないという。持つて行った素麺も、夜にならないと、こんな状態では無理だ。

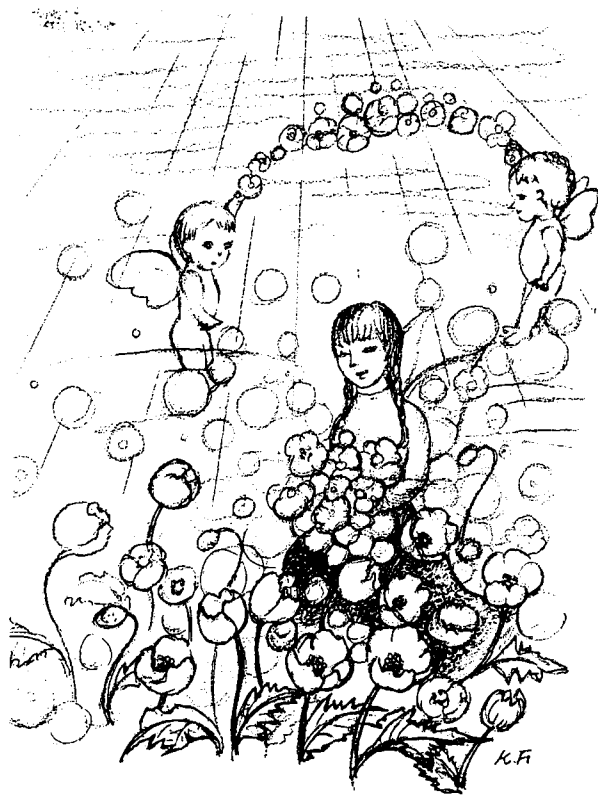
「ゴメンネ、ケイコにこんな姿を見せるとは思わなかった」「今更気になる仲じゃないヨ」。涙声にならないで、普通に返事が出来ている自分が不思議

だ。もう吐く物なんか何もないのに嘔吐は続く。背中を摩ころうとしても、そうされると余計吐き気が増すと言うので、ただ立って見ているしかない。これを彼女の夫君は毎日見ていたんだ。それも、徐々に悪くなつていくのを、どうしようもなく、ただ手を拱こまねいて……。

ホスピスという所では、どうやってこんな状態をやり過ごしているのだろうか。告知されても、人はそう簡単に生きることを諦められない。事実、こんな状態になつても、「絶対、この闘いには負けられない」、そう彼女は繰り返している。

「近頃じゃ、周囲のことを色々心配する余裕がないの。今のこの苦しさを、どう乗り切るかで精一杯。毎日本当に闘っているっていう感じ。また今日も何にもしないで日が暮れていく。これじゃ、何のために生きてるのかわかんないワ」

狭く、薄暗い個室で、一人でいるのはどんなにか心細いだろう。死の恐怖



というものと闘う術を、誰か教えて欲しい。

薬のせいで、痛みはあまりないというが、吐き気が少し治まると、目が合わないほどの眠気が襲ってくるという。「ああ、目を合わせて話が出来ないう！」と珍しく大きな声で言う彼女の

苛立ち。それでも、瘦せてしまった足を摩り摩り、「大丈夫、山あり谷ありで、そんなに急に悪くならないって」と、気休めしか言えない虚しさ。どうして、なんで、皆が必要としている、まだまだこれからのあなたが、こんな病気になってしまったの。

二十六日午後、具合が悪いので自宅から病院に戻ってきたという連絡を貰い、病室を尋ねる。「ああ、ケイコ」と酸素吸入の下から、苦しそうに言う。手は夫君の手をすがるように握りしめている。ちよつと彼が席を外すと、すかさず「こっちにきて」と私の手を握り、「もう、駄目なのカナ、アタシ。今度は左の胸だって（左肺にも水がだぶ溜まっているから、それを抜けば息苦しさが楽になるという説明を、医師から受けたばかりだった）」「そんなことないヨ。じゃ、諦めるの？」「うん、諦めない。一日でも一時間でも、長く生きたい」。はつきりと二人で交わした言葉は、それが最後だった。

翌日は意識が混濁し始め、二十八日になるともう、声を発することにはなかった。ただ、うわ言のように「やらなきゃならないことが、いっぱいあるの！」そう、何回か言っていたという。そして、二十九日、午後三時十八分、静かに息を引き取った。

（え・藤井恵子）

子供が見つめる「家族の未来」

濱崎タマエ 著

小5の児童と本気で学んだ



農山漁村文化協会
本体1714円+税

東京都品川区

佐藤ゆかり

一九九七年六月の新聞報道によると、事実婚や離婚、一人暮らしなど、多様な家族像を記載した高校の家庭科教科書が、検定で不合格になったそうだ。

文部省は「特別な家族の例だけを強調するなどバランスを欠く」と、その理由を説明するが、子供のいない夫婦が全世帯の二割弱、単身世帯が四分の一を超える現実の中、何が

特別でどんな家庭が普通なのか？

本書を読みながら、あの時に感じた素朴な疑問を思い返していた。

小学校五年生の家庭科の教科書にもかわいいうちちゃんと優しい父母、祖父（祖母）、小学生の私といった

愛と絆で結ばれた素敵な家庭像が、「一般家族」として扱われているそ

うだ。だが……、公立小学校の教師である著者は考える。子供たちのど

れほどが、こんな家族の中で暮らしているというのだろうか。

本書は理想を伝えるより、現実を乗り越えて家族と向き合い、自分自

身を前向きに見直すことを願った教師の、二年間の家庭科授業をまとめた一冊だ。

「家族」の授業は、「コンビニ」から始まる。売上急増に、単身赴任や

働く母親の増加を知った子供たちは、次に家族の必要性を討論。身内が失われた時の場面を想像すること

で、「家族」を見詰め直し、そこから戦争の悲惨さなどを突き詰めていく。六年生になって「難民」「女性の人権」「震災」「いじめによる自殺」など、今までに学んだことから

テーマを定め、「次の世代へ手渡す未来の教科書づくり」を手がける子供たち。そして、現実を受け止めるがらも、前向きに未来を築こうとする姿勢に、「子供の力は凄い」と思う。

同時に思うのが「教育」のあり方だ。自分で考え、子供の生きる力を伸ばす。教科書を超えた授業の中に、文部省が掲げるその教育目標の達成方法が凝縮されている。

子育てフォーラム



子育ての壁はわたし自身

タイ・チェンマイ **ながはたみか**

「いいのよ、無理しなくて。食べられないんだったら歯を磨いて寝なさい。ゲーが出そうなら、トイレに行きなさいよ」。感情的にならないようにと思うと、なおさら嫌らしいシンデレラの母親のような、意地悪な言い方をしてる。

「ングツングツ」と、吐き気をこらえる娘は、目に涙をうかべ洗面所へ急ぐ。「お母さん、ごめんなさい。お母さん、吐いちゃいました。エッエッご

めんなさい」。洗面所で泣きながら謝る娘に、冷たく言い返す。

「謝らないでよ。何かあなた悪いことしたの？ してないなら謝ってわたしを責めないでよ」そう言いながら、しかし何かが引つかかる。おかしいな。

母と姉の陰湿なムードに、息をひそめて食事続ける次女がいた。そうだが、たったいま行儀の悪さを叱られたのは、彼女のほうだったのに、どうしても長女が吐いたのか。

「ねえ、あなたが怒られたのじゃないのに、どうしたの？」。ふと冷静になって聞いてみると、長女はキョトンとして答える。

「ビクンてしたの。お胸のところが痛

くなって、気持ち悪くなったの」

「そうかあ、でもあなたが叱られたのじゃないんだからね。もう大丈夫？ おなか、すいてないの？ なんだ、すいてるんだったら食べなさいよ」

結局、彼女はペロリと食事を平らげた。

そうか、そうだったんだ。やっぱりわたしが怖かったんだな。あの時からずっと怯えていたのだね。

昨年九月、夫の赴任に従ってタイの地方都市にやって来た。日本人学校はもちろん、インターナショナルスクールもない街だ。三カ月の間、現地校であるタイの国立学校に通わせた後、娘二人とわたしは、インターナショナル



スクールのあるこの土地に移り住んだ。

夫の前任地を離れて、約半年間、英語から遠ざかっていたので少し心配したが、次第に言葉も取り戻し、日本人の友達も得ることができ、毎日うれしそうに通学した。

一方わたしは、父親の不在が子供に与える影響について、神経質になっていた。外国人の極端に少ない夫の赴任地を、子供の学校を理由に逃げだして来たような罪悪感があった。子供達から父親を、父親から子供達を、わたしが奪い取ったような気持ちで、常につきまとっていた。

そんなある日、子供達はアパートの部屋のすぐ隣にある、公共の広いベランダへ遊びに出かけた。同じ階に住み、同じ学校に通う八歳上の男の子が、時折遊び相手をしてくれた。

人の気配がしなくなったので覗いてみると、やはり誰もいなかった。彼の部屋に行ったのだとすぐ思った。だが、どこかへ遊びに行く時には、必ず断るよう言い聞かせてあったのに、無

断である。

頭に血がのぼったことを覚えている。怒りを封じて電話を入れた。電話口に出た長女に、約束を破られてどんなにガッカリしたかを、低い声で告げ、五時半には戻るよう命じ受話器を置いた。時計の見方も知らないのに。

鍵のかかった玄関の前で二人の娘達は絶叫した。「お母さあ、ごめんなさい。あけてえ、あけて下さああい」。しゃくりあげる二人を、引きずり込むようにして家に入れたわたしは、説教を始めた。

どうして無断で出かけてはいけないのか。どこへ行ったかわからないと、もしも悪い人が来てどこかへ連れて行かれても、お母さんはすぐに気がつかなくて、助けてあげられないだろう。悪い人に連れて行かれると、バンコクの歩道橋で見たような、コップを持ってお金をちょうだいと言って座っていた子供達のようにさせられるよ。そうすると、もうずっとお母さんと会えないかもしれないね。

これは実際、充分に注意しなくてはならないことだと今も思っているし、言い聞かせてもいる。しかし、かなり感情的になっていったわたしのやり方は、叱るというよりいじめに近かったのではないか。泣く娘達を前に、どんな意地の悪い言葉が、口から湧いて出た。同時に襲ってくる自己嫌悪と闘いながら、なお悪魔のように罵った。

思えばその日が、長女の吐き気の始まりだったのだ。学校から戻り、姉妹で仲良く遊び、母親に甘え、まるで平和な時をすごした後、夕食のテーブルにつくと、「ングツングツ」と、喉をならし、食事を摂れずに泣きながら「お母さん、ごめんなさい」と言った。心の奥では何が原因かわかっているくせに、それを丸ごと認めたくないわたしだった。「いいのよ、無理して食べなくていいから」と冷たく言い、夫には、「もう彼女と一緒に暮す自信がない」と訴えた。父親の不在が、彼女の精神のバランスを壊したのだと思いかもうとしていた。

ケロリと皿をきれいにした彼女を見て、ようやく自分の罪を認められたように思う。あれほど嫌悪していた我が父の、理不尽で感情的な怒り方を、自分が我が子に繰り返していた事実を認めよう。親の顔色を見てビクビクしながら暮した自分と、同じ辛さを、二度と娘達に味わわせてはならないのだ。

娘の笑顔

東京都足立区 福田 幸子

我が家の次女は、昨年高校を卒業し、現在アルバイトしながら演劇の勉強をしている。

六歳の時からバレエを習い始め、スボットライトを浴び、拍手を貰う喜びを知ってしまったらしい。

そのせいとは思われないが、進学校に入りながらイベント屋になった。体育

祭、文化祭、音楽祭と先頭になって取りしきってきた。

この高校は何事も（勉強さえ）本人次第という校風である。自由ではあるがなかなか厳しいことだ。行事も有志が集まり、企画、実行する。有志がいなければ中止となるのだが……。

昨年の七月に、彼女が通うバレエスタジオの発表会が、地元のギャラクシティーのホールで行なわれた。

「花と雫」という小品集を踊った。

三、四歳の子供たち八人が、彼女を中心にして輪になり、取り囲む。その子供たち一人ひとりに、何かを与えるかのように、すばらしい笑顔と共に手を差しのべている。

客席から観ていた私は、胸の中がろうそくを灯されたように、ほの明るく、じわつと温かくなった。

あの娘に、あんな笑顔ができるなんて信じられない。私がちよつと叱言（こいご）をいうと、こおり水を掛けられたような思いをさせる目付きで見る彼女。バラエティー番組を見ていて、おもいつき

り大声で笑う彼女。世間の不正に怒る彼女、マンガを見て涙する彼女。

自分の感情をストリートに出す、彼女の十九年間を見つめてきたが、あんな慈愛にあふれた、聖母マリアを思わせるような笑顔は（少々、オーバーかな）、目にしたことがない。

「真ん中に立って踊っている大きな子は、私の娘です」と観客に大声で自慢したくなった。自分の席の周りをおもわず見ていた。

感激を娘に伝えたくて、幕になると同時に席を立ち、地下にある楽屋へと急いだ。

「いや待てよ。親バカな私だから、ス・パ・シイ笑顔に思えたのかな？ 超近眼だから、ふんわりと温かな、とびきりの笑顔に見えたのかな？」

自問自答しながら階段をかけ下りた。衣裳替えをしている子や、出番を待つ子やらでごったがえしている部屋の中から、娘を探しだす。

「恵！ すごくよかったわよ。特に笑顔がすばらしくて涙が出そうだった」

「演技！ 演技！」
と娘。

先輩「、三人から声が上がった。
「うん、びつくりした。メグがあんな

笑顔できるなんて知らなかった。よかったよ。拍手もんよ」
周りの子たちも、拍手の真似をしてくれた。「えー。演技ですよ、決まっ



てるじゃないですか」とまたくり返す。

彼女特有のテレであろう。でも他人もすてきな笑顔だと言ってくれた。私の独りよがりじゃなかったのだ。

たとえ演技であってでもいい。人を感じさせることができる笑顔が作れるというのは、すばらしいことである。

いつの日か、私にもその笑顔で向き合ってほしい。

わが家のポケモン小僧

愛知県東加茂郡

伊藤 良重

わが家の子どもたちには、物心つく前から「うちでは、ファミコンは買わないよ」と言い聞かせてきました。子どもの成長のため、というよりは、ファミコンを買ってしまったら最後、子どもたちより夢中になってしまいそうな自分が、怖かったのです。

その代わり、大きなスーパー等へ行ったときには（田舎なので、めったに行かない）、百円でやるゲームはやらせてあげる、という条件でした。

そうして、娘小五、息子小三まで乗り切ってきたのですが、この五月、息子の誕生日にねだられて、「ゲームボーイ」と「ポケットモンスター（ポケモン）」のソフトを買わされてしまいました。

今、子どもたちに大人気のこのソフト、ゲームの中で、子どもたちは主人公になり（ロールプレイング）、手持ちのポケモンを集めながら（採集）、また集めたポケモンを育てながら（飼育）、そして時に対戦相手とポケモンを戦わせながら（バトル）、百五十一のポケモン図鑑を完成させる、というゲームです。

息子のために買ったゲームですが、娘のほうも夢中で、もう一台買え、と言われないかと冷や冷やしています。でも、さすがに赤ちゃんのころからの刷り込みが効いていて、喧嘩もしなが

らですが、まあ仲よく遊んでいます。

このゲーム、すでにゲームを飛び出して、アニメ、カード、ガチャポン、ふりかけ、カレーなど、子どものまわりにあふれかえっています。

息子の友達には、ガチャポンで集めたポケモン人形をたくさん持っていて、我が家に来るとそれらを家の中のあちこちに隠して、ポケモン探しごっこをして遊んでいます。

今日は、自分たちがポケモンになって、バトルごっこをしています。

ポケモンのテーマソングを「チャララー」と口ずさんでは、

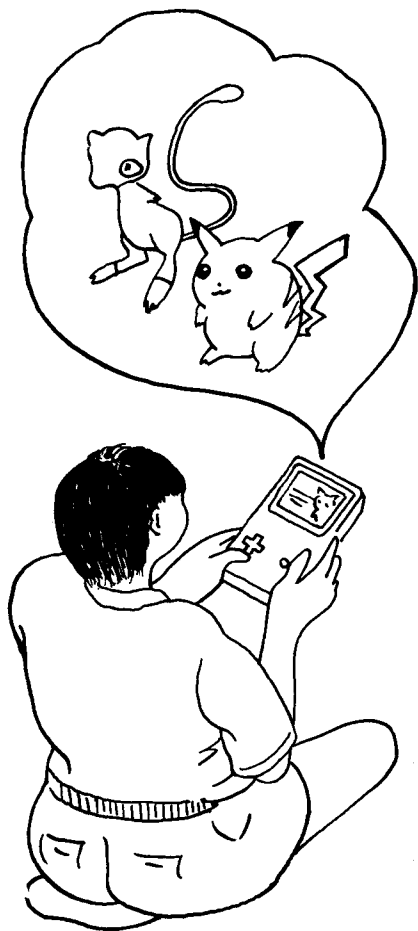
「ラピラスのさいみんこうげき！」

「ピッピのゆびをふる！」

と叫んでは、たおれこんで数を数えています。

実際に痛めつけあうわけではないので、母親としては見ていてとても穏やかです。大人たちは、かなりエキサイトしています。

ゲームボーイは、持ち運びできるので、息子は、遊びに出掛けるときは必



ず持っています。友達のほとんどがポケモンのソフトを持っているので、「通信ケーブル」を使って、よその子のポケモンと、持っているポケモンの「トレード」をすることもありますが。

うちの子は余り活発な子ではありませんでしたが、ポケモンを手に入れてから、交遊関係が広がりました。

今、ファミコンやホラービデオの影

響で、他人の痛みのわからない子どもが増えていと言われます。私が初めファミコンを禁じ手にしたのも、そういう意図がなかったとは言えません。ポケモンにばかり夢中なうちの子が、人格的に歪んで育つと言われたら、返す言葉がありません。

ですが、楽しみに遊ぶ子どもたちを見てみると、とてもまっとうに育っている、子どもらしい伸びやかさがある

とさえ感じます。

それがたとえファミコンでも、よくできたおもちゃは、子どもにとつて楽しいに違いない。おもちゃならば、いつか卒業する日が来るだろうし、あるいは趣味と自覚して、大人の付き合いができる日が来るだろう。今は、そんなふうを考えて、子どものポケモン遊びに付き合っています。

気になっていますNMS

札幌市豊平区 香山なおみ（35歳）

私は九六年七月に第二子を出産した。第一子とは五年差。混沌の乳児期を過ぎ、子育ての難しさも、少し味わい始めたところだった。

折しも妊娠後期に入ったころ、「わいふ」でNMSが紹介されていた。申し込むには、絶好のタイミングだった。

少し悩んだ。が、見送った。あれから一年余り。NMSは大盛況の様子。

申し込まずにここまでできたことを、後悔してはいない。が、どんなこととしてるのかなーと、いつも気になっている。

申し込まなかった理由は、結局「個人指導だから」に集約される。

個人指導は確かにすばらしい。育児はケースバイケースで、個人的に話さないと効果が期待できないことも多い。それでも私はどうしても、抵抗があった。私の人生にそこまで踏み込ま



ないで、とてもいうような。

何だかとても自信満々に生きているように誤解されそうだが、とんでもない。本当は私のような人間こそ、NMSを必要としているのだろう。

典型的な核家族で密室育児。実家は遠いので頼れない。マニュアル世代なので、育児書どおり進まないと不安。不安になるとつい、夫や子どもに当たり散らす悪循環。誰か助けて!と、いつも心の中で叫んでいた。それでも、私は私のやり方でやっていかないと、後悔しそうな気がした。

これが、「とてもためになる書物を

読むこと」や「友人に悩みを相談する

こと」であれば、飛びついたかもしれない。でも個人的に育児を指導してもらうというのは、……これはきつと誤解なのだろうけど……我が子を、他人に預けて育ててもらうような気がした。それでどんなにすばらしい子が育っても、充足感を味わえないような気がした。現実には、育児の充足感などとはほど遠く、幼児虐待まがいを繰り返して、自分のストレスを発散させては、自己嫌悪に陥っているというのに。

個人指導に抵抗を感じる理由は、もう一つある。費用の問題だ。数字を見

て驚いた。えー、こんなにかかるの?! 確かに、人件費その他のコストを考えれば、妥当な線かもしれない。しかし、そうでなくても育児にはお金がかかる。こまでは出せないな、と、くじけてしまった。

個人指導を受けたい人、受けられる人にはもちろん、そういうものが与えられていい。が、受けたくても手が出ない貧乏人にも、よりよい子育てを求めたい気持ちはある。救済措置の廉価版とでもいおうか、NMSを文庫本にした物などが出てくれれば、売れると思うのだが、無理な注文だろうか。

以上、カヤの外から言いたい放題言ってみた。とにかく毎日どっぶり育児につきり、後悔と迷いの中でもがいているのだから、NMSが気にならないわけがない。

もしできれば、中にいる方達、つまり指導をしている側、されている側から、あなた誤解してるよ、こんなにすばらしいことしてるんだよ、という反論を聞かせていただきたい。

(え・奥島千恵子)



あ
なたへ

スマッシュ

二六七号サーブレシ ーブの若宮さんへ

匿名

二六六号特集の「愛とお金と」の匿名さんは、彼女の文面にもあるように「自分の気持ちに正直に」行動しているのだと思います。どちらかの配偶者がすべてを知った時にどうするかは、その時になってみないとわからないでしょう。浮気の結末は、その時やその人によって、様々

な形になると思うのです。「匿名さんの意見を聞く」ということよりもあなたが書きになった「常に自分の気持ちに、素直に自分らしく生きていきたい」というお気持ちを、もっと大切にと思いました。

私は、約一年前に、夫と同じ職場の女性に呼び出され、私の夫とどんなに真剣で盛り上がった男と女の付き合いを、半年間していたかを聞かされました。その翌日、職場で自殺未遂までしているという、夫にまだ未練のある彼女と、その彼女をなんとか納得させてやってくれという彼

女のご主人と、浮気はもうこりごりだとオロオロしている私の夫と、はつきりさせようじゃないという私の四人、プラス職場の人二人に立ち会ってもらい、話し合いました。私はその場で、思い切って、自分の気持ちに正直に、考えや感情等をぶちまけました。結局、二人は今でも同じ職場にいますが、夫も彼女も、それぞれの家庭に戻りました。

あなたは今、ご主人が浮気の現在進行形なので、私の時の何倍も辛い思いをされているだろうと思います。二年半近くも同じ状態（あなたにとって納得のできない状態）だなんていやじゃない!! 私はあなたに、どう思っているのか、どうしたいのか、ご主人にどうして欲しいのか等、あなたの本当の気持ちを知り、素直に正直に行動なさることをおすすめします。

自分の気持ちを深く知り、それを自分で受け止めるということは、と

てもパワーのいることです。人の意見を聞くこと、ご主人とことん話し合うこと等は、自分を知るための手助けになるでしょう。しかし、ご自分のことを一番よく知っているのは、あなたなのです。そして、最後の一步を乗り越えていくことは、あなた自身でしかできないのです。あなたが勇気をお持ちになることを、私はお祈りいたしております。

私も日本の労働習慣に納得いかない

東京都 田口 恵子

二六七号の「納得いかない日本の労働習慣」を読んだ。私も、全く同感である。

四年前。一年間の育児休職ののち復職した私は、保育園のお迎え時間の関係で、残業をしない働き方を会社に申請し、認めてもらった。二重

保育をするなどして、出産前のように働くことが、子供にとっても、自分にとってもいいことだとは思えな



かったからである。

しかし、現実は大変だった。以前だったら月二―三十時間は残業して

いたほどの仕事量を、定時までになさなければならぬのだ。ものすごい集中力と緊張感が必要である。どうしてもやり切れない仕事を、昼休みを潰したり、家に持ち帰るなどして対処することも多々ある。比較的暇な時でさえ、子供の病氣などに備えて、先を見通した仕事をしなければならぬ。気の休まる時はない。

そんな苦勞をして仕事をこなしても、上司からは、「残業できないか」のプレッシャーが度々あるし、査定面接の時も、

「まあ、能力はあるんだけど、今の働き方では、他の社員とのバランスもあるから、意欲面をずいぶん低くして評価せざるをえないねえ」と、毎回言われている。

また、私は、ある商品の営業企画を担当しているのだが、営業マンから、

「俺たちが苦勞して遅くまで働いてるのに、売れ売れって言う担当者早く帰っちゃうんじや、やる気なく

なるよ」
と、言われたこともある。
私だけではない。同じように定時
で退社しているワーキングマザーの
Aさんは、同期の人事部の男性から、
「温情でいさせてあげてるんだか
ら、感謝してよ」



と、言われた。後輩のB子は、自分
の母親に子供の面倒をみてもらって
いるので、時間の制約はないのだ
が、復職の際、上司から、
「残業はしてもらっちゃからね」
と、しつこく念を押されたという。
私自身も、残業をしている同僚を

残して帰る、うしろめたさのような
ものを感じていた。

しかし、最近は、多少の開き直り
もあって、「どうして、この働き方
がこんなに非難されなきゃならない
んだ」と、考えるようになった。就
業時間は決まっているのだから、そ
の中で全力を尽くす、というのが、
あたりまえの働き方ではないだろう
か。残業代がかからない私の働き方
は、むしろコストパフォーマンス
だっていいはずだ。

それより、「残業が多いのが優秀
な証拠」「二十四時間会社にくす
のがサラリーマンとして当然」と
いった日本の労働習慣のほうが、よ
ほどおかしいのではないだろうか。

いくら制度が整ってきても、この
ような労働習慣がなくならないかぎ
り、家事と育児の負担が重い女性が
働き続けるのは難しい。必要なの
は、男女共の「ゆとりある働き方」
なのだ、と思う。

現在、二回目の育休中の私。今回

の復戦後も、図々しく、ヘロー残業ワーキングライフを続けていくつもりである。自分のためにも、後につづく人達のためにも。

いらないものは とりさつて

新井 純子

「人に負けないよう」「自社発展のために」そうやって日本の労働者たちは戦後やってきた。日本は世界に類を見ないほどの経済発展を遂げ、経済大国となった。

しかし……である。そういうことを世界の人々は、温かい目で見つめているわけではない。「お金があるから」「経済援助をしてくれるから」。そう、すべて「お金」で、うらやましがられているだけだ。人間性が尊敬されているわけではない。何か、根本の考え方が違っている。

二六七号「納得いかない日本の労働習慣」を読み、私自身のちよつとした体験を書きたくなった。

三年間の海外暮らしにピリオドを打ち、この五月に日本に戻った。その時、私と夫はそれぞれ車を買うことにした。私は近所の車屋で軽自動車を買った。困ったのは夫だ。車の買い替えが生きがい、趣味のような人だ。あちこちの車屋にでかけ、ああでもない、こうでもないと思ひをこめて悩んでいた。

事は夕方から始まった。夫の回った車屋から営業マンたちが、わが家にやってきた。最初のひとりはおかた。私たちはそんなことに慣れていたなかったから、妙に感心し、感動した。ここの車にしようかと心が傾いた。ところが、やってきたのは彼だけではなかった。次から次へとドアのベルを鳴らしては、頭を下げていった。私たちはうんざりした気持ちになった。さらに翌日には、電話が鳴り続けた。そうになると、なん

の連絡もない所の車にしてしまおうかという話まで出てきた。

こういうことが、日本の労働時間を伸ばしている原因だ。競争し、これでいいという際限がない。

日本人は、「得をする」「あなたは特別」ということに弱い。この手のサービスを望まない態度も必要だ。お金はとも大切なものだけけれど、そろそろそればかりという暮しはやめになりたいなあ。

子育てはつらい！

札幌市豊平区 香山なおみ(35歳)

二六七号おさない子を育てる「今日まで、そして明日から」の村上裕子さん、よくぞ書いてくださいました。

村上さんが書かれた赤ちゃんとの生活の様子は、きつと多くの家庭で起きている、いわばありふれた情景なのだと思います。でも、あまりこ

ういう文章にお目にかかりません。

その理由の一つは、乳児の母があまりに多忙で、投稿する暇もないことだと思えます。そしてもう一つは、黙り込んでしまう人が多いことではないでしょうか。

これくらい当たり前だから、みんな我慢しているんだから、こんな愚痴を公にしたら母親失格だと思われるから、……と。

わが家には、六歳と一歳になったばかりの長男・長女がいます。手のかり方にはあまり差がありません。現役の乳児の母として、そして五年前を思い返して、そうそう！と大きくうなずきながら、読ませていただきました。

腕の中では眠り、ベッドに置こうとすると泣く。泣いても抱かない覚悟で根比べをしても、虚しい後悔が残るだけ。十分とて代わりに子供を見てくれる人がいない。子殺しと紙一重。常に片手で食事。睡眠というより仮眠。そしてそれを「抱き癖」



という、無責任かつ無神経な言葉で片づける他人（身内も）。

長男がそんな状態だったころ「子育てはつらい！（わいふ編集部編）」が新聞で紹介されました。飛びつくようにこの本の購入申込をしたの

が、私と「わいふ」との縁結びとなりました。

みんなもつと、声を大にして叫びましょう。「子育てはつらい！」

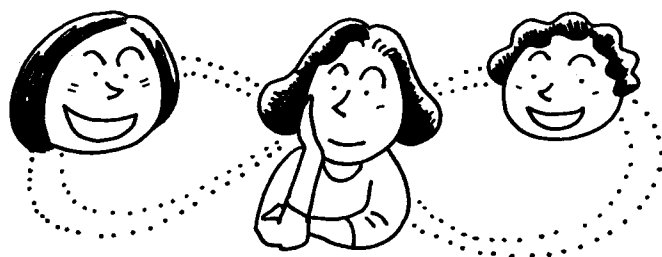
赤ちゃんはかわいい。そんなことわかってる。でも、「かわいいさ」と「大変さ」は次元が違います。育児の大先輩達は必ず「今が一番いい時よ」とおっしゃるけれど……そりゃあそうだろうけれど……。

全自動洗濯機も紙おむつもバック詰め離乳食もある時代だって、子育ては、つらいつらい！！

花岡さんへ、
横山さんへ

長野県小県郡 青木 清美（36歳）

花岡京子さんの文を初めて「わいふ」誌上で見た時（確か、二五九号）、地元の人なので親近感を持った。そして地方誌のS新聞や「わい



ふ」でもたびたびお目にかかることになった。私は勝手に花岡さんを目標に決めた。

二六五号「私もひとこと」の文を見た時、なんてドライな人だろう、核家族で育ち、核家族で暮らしている人だろうと思った。二六八号「家族と私」の文を見た時、大家族で暮らしているというのを読んで、自分がだいぶ誤解していたのを知った。その文には二六七号「サーブレシップ」での横山さんの批判に対して、「私のことなんて何も知らないくせに、無責任に批判しないでよ」との花岡さんの気持ちが出ていたような気がする。

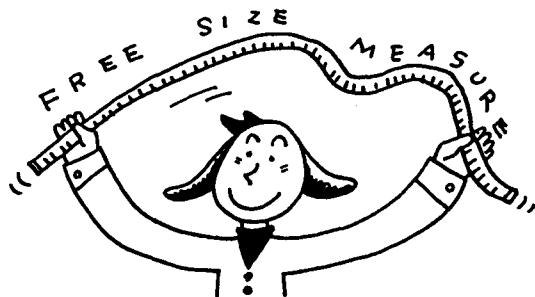
私も横山さんと同じ、義父母と半同居生活。実家では六十歳の病気の母はまだ、八十五歳の祖母にいじめられている。「嫁と姑」キレイごとでは片づかないことを、私は骨身にしみて知っている。自分がうまくいってるからといって、他人もうまくいくとは限らないのだ。

二六八号時事放談 を読んで

大阪市旭区 宮崎 貴子

「一つのモノサシで全部をはかるんじゃないで、なるべくモノサシを長くするとか広くする」。これが「わいふ」の特長なんだろうなあ。時にカケキだったりする!? アマチュアの強みを生かした、その人その人の歴史や現状が、ひしひしと伝わってくるのが面白いし、興味深い。これってちょっと作ってない? みたいなことが「わいふ」にはない(と信じている)。それが他誌にない「わいふ」のよさだと思う。

そして「自分の持っている話の一番いい部分を出してしまうと、あとはつまらなくなる」とはまさしく耳の痛い言葉だ。そう、誰だって得意分野と不得意分野が、顕著にあるはずだ。かくいう私も毎回ネタには苦



労している。できるだけアンテナを広く持つて、フレキシブルな考えができるようにと心掛けているものの、やはりこの部分アウトつてのが一つ二つ、いや五つ六つはある。せめて得意分野の範囲をすこし広

げ、そこで多方面に多岐にわたって考えていくしかない、のかもしれない。個人にも長く広いモノサシが必要なのだと、改めて痛感させられた。毎日毎日が、そして人間一生勉強なんだな。さあ、頑張るぞ。

高宮みかさん

新潟県中蒲原郡 小林 智枝(55歳)

いつも真つ直ぐな芯がすーつと通っている、高宮さんの文章が好きです。二六八号エッセイスト・クラブの「ビバ 百歳！」もよかったですね。ご家族のそれぞれの姿がよく描かれていて、理解できるのです。百歳の叔母様の何と立派なことでしょう。最愛の弟さんを亡くされて、これから少しでも心穏やかに過ごされますようにと、祈らずにいられません。

背筋をしゃんと伸ばして、凛とした高宮さんを想像しますが、お幾つ

なのでしょう。年齢が分かれると、行間からの想像が、より具体的に広がっていくのですが……。

話は変わりますが、私は年を重ねた方の文章が好きです。落ち着きと含蓄があるからです。男性の文章も大歓迎です。客観性があるからです。「わいふ」を読んで、色々な喜び、哀しみ、怒り、苦しみが伝わり、そこに一つひとつの人生を思います。元氣も頂いています。

「わいふ」の会員で あり続けるわけ

東京都日野市 十河 温子

私が「わいふ」の会員になったのは、結婚後まだ子供がいなかったときでしたので、もう二十年近く前になります。新聞紙上の家庭欄に出ていたのを見て、すぐに会員の手続きをしました。

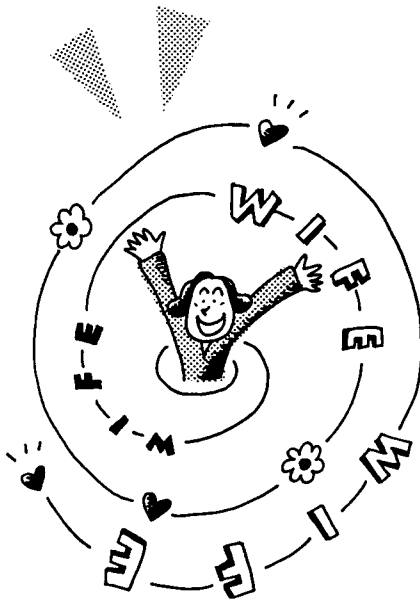
以来ツンドクだけだったり、投稿も数年に一度ぐらいの、あまり熱心な会員ではありませんでした。それでもやめずに会員であり続けたのは、共感できる文章に出会えるからでした。二六八号「おばあちゃん、元氣出そうよ」もそうでした。実の母親を介護する方の気持ちを知らなかったので、興味深く読ませていただきました。

最近頻繁に投稿するようになって、つくづく会員であり続けていてよかったと思っています。たとえ私の書いた文章を読んで、つまらないと思われる方がいらしたとしても、私は書かざるを得ない状況にあります。家族に冷たくしてしまう自分、些細なことで怒ってしまう度量の狭さ、悲しみ、嘆き、そのようなもって行き場のない思いを書くことによって、自分を見つめ、高ぶった思いを静めることができるのです。

そしてもう一つの醍醐味は、何と言っても投稿が掲載され、同じ思い

の方がいらっしゃることを知ったときです。さらに私の発言で元氣づけられたりする方がいらっしゃれば、つらい思いをするのは自分一人ではないんだと、私自身こそが励まされるのです。

今まで感想を投稿してくださった方、そしてお手紙をくださった方、ほんとうにありがとうございます。これからも暗い話を、なるべく笑えるように書いていきたいと思っています。



元不良少女から

京都府乙訓郡 入江 由里(30歳)

二六八号の私もひとこと「ヘイ！一丁上がり……」を読んで、短い文にもかかわらず、スツと読み過ごせないモノがありました。他の子と比較して、我が子はまだマシだとホッとする親の気持ち、よくわかります。他の子と比較せず、その子の個性を大切に！と、いくらきれいな事を言われても、誰だっしてしてしまう事なので、それは許せるのです。でも、「ただ、成績がイジョーに悪いだけ！」は、「何を又カシとんの!？」とムツとしてしまいました。我慢じゃないが、非行と言われる事は、中学時代に済ませた私。学校はもとより、家裁からの呼び出しもあつたし、ずい分、親には迷惑かけました。でも、あんな事しなけりゃよかった、という後悔は全くありません。

せん(もつと勉強しとけばよかったとは思う)。「あー、青春だった、楽しかった」って言えます。反抗期なんて、誰だっしてくるし、ないほうがおかしい。優等生、だった人は驚くかもしれないが、タバコや万引きも、するかしなないかは別として、特にこの時期、一度はしたくなるものだ、なんて思っています。

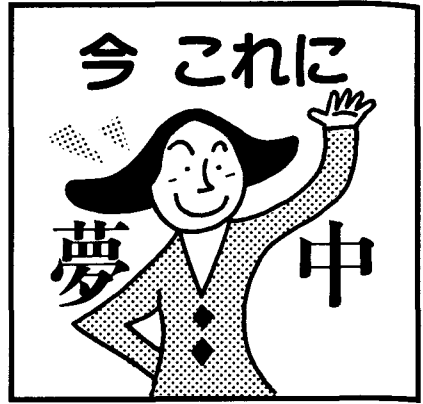
当然、我が子も、私のように荒れ狂う日々が来るでしょう、いや、来なければいけないと思っています、ずっとずっといい子できた大人なんて気持ち悪いじゃん!? ただ、お手上げだ、と放ったらかしにしないで、遠くから見守るべきです。流縞さんの息子さんが、どのくらいのか

績かは分かりませんが、それくらいの事で嘆かないでほしい。反抗期には、あまりかまうと、逆効果です。親としては新米ですが、「わいふ」の読者の中では(?)貴重な元不良少女の意見です。

(——と、えらそうに言つて)二六三号の十河さんの話にも驚かず、なつかしいなーと平然と読んでいた私でも、私達の時にはなかった(?)援助交際や売春となると、ヘエーとびっくりするのみ。まして我が子がしたとなると、もう、どうしていいかわかりません。その時は、今のコギャルに意見を述べてもらうしかないのかしら？

(え・小沢恵子)





学生してます

仙台市若林区 荒 友美 (37歳)

今日「わいふ」二六八号と共に購読料振替用紙が届いた。前号でも誌代切れの通知はあったのだが、購読を続けるかどうか迷っているうちに忘れてしまっていた。「わいふ」を読み始めて七、八年になるかな。活字大好きな私は、いつも届くとすぐにむさぼるよう

に読んでいた。読む時間は一杯あった。

それが三人目を生み終え、育児と家事の毎日に息苦しさを感じていた私は、第一子出産後から考え始めた助産婦になることを決意。助産婦の資格取得のための学校に入るには、その前に看護学校の三年が必要だということも知らなかった。しかし「やると決めたら何が何でも」タイプの私は、通信教育の教材を頼りに、看護学校受験のための勉強を始めた。

末子が二歳の春だった。翌年の春合格すれば三歳で、保育所に入れるにも丁度よかった。そのころ福島県に住んでいたのだが、翌年あたり仙台に転勤になりそうだという夫の言葉に、「それなら受験は仙台だ」と、仙台の地理も全くわからず、住む所もどうなるかわからないのに、勝手に決めていた。順調にいけば四十歳になる前に資格が取れるし、やるなら今だなどと興奮していた。

そして翌春、受験科目の勘違いというハプニングがあったものの、授業料





が安いという理由で選んだ国立病院附属の看護学校に、幸いにも入学することができた。十八歳の若者四十八人に囲まれて、自己紹介に始まった久し振りの学生生活。二年生の前半までは校内での授業が中心で、家事、育児もなんとこなせた。それが隣接する病院での本格的な実習が始まった、二年生後半から三年生の今まで、とにかく忙しい。朝は小学校五年生と二年生の二人より一足先に出る。保育所の末子は夫に送って貰って貰うが、夫が出張

などではない朝はパニックで、前後から緊張してしまう。

病院での実習は、看護婦が指導者として付けてくれるのだが、事前学習と受け持ち患者に関する記録が大変なのだ。指導者によっては物の言い方を知らないような人もいて、それが年下だったりとかなりのストレスとなる。受け持ち患者の容態や指導者の都合で、帰る時間も気もめる。六時の保育所お迎えの時間に向けて、三十分自転車必死にこぐ。帰り着くと夕食

の仕度諸々。

これは仕事を持つ母親は皆同じだからよいとして、違うのはこれから。子どもが寝るのを待てず、騒ぐ横でレポートや記録を書き始める。テスト前などは「本読んで」の声に「テスト終わったからね」と答え、寝なさいの連呼。なにせテスト科目の数が半端じゃないのだ。今は、国家試験や助産婦学校受験のための勉強が加わった。

夕食もどんどん手抜きとなり、子どもを叱る（怒鳴る）回数もいきおい増えて、こんなでいいの？の毎日。身体もクタクタ、子どもに手をかけてやっていない後ろめたさで心も重い。とてもじつくり「わいふ」を読む時間はない。看護学校がこれほど忙しく、大変なものとは思わなかった。人の生命にかかわる仕事だから、当然といえば当然なのだが。来春、希望通り助産婦学校に受ければ泊まりの実習もあり、もっと忙しくなるだろう。

私の自己実現のために、子どもの「よそのお母さんは、家のことと

ちゃんとやってるよ」の声に耳をふさぎながら机に向う。今挫折したら、今までの三年が全部無駄になる。夫に協力してもらったこともだ。ここはやはり、自分の助産婦姿を思い描きながら突き進むしかないか。

明日、「わいふ」の振込みに行くつもりだ。二六八号分だけにしようか迷ったが、一年分にすることにした。いつか助産婦になってからのことを書いてみたいから。

ピアノコンクール

大阪市鶴見区 家守恭子（67歳）

大阪の近郊、堺市で毎年ピアノコンクールが行なわれていたらしい。それが、昨年度、シニア三十五歳以上のG部門が出来たので出てはどうか、と娘



がパンフレットを送ってきた。

審査員には一流の先生方が名を連ねておられ、G部門（シニア）は課題曲なし、自由曲五分以内のみ。「参加することに意義があります、ステージであなたの音を発表して下さい」に誘われ、モーツアルトのやさしいソナタをレッスンして、幸いにも受賞できた。

去年に続き今年もG部門に出場した。ベートーベンの悲愴第三楽章を選んだのは、且つて五十余年昔弾き込んだ曲であり、メロディーをよく知っている、指さえ馴らせば何とか恰好がつくのではなからうか？ テクニクのはうは割に平板で、丁寧に弾けば曲そのものが持つ高邁さが助けてくれそう。タイムは五分以内で納まる等々……。

六、七、八月の暑い季節、クーラー全開でのレッスンは、弾くほどに難しく、表現が掴めず、テンポの乱れに、嫌でも年を感じさせられた。三カ月だけ指導をお願いした先生から、最初の数小節で審査員の評価はほぼ決まります、最初と最後を完璧に弾けばイメー

ジがよい。ミスは論外、もしミスっても止まらず先へ進むよう等のアドバイスを受けた。

九月十四日、コンクール三日目は、A部門（小学校一、二年）三十四名、G部門七名、B部門（小学校三、四年）六十名の審査と結果発表がある。

正午、私も含めてたった七名のG部門の出場者は、ステージの薄暗い袖裏に順番順に腰掛けた。

私は三番目、よくも悪くも今更どうにもならない。年相応に度胸を決めて臨み、まあ、日ごろ並に弾けたと思う。

ところが五番目のベートーベン月光第三楽章、六番目のリスト、パラフレーズリゴレットを聞き、全く打ちのめされてしまった。もうダメ！

この二人はレベルが違う。音が一つ一つ光っていた。リズムが生きていた。躍動感と迫力と囁きが交錯して、審査員を魅了させたに違いない。七番目はもう聞くに耐えられない。ロビーに出ると先生を見つけ、

「ごめんなさい、折角ご指導頂いたの

に、皆さんが上手過ぎました」

「そうですね」

弱気な返事である。

ロビーではAの結果が張り出され、Bの演奏が始まるのでこった返している。

去年に続いて今年もと密かに期し、それなりの努力はしたが、矢張り限界か。お手洗いの窓から、亭々と伸びた木々の葉越しに、木漏れ日が降りそいでいた。

もう済んだのだ。用はない。帰ろうと。

暑い盛りの百日余り、朝に晩に同じ曲を何度弾いたことか。同じ所を無理な弾き方を繰り返し、指が変形するのではと思ったり、炊事について指を庇い、「プロじゃあるまいし」と内心苦笑したり、長くまた短い日々だった。

混雑しているロビーを玄関のほうへのろろ行きかけると、反対側の窓際で、上背のある先生が飛び上がりながら私へ向かって手招きをしている。小さな子供やその親達をかき分けて行く

私は、「アツ審査の結果発表が出たんだ、なんだか先生は明るいようす」と頭が急回転を始め、息が苦しくなってきた。



掲示板の白い紙には三、五、六と大きく書いてある。

「三番？ わたし、三番やったねえ、まさか、本当？ 嬉しい」

言葉と感情のバランスが崩れ、再度

確かめる三の数字が歪み、滲んだ。

「アーお腹がすいた……」

三、五、六番の三人が口を揃え、喜びと解放感に浸り、六時の入賞者受賞式まで延々とピアノ談義を繰り広げた。

五番の月光さんは四十九歳、和歌山県から、六番のパラフレーズさんは三十六歳、三重県からの参加。それぞれ大阪と滋賀県の音楽大学ピアノ専攻科を卒業している。そしてどちらもピアノを教え、自らも師に付いて研鑽を重ねているそう。今年のG出場は小手調べ、来年はF部門（大学、一般）に出るといふ。ちなみにF部門は課題曲にバッハの平均律があり、今年の勝率は四十一名中五名という、厳しく狭き門に終わっている。

いずれにしても、コンクール出場以降一週間ほどは、快食、快眠、快？が続き、心の喜びが体の快調に繋がることをしじみと知り得た。そして、ピアノを弾く習慣が身について、目下シヨパンのワルツを楽しんでいる。

（え・鳥居植子）

今これに夢中

算数・数学を教えてみませんか

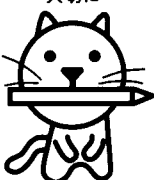
子どもたちが、算数・数学を楽しく学ぶことができれば……と考えたことはありませんか。

これまでの数学教育は、子どもたちの知的好奇心を十分満足させてきたとは思えません。

「量」と「水道方式」による、当会の教材を使って子どもたちに算数・数学を教えてみたいという人を求めています。教材の内容・指導法その他について講習会を開いています。開設後のフォローも万全です。国語・英語教室も開けます。

資料送ります。

水道方式による、
丁寧で系統的な教材
知る喜び、
学ぶ楽しさを
大切に

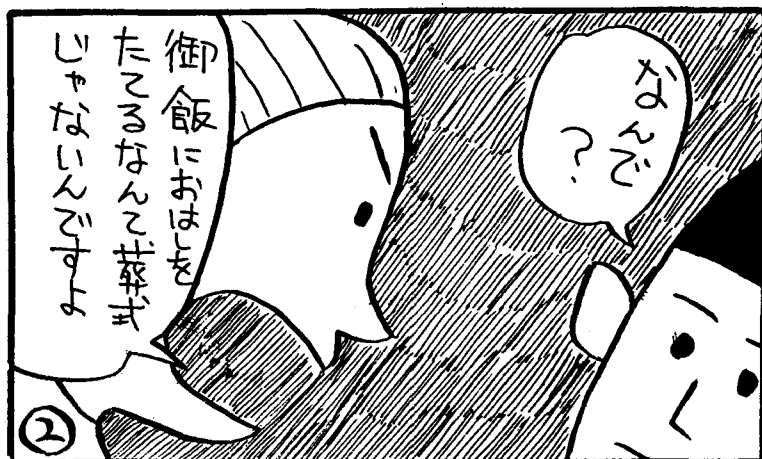


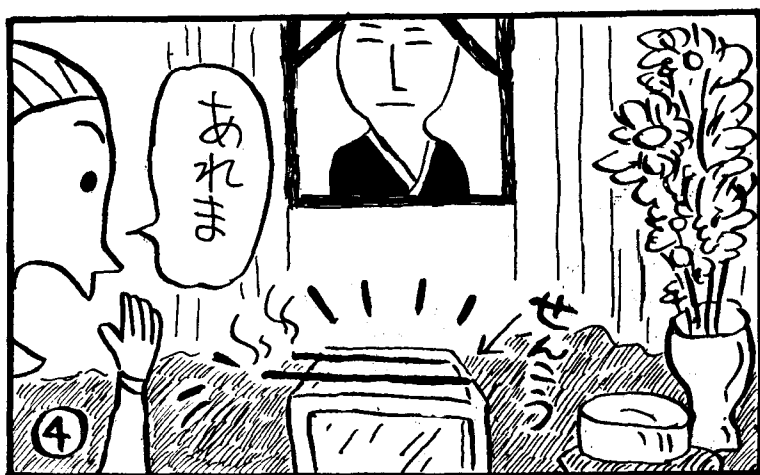
おかげさまで29年

〒160 新宿区新宿四―一―三三―七F
☎〇二二〇―四二〇―五三一
数学教育研究会

猪苗代の思い出

～おばあちゃんとぼく～ 第1話





画・W氏漫太郎

愛するって？

東京都 須賀まり子

●プロローグ●

「健やかなるときも、病めるときも……」

結婚式の誓いの言葉の中に、確かこんな一節があった。汝これを受し、敬い、慰め、助け、その命の限り……と続く。

若い二人が神妙な面持ちでそう誓いを交わし合いながらも、誰も「病めるとき」が来るとは想像できない。そういう私も、一つの決まり文句として、ただ漠然と受け止めていたにすぎなかった。

結婚四年目、この誓詞に「はい」と頷き合った真実を問われる日がやってきた。

それは十三年前、三十三歳の夏のこと。私は膠原病の全身性エリテマトーデスⅡSLEと診断された。夫も私も初めて耳にするその病名は、根治療法のないものだった。

SLEとは、免疫異常による全身の炎症を伴う慢性疾患を言い、発熱、倦怠感と共に、関節の腫れ、痛み、筋肉の痛みや筋力低下が起こる。それに加えて、腎臓、心臓、肺、神経系統など、血液の通っている場所なら、頭のてっぺんから手足の先にまで病気が及ぶ。それが「全身性」と言われる所以であるという。原因は未だ不明で、厚生省の難病指定の中の一疾病に含まれている。

活動期と安定期を繰り返す、完治することのないSLE。私は生涯この病気と共に生きていかなければならなくなった。突然、不治の病に陥った妻を抱えた夫。人生経験の浅い私たち夫婦が、この試練とどう向き合うか、まるで神様は試しているかのようにだった。

●発病・入院●

八四年八月三十一日。まだ残暑が厳しく、我が家の庭ではセミの声がオーシツクツク、オーシツクツクと騒がしい朝だった。

今日、私は十時までに病院に入ることになっている。八月初め、近くの病院から御茶の水のN大学病院を紹介され、諸検査を受けていた。その結果、一週間前に入院と言われ、ベッド待ちをしていたのだ。

「順調にいけば二カ月」と外来の医師が言っていた。二カ月……それは私にとって途方もなく長いものにした。『どうしても入院しなくちゃだめですか』。医師に尋ねると、『とても外来で治療できるような状態ではない』と叱られた。

春の職場検診で、白血球の減少と蛋白尿が指摘され、最寄りの病院で再検査を受けるように言い渡されていた。常日頃、倦怠感には悩まされていたが、他に特



別自覚症状もなかったの、そのまま病院には行かず仕舞いだった。

五月、右手の中指が突き指でもしたように腫れ、接骨院に通い始めた。一旦よくなったように見えたが、しばらくするとまた腫れた。

六月、三十八度の熱が出て、背中に激痛が走った。掛かりつけの病院で風邪と診断される。熱は三日ほどで引いたが、その後、職場で再び同じ激痛に襲われ、早退した。

そのころからだだった。顔や足がむくみ、四肢の強張りが出てきた。特に朝はひどくて、右手は痛くて布巾も絞れない。水道の蛇口に引っ掛け、左手だけで絞っていた。また、足の裏も同様、べたりと床に付けることができなかった。土踏まず側を完全に浮かし、外側だけで支え、体を左右に揺らしながら歩いていた。日に日に倦怠感が増し、鉛でも背負わされているようで、仕事も家事も辛く、氣力を振り絞る毎日だった。

むくみがますますひどくなった六月末、私はやっと重い腰を上げ、近くの病院を受診した。血液と尿検査の結果が出るや否や、うちでは手に負えないので大学病院を紹介しますから、とのこと。仕事は一日も早く辞めなさい、と医師の厳しい表情に私は驚いた。

忠告通り、すぐにでも退職したかったが、学童保育の保母という性格上そうもいかず、後任が決まって引継ぎをして……、解放されたのはそれから一カ月後の七月末だった。

その後大学病院で検査を受けている間も、少し動き過ぎると尿が出なくなったり、貧血を起こしたりと悪化の一途を辿っていた。

入院してしまえば、やはり十月末まではこの家に戻って来られないのだろうか。パジャマや洗面用具を詰めた荷物を夫が車に運び込むと、私は戸締りがてら家の中を一巡りした。



夕べ、洗濯機の使い方から予備の洗剤やトイレットペーパーの在りかを、夫に一通り説明しておいた。彼は、結婚以来一度も洗濯機に触ったことがない人だ。一緒に住んでみて初めて分かったのだが、家事は女がするべきもの、と思っっているらしい。気が向くと風呂掃除くらいはしてくれるときもあったが。

「大丈夫だよ、俺だって学生的时候は独り暮らししてたんだから」

あれもこれもと細々心配する私に、二カ月我慢すればいいんだから、任せとさ、と言わんばかりに胸を叩いた。

「俺のほうはどうにでもなるからさ。まり子のほうこそがんばってよ」

いつになく真剣な眼差しが、彼の気持ちを物語っていた。私は黙って頷いた。この温かい手と、胸と、待っていてくれる人がいる限り頑張れる、そう思った。

「行ってくるからね。ちゃんと留守番しててよ」

軒下につながれた柴犬の頭を撫でると、私は車に乗り込んだ。足立区北部の我が家からN大学病院までは小一時間の道のりだ。

千住、上野と渋滞を切り抜け、車が神田川に差し掛かると、病院の立ち並ぶ御茶の水駅界隈が見えてきた。

案内された病室は、六階の北病棟の三人部屋。左手の壁を頭にしてベッドが並ぶ。私は一番奥の窓際だった。

「お世話になります。宜しく願います」

室内を見回すより早く、同室の二人に挨拶をした。一瞬、堅い視線が私の全身に向けられたが、それはすぐさま愛想を含んだ笑みに変わった。真ん中のベッドの彼女は年齢も近そうに見え、ほっと私の中の緊張が緩んだ。

夫に付き添われながら、奥のベッドに腰を下ろすと、自然と大きなため息が洩れた。鼻を膨らませ、肩を上下させるその格好が可笑しかったのか、彼は小さく



苦笑した。

看護婦さんの問診が済むと、間もなく担当の医師が二人揃って挨拶に見えた。

「はじめまして、甲田です」

まず先に口を切った先生は、やせ型で頬がこけ、髪も長めで、医師というよりは昔の文士のような雰囲気を感じ出していた。年のころは三十代半ば。中堅医師といったところ。

並んで遠慮気味に自己紹介したのは、久我先生。フレッシュマンといって、医師になったばかりだという。体格でははるかに甲田先生より貫禄たっぷりである。

「病名のことは、外来担当の先生からお聞きになったと思いますが……」

足元のベッドテーブルの上にカルテを広げ、甲田先生が話を始めた。

「この検査所見を見ますと、ほぼ、膠原病の全身性エリテマトーデス（SLE）に間違いないと思いますが……。この病名を今まで聞いたことがありますか？」

私たちは揃って首を振った。

甲田先生はやっぱり、という顔をして話を続けた。

「これからいろいろな検査を進めながら、その辺をはつきりさせていきたいと考えていますので……。少し入院は長くなると思いますが、僕たちも一生懸命やりますので、一緒に頑張りましょう。またあとで改めて診察に伺います」

私と夫は、宜しくお願ひします、と頭を下げた。誠実そうな先生方に、安心感を覚える。

仕事が終わったらまた来るから、と言う夫をエレベーターまで見送ると、静かにベッドに横になった。入院は長くなると思いますが……。先生の言葉が頭から離れない。どうして私がこんな病気に……。ここにいる自分が自分でないような、そんな気さえる。

●ステロイド治療開始●

翌日から、ステロイド剤（副腎皮質ホルモン）一日六〇ミリの薬物治療が始まった。

現在、SLEにはこの薬が一番効果的と言われている。ステロイドがなかった昭和三十年代初期、九〇パーセントの人が一年以内に亡くなっていたという。今では五年生存率九五パーセント。この薬を飲み続けることによって、健康な人に近い生活を営むことができ、ほぼ寿命も全うできるようになった。

「しかし……」と甲田先生は顔を曇らせる。

強い薬というのは当然副作用も多いもので、ステロイドも例外ではない。胃潰瘍や感染症に掛かり易く、糖尿病、精神症状（躁鬱）、高血圧、動脈硬化、白内障、緑内障等。さらにカルシウムが破壊され骨が脆くなる。

先生が熱心に説明してくれる数々の副作用に、私は驚き、初めて薬の怖さを知った。

服用し始めて数日後、関節や筋肉の痛み、強張りなどの症状は解消された。入院前と比べると、体はもう治ったように軽く感じる。もしかしたら早く退院できるかも……、単純にも、そうにんまりする私であった。

だが、よくなったのはそこまで。依然SLEの活動は活発で、肝心な腎臓のほうで治療に抵抗した。尿蛋白は一向に減らず、甲田先生が、「ザルのような腎臓だな」と舌打ちをする。尿蛋白が増えれば血中の蛋白は減少し、血圧は上昇する。食事だけでなく注射で蛋白質を補給してみても、入れたそばから全部出てしまい、腎不全への道が懸念された。

「顔が丸くなってこないね」

先生がしみじみと私の顔を覗き込む。



ステロイドには、ムーンフェイスといって、顔がお月様のようにまん丸になる副作用もあるという。それが効いている証拠にもなる。同時に、首や肩にぼつてりと脂肪が付いて、体重が増えてくるのが普通らしい。

ところが、私は逆に体重が減り出した。測る度に一キロまた一キロと減っている。甲田先生はまたしても頭を抱えた。

精気の失せた青白い顔が、洗面所の鏡に映る。自分の顔が他人のようにも思えてくる。

治療に逆らうように痩せていく私の姿に、夫は日毎不安を募らせていた。「奴のほうが病気になるしそうだよ」。彼の友達の鎌田君が来てくれたとき、そんなふうに言っていた。

入院の日以来、特別用のない限り、いつも会社から病院へと直行してくれる夫だった。二五〇CCのバイクを蹴って、足立の自宅から区内の会社、そして御茶の水の病院からまた自宅へと、毎日渋滞の道をすり抜けるようにして通い続けていた。「ねえ、体大丈夫。無理しないで」と私が心配すると、「家にいたって酒ばっかし飲んじゃうしさ」と笑った。

明かりのついた部屋と、食卓の整った生活に慣れてしまった彼にとって、一人で鍵を開け、暗闇の中に帰る足取りは重いはず。レコードをかけながら、ぼつねんとグラスを傾ける彼の姿が目に見えかねた。

●二人のなれそめ●

夫と私はこの（八四年）暮れで結婚四周年を迎える。

彼は二十七歳。私は六歳年上の姉さん女房になる。彼が大学四年生の時に出会い、二年の交際を経て一緒になった。

二人を引き合わせたのは音楽ともいふべきか。冬のある日、とある小さなライ

ブハウスの、防音の効いた重たい扉を押し開けると、正面のステージで彼が歌っていた。

擦り切れたジーンズにTシャツ。ギターにブルースハープ（小さなハーモニカ）。ブーツの爪先でリズムを取り、張り上げた声が室内一杯に響く。カーリーヘアが揺れる度、ライトの中に飛び散る汗が光って見えた。

ラブソングもメッセーじソングもきらりと光るものがあり、聴く者を魅きつけていた。

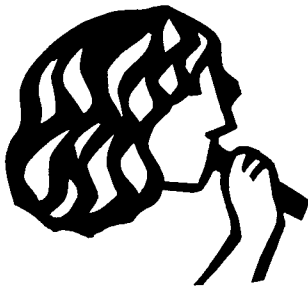
翌月再び足を運ぶと、ステージ終了後彼が歩み寄り、二人は話をするようになった。

そのころの私は、父を亡くして間もなくで、仕事もなく不安定な時期だった。九カ月前、倒れた父の介護をするため、軌道に乗риかけたスタイリストを辞めていた。父の死は予期していたことだが、心の中にぽっかり穴が開き、復職する気力も失せていた。

これからプロのミュージシャンになって、音楽の道を歩いて行きたい、と夢を語る彼といると、私まで元気になるようだった。

音楽という共通の話題があるせいか、いつ会っても話に詰まることはなく、おまけに食べ物の好みが似ていて一層親しみを感じた。本が好きだという彼は、意外と博学で、年下の物足りなさはなかった。かえって私のほうが教えられるくらいだ。反面、高校時代は剣道部の主将を務めたという人だから、蛮力な面も顔を覗かせていた。

彼は大学を卒業すると、子ども向けの自宅学習プリントを扱っている事務所で、添削の仕事を始めた。給料はよくないが、九時五時勤務の残業なし。ここから音楽活動をする時間が取れるはずだ。私は取り敢えず兄の喫茶店で働き始めた。



いざ、二人が結婚となると、双方の親は猛反対した。原因は私が年上であることと音楽を目指す彼の不安定な将来。だが、お互いの気持ちは変わらなかった。

出会ってから二年目の冬、二人の暮らしはスタートした。仕事の傍ら、地道なライブ活動と、レコード会社や音楽事務所のオーディションにもチャレンジ。日曜日はバンドの練習などに費やされた。夢を共有し、同じ方向を見て歩いて行ける人と一緒にになりたい……そんなふうに考えていた。経済的ゆとりはなかったが、充実した日々が流れていた。

夕方、定番の白いフルフェイスのヘルメットを小脇に抱えた彼が現れると、同室の人が「お待ちかねよ」と冷やかす。

「こんなに毎日来てくれる旦那さんはめずらしいよ」

甲田先生も感心するくらいだった。

夫には本当に感謝の気持ちでいっぱいだった。検査検査で疲れ果て、結果も思わしくなく、一向に回復の兆しも見えない。それでもわずかな可能性を信じて、治りたい、治したい、と頑張れるのは彼が付いてくれたからこそであった。夫が待っていてくれる、早く二人の生活に戻りたい、その思いだけが私の闘病生活を支えていた。

すでに約束の二カ月が過ぎようとしていた十月下旬の土曜日。甲田先生の計らいで三時間ほど外出許可をもらった。

「旦那さんとデートでもしてきなさい」

少しでも気分転換になるようにとの、先生の優しい心遣いであった。

明治大学の通りを、私たちは手をつなぎながらゆっくりと下った。入院した時は肌にとわりつくようだった風が、今はさらりと気持ちがいい。そんな秋はいつも駆け足で通り過ぎて行く。いつの間にか、木枯らしの季節がもうそこまでやって来ていた。



やっぱり結婚したい

結婚を逃し続けてわかった195の教訓

アーカンソー大学リトルロック校准教授

伊藤琴子 著



主婦の友社
本体1500円＋税

ピーがカケキ。

三十九歳にして、まだ独身の彼女。たかが結婚、されど結婚というわけで、結婚に対する憧れをアメリカの大学教授という立場から、専門の社会学もおりませて、面白おかしく描いている。アメリカの結婚事情なども垣間見れて、なかなか興味深かった。

「きゅうりよりも男」などという大胆な発言には思わずタジタジ。男はバスと同じ。乗りそこなっても次のが来るから心配しないで。しかし、いつまでもあると思うな生理、子供生むのを忘れたなんてことにならないように、と教訓を垂れる。

自分で描いたという、英語も交えたさし絵もかなりの腕前。味わい深いのだ。こんな調子の英語の入門書

も書けるんじゃないんですか？ 琴子先生。きつと売れると思う。うん。

「恋人同士の外見レベル」という章では、それなりの男にはそれなりの女がつくとあった。私は、自分達夫婦を、美女と野獣と信じて疑わないぞ。うちは例外？としても、うなずける場合は多い。確かに。

日本在住の普通の友達にとってさえ、結婚はすんなりとはいいかぬもの。米国に住んで、しかも大学准教授という彼女にとっての結婚が、彼女の知性と美しさをもってしても、困難なものであろうことは想像にたかない。ガンバレ琴子！

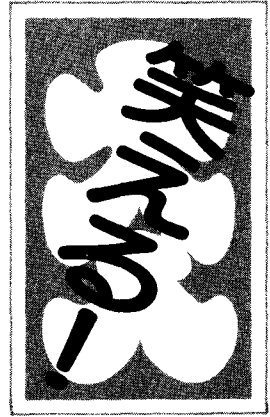
この本に続いて、「それでも結婚したい」も執筆中。「やっぱり離婚したい」なんて本だけは、くれぐれも書かないようにね、琴子さん。

熊本県天草郡

松本とみよ

「わいふ」誌では、すでにおなじみの伊藤琴子さん。前向きな「わいふ」会員（それは私です。フフッ）の出版に影響されて、本を出す気になったという。そして出来たのが、この本というわけだ。

一見して、「やられた」と思った。白馬の王子を待ち望む乙女……を思わせる、白とピンクのカバーに「お、男がほしい」のキャッチコ



誰も見えない

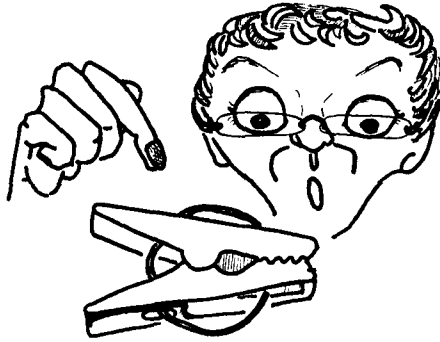
東京都武蔵野市 福田由利子（80歳）

塀のそばにスクーターの止る音がした。

ブザーは押さず、門扉をがたがたと大きな音をさせて開け、だまって玄関のドアのかぎを勝手に開けて入って来るのは、孫のT夫にきまっているから、私は回転イスをくるっと部屋の入口のほうへ回して、腰かけたまま彼を迎える。

ついこの間まで彼は、ひざの抜けた、足より細いようなジーンパンを穿いて来ていたが、最近はこちらまた足が二本は入りそうな、裾を二つ折りにした、ダブダブのずばん姿でやって来る。

「おばあちゃん、こんにちは」
「こんにちは、Tちゃん、お久しぶり」
「おばあちゃん、元気そうだね」



「まあまあね、Tちゃんも元気そうね」
「でもないよ、ボク腹がすいて今日は餓死寸前なんだ」

「お腹がすいて餓死寸前？ またまたオーバーな。ちよつと駅前あたりへ行けば、食べ物屋さんなんて、どっさりあるじゃない」

「それが財布のほうがもう餓死してんだ」
「まあ、まあ、それはご愁傷様。お茶漬くらいならすぐ出来るけど……」

「だめ、お茶漬なんかじゃあスタミナつかないよ。そんなに上等でなくていいからお肉うんと食べさせて。ね、おねがい。ボクもうぜんぜんスタミナ切れてんだ」

「まあ、色々切れてるのね。でもお肉の買い置きなんてないから、表通りの兵庫屋さんまで行って来るから、冷ぞう庫のヤクルトでも飲んで、死なないで待ってらっしゃい」

私は隣の部屋で手製のアップパップを大急ぎで着物に着替えながら、熱心にテレビを見ているTに大きな声で、

「でもねTちゃん、あなた、やせてもかれでも美容師の端くれでしょう。おばあちゃんちへ来るときは、ヒゲくらいそって来てよ。若いのに無精ヒゲなんか生やして、まるでホームレスみたいじゃない。うちへ来

るまでに途中の道で餓死したら、おばあちゃん身元確認に行つて、『はい、この汚れの子、私の孫でご座居ます』なんてはすかしいわ』

と言うと、

「え？ なに？ ヒゲ？ ああこれ生やしてんだ。これからずつと伸ばすんだ」

と、大きな声が返ってきた。ああ何をか言わんや。

「じゃあ行つて来るから、どこか変などない。着物の裾とか、おたいことか、テレビ見てないでちよつと後ろのほう見て、変などこあつて人に見られるとはずかしいから」

彼はテレビから目を離さず、

「大丈夫だよ、おばあちゃんの事なんか誰も見る人いないよ」

表通りへ出る一〇メートルくらい手前で、自転車の婦人がリンリンとベルを鳴らして「奥さん、襟に何かついていますよ」と言つて走り過ぎた。

「あつ、しまった、またやつた」

私はあわてて首の後ろに手をやった。着物を着るとき、着物とじゅばんの襟が

ちぐはぐにならないように、洗濯ばさみではさんでおいて着る。その洗濯ばさみを取り忘れるのは一度や二度ではない。

「誰も見えないことない。見てたじゃない」ああ、でも表通りへ出る前でもよかった。

⑤ 裏返しのパンツ

千葉県市川市 荒木 裕子

ある晩、お風呂に入ろうとしていた夫が自信のなさそうな口調で言つた。

「僕のパンツがいつも裏返しになってるんだけど、何か理由があるの？」

一瞬彼の言っている意味がわからなかったが、夫曰く、

「浮気を疑つてゐるのかと思つたから、ずつと裏返しのままはいてたんだ。下手に表にして、あらぬ疑いをかけられちゃたまんないからさ」

うわーつとのけぞつてしまった。確かに私は洗濯物をたたのむが下手であるし、大嫌である。四日分くらいためてしまつて、もうたたむしかない状態になつてからししぶ取りかかる。だから仕事はいつも

いい加減。裏返しのまま干したものは、表に返すのも面倒だからそのままたんでしまふ。

夫のパンツも脱いだ時に裏返しになっていたのだろう。私はそのまま洗い、干し、



たたんでしまったものらしい。

夫が、妻のひそかな陰謀ではないかと氣を回し、パンツを裏返したままはき続けていたのかと思うと、おかしいやら氣の毒やらで声を出さず笑つてしまった。

(え・橋本美智子)



ハンドルネーム

埼玉県浦和市●麦穂 (41歳)

二六八号サーブレシーブで「異なる世界の人とのコミュニケーション」を投稿された国沢さん、お仲間ですね。こんな所でパソコン仲間にお会いできるとは嬉しい限りです。何せご近所の主婦友達はほとんどの人が「私、機械苦手なの」とビデオの録画も人任せ、パ

ソコンの話など話題にのぼることはありません。

と言うわけで、パソコン話に飢えている私は、今回もパソコンのお話を少々……どこまで終わらないかも。

パソコンを始めて、照れながらも先ず嬉しかったのは、自分でハンドルネームをつけたこと。ハンドルネームとは（パソコン通信サービス業者に依って呼び方が違うかも知れませんが）、パソコン通信で文章交換するときの、お互いの呼び名です。実は「麦穂」というのも、パソコンで使っている私の名前です。親につけてもらった(?)名前をそのまま使っている人も居ますが、ほとんどの人が新たに自分で名前をつけて楽しんでいきます。

私のハンドルネームの由来は……大した意味はないのですが、一番好きな花の名前を娘につけましたので、次に好きな花の名前にしようと思いました。二番目に好きな花は夏に咲く、少女のフリルスカートを思わせる、可愛く白いサルスベリ。しかし花は可愛く

て大好きでも名前がサルスベリ、ちよつと自分の名前にはしたくない。そしてもう一つ好きなのが花ではないけれど、スツとシャキッとすがすがしい麦穂。もう一人、娘でも産んでいたら、必ずその子につけていただろう名前ですが、幸か不幸か娘は一人だけだったので、自分につけてしまいました。ですからとても気に入っています。

しかしみんなのハンドルネームときたら……慣れてしまえばその人にすっかり馴染んで、全く違和感はないのですが、初めて目にする耳にする人達にとっては妙です。なんじやそりゃの世界です。コテコテの日本人なのに横文字だったり、どういう意味?と聞きにくくなるような名前がいっぱいです。何かのきっかけで本名を知ることもあるのですが、それよりもどんな変わった名前でも、呼び慣れているほうが当然しつくりきます。遊びに行った先でも、そのハンドルネームで呼び合ってしまうわけです。周りの方達は

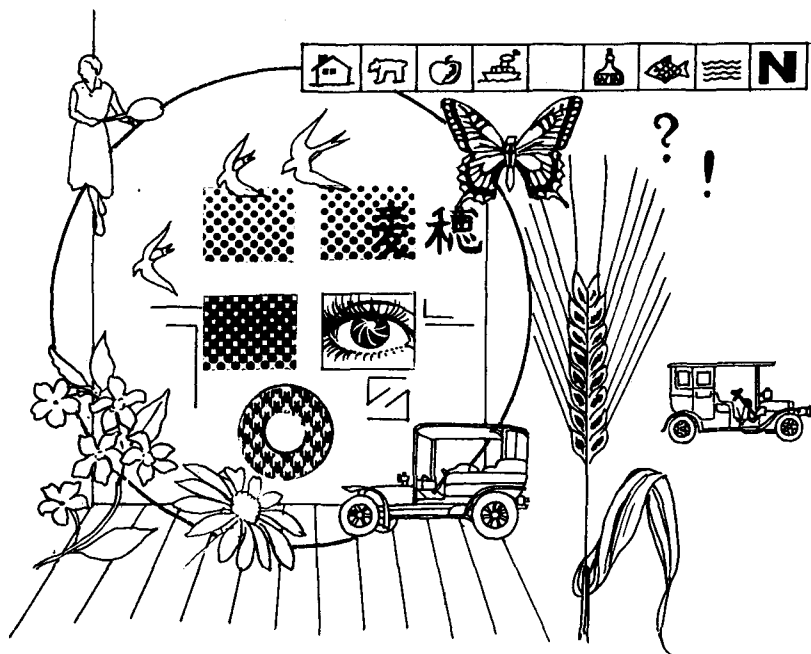
「この集団は一体何者？」と思っ
 てることでしょう。加えて年齢もバラ
 バラですから。

ある日の飲み会での帰り道、新人さ
 んでほとんど酔えなかった男性が、
 すっかり酔ってしまった女性と帰る方
 向が同じということ、彼女を送って
 いくことになりました。途中眠りに
 入ってしまった彼女を、降りる駅近く
 で起こそうと名前を呼ぶ彼。新人です
 から彼女の本名も知らず、車両の中
 で彼女のハンドルネームを呼び続けた。
 「あの時は恥ずかしかったあ」と今で
 も語りぐさになっています。そんなと
 きも、私のハンドルネームは迷惑かけ
 ない名前だと思っています。いえいえ私は
 酔いつぶれて、電車の中で眠りこける
 ようなことはありません。

「わいふ」に投稿するときのペンネー
 ムや、「ラジオに一言」のときのラジ
 オネーム etc. もう一つ名前を持つ
 というのは、もう一人の自分に会えた
 ようで、それなりの責任はありますが
 楽しいものです。

(え・弘法堂建二)

パソコンワールド



最終回

自主保育っておもしろい！

東京都練馬区 川村美代子

第四章

自主保育の未来

写楽にひかれて

次男の文彦が二歳のときから始めたコアラクラブだが、その文彦も年長になった（一九九五年）。メンバーは十数名。年中も年長も、ずっと同じ年齢の子が一人もいない状態できたけれど、もう体力的にも興味の上でも、下の子とだけ遊ぶのでは物足りない。そ

こで文彦一人のために、「ザ・ヤッホー」と名づけた活動を仲間の母親たちが組み入れてくれた。子どもは文彦一人、当番は数人のお母さんが交代でした。

あるとき、文彦が新聞で池袋のデパートの美術館で開催している「写楽展」の案内を見つけ、「これはなんの絵なの？」と私に聞いてきた。江戸時

代の版画だと教えると、文彦はとても興味をもち、急に態度をあらためて（感動したときによくあることだが）、「本物を見に行かせて下さい」と言った。

ちやうど年中と年長のヤッホーぐみが、版画でカレンダーを制作中だったのも、理由のひとつにあるようだ。活動内容は毎回仲間と相談する。このと

きも皆は気持ちよく「ザ・ヤッホー」の活動として「是非、行っておいで」と文彦を送り出してくれた。今回の当番は、私がすることにした。

『ギャラリー、トム』にて
自分の顔と彫刻の顔を触って比べている様子。ヤッホーぐみの活動。九六年二月



写楽の表現の豊かさは子どもにもストリートに伝わるらしく、文彦はときどき声をだして笑っている。

「目がおもしろいねエ。小さい紙なのに写楽さんはすごくうまいね。色もすごきれいだね」

などと言っている。それに愉快なことに、ほとんどの作品の前で文彦は画の人物と同じ顔をして、口や顎をまげたり、目でみえをきったりしているのだ。自分ではまったく気付いていない。

最後まで見て、再び見始めていたら、「お母さん、写楽さんは歌舞伎が好きだったんでしょ。お金かかるの?……歌舞伎を観てみたいいな……」

はつきり言って、ちよつとまいった。活動でここまでするのはどうかと思った。

少し考えている私を見て、「無理だったらいいよ。でももし大丈夫だったら連れていって。歌舞伎って、テレビで観たときは気持ち悪かったけど、写楽さんのはすごくいいよ

ね。なんでだろう」

「写楽さんの描いた人って、今ここにいますみたいだよ。元気になるじゃない、わからないの、お母さん」

ここまで言われたら、もう止まらな

い。「実はお母さんも歌舞伎好きなんだよねエ、文彦くらのときから観てたなあ、思いきって行こうか!」

「うん、ありがとう、お母さん」

「今から今日の券がとれるかな?」

「お母さん、本(施設のガイドブック)を見ればいいじゃない。電話してきいてみればいいよ」

と文彦のペースでどんどんすすんでいく。だけどおしつけがましいわけではなく、心地よいから不思議だ。なんだか私もうきうきしてくる。

運よく国立劇場の切符がとれ、休憩をいれて約三時間半の「梅照葉錦伊達織」——裏表仙台萩——に、私も文彦も夢中になってしまった。

途中文彦が飽きてしまうかなと思っ



石神井公園にて。九六年二月
目出し帽をかぶっているのが文彦
(六歳一カ月)
大雪の降った日、会員は自宅から三十
分〜一時間かけて、子どもをソリに乗
せて集合した。全体日の活動

りなく、子どもの集中力はなかなかの
ものだ、驚き半分、やっぱりという
納得の気持ちも半分あった。

文彦はますます忍者や歌舞伎の魅力
にひきこまれて、それらは、今では
すっかり本人のキャラクターの一部と
なっているのだからすごい！

自主保育は、こだわりや思いつきを
大切にする。アイデアと実行力次第
で、子どもの遊びはいくらでもふくら
ますことができる。

「ザ・ヤッホー」の活動も、ほかの活
動もそうだが、子ども達は自分が体験
した内容をほかの子どもに教えたり、
同じように味わわせてあげたいと思
う。そんなとき私達はその体験を、次
の活動にすぐに活かしていく。それが
可能なのは、カリキュラムも予算も話
し合いで、自在に決められるからだ。

文彦の卒会

文彦もいよいよ卒会する日が近づい
た。コアラクラブらしく送り出したい
と、皆が卒会式をという形ですか、

毎日頭を悩ませていた。遊び慣れてい
て愛着のある、近所の「みどり公園」
ですることにした。管理組合に許可を
とり、たき火でパンを焼き、おでんを
煮て食べよう。もちろん、祝い酒つき
だ。紅白の垂れ幕や饅頭もほしいと
か、思い出の歌も歌いたいなど、私達
親子をよそに、仲間たちは盛り上がっ
ていた。

手作りっていいものだ。すべては私
達次第なのだ。たとえそれが予定通り
でなくとも、誰のせいでもないし、ま
れにうまくいったときの感動はひとし
おだ。

一九九六年三月二十日、晴天。文彦
が、コアラクラブを卒会する日がやっ
てきた。

仲間の夫達も勢ぞろいし、底冷えの
する朝早くから、活動中にこの日のた
めに作った、全て手作りの飾りや、紅
白の幕を木に飾りつけていく。「第一
回卒会式」と書いた看板もある。三月
の緑の少ない公園に、パッと花が咲い
たように見えた。なんとなく、皆緊張

していた。いつもの仲間の顔が、今日は張りつめていた。初めてコアラクラブから卒会する子どもを送り出す、というめでたさと、寂しさが、複雑に入り交じっているのを誰もが気付いていた。

「ヤッホーぐみのある日の活動」を再現して大笑いした。もちろん脚本も出演も子どもが中心。ノンフィクションなだけに、活動中に出会ったチンドン屋に扮する西さん達が、襦袢を着て、フライパンを叩きながら歩く姿は、お腹をかかえて笑う以外ない迫力だった。ヤッホーぐみの手話の歌や、踊りもなかなかいい。

書の上手な多々良さんが、何度も練習して書いてくれた卒会証書には、「あなたはよくあるき、よくわらい、よくなきました」と書いてある。

卒会証書を、ザ・ヤッホーの活動に力をいれていた見坊さんが読んだとき、文彦は少し照れながらも、とても晴れやかな顔をしていた。「今まで遊んでくれてありがとう。学校へ行って待ってます」。文彦からのメッセージ

はとても簡単な言葉だった。皆、涙ぐんでいた。そして、鬼の目に涙だとお互い笑い合った。

文彦は仲間の一人ひとりに、三カ月かかって作った贈り物をあげた。

車の好きな秀憲には紙、木、コルクなどを使って駐車場をつくった。当時なんでもほうり投げてしまいがちだった大貴には、めったなことではこわれないようにと、空缶やフィルムケースや針金を使ったロボットの。

「美佳はチャラチャラしているんだけど、うるさいからネックレスにしないとなあー」

などと。よくもこんなに一人ひとりの癖や性格、好みを知っていると感心してしまった。

途中疲れもあったのに、絶対自分で作ってあげるんだと言ってその通りにしたので、自分でも十分満足したようだ。一つずつ包んでいきながら、

「あーなんだか、もったいない気がするきた。でもあげなきゃだめだし……」と言って抱きしめていた。



第一回の卒会式
文彦が見坊さんから卒会証書を受けとる
みどり公園にて。九六年三月

ヤッホーぐみの年中の子ども達から、手作りの鉛筆立てをもらった。父親もパン作りを楽しみ、めいめい

の故郷のおでん自慢などとして盛り上がっていた。

いよいよ一年生

文彦は小学一年生となり、あこがれのランドセルを背負うことになった。

「軽すぎる〜〜〜」文彦の第一声だ。そう、あれこれ詰めて歩いていたらリュックにくらべると、ランドセルは軽ちんだよね。

入学式の際、校庭に仲間全員（コアラクラブの子ども達や母親、そして少数の父親も）が来てくれ、心から祝ってくれた。

クラスごとの記念撮影では、子どもと保護者を整列させている担任の教師に、

「おばちゃん、おばちゃん、ここ（もともと教師用にあけてある中央の場所）あいているよ！ こっちおいで、よかったね」

と大きな声で呼びかけている。

何人かが笑ったり、あきれたりした。でも文彦は返事のなかった担任に、さ

らに「おばちゃん、ここがいやならかわってあげようか？」と聞いた。私は、それが誰も知り合いのいない百名の生徒とその保護者のなかだったが、ちつとも恥ずかしくなく、いつもと同じ文彦が少し誇らしかった。

家庭訪問の際に、「おばちゃん」と呼ばれている、と担任から話があったので、コアラクラブの活動内容を説明した。自主保育には先生と生徒はいないということ、おばちゃんもおじちゃんも子どもの仲間であることなど……。担任は「素晴らしいじゃないですか。今の子ども達は、遊びが本当に足りないのですよ」と話してくれた。

給食がスタートする日、文彦がなにかをランドセルに入れようとしていた。

「何を入れているの？」

「包丁だよ。あのね、お母さん、今日から給食なんだ。ずっと待ってたんだ」

「給食は自分達では作らないんだよ。給食を作ってもらって食べるんだよ」

「じゃ、文彦達はなにをするの？」

「ご飯やおかずをよそったり、食器を

かたづけるんだよ」

「エーッつまんない！ コアラクラブではいつも作ってたのに……先生は文彦達はまだ作れないと思っているのかな……へんなの」

このような会話が入学当時はだいたいあった。また、植物を観察するときに虫メガネを持っていったり、自分の顔を描くために鏡を持っていったのも、私はあとで担任から聞いて知った。

言われていないものは持ってきてはいけない、と言う教師が多い中で、担任に恵まれたと思っている。

ただ一つ大きく文彦を悩ませたことがあった。放課後、ほとんどの子どもが約束していなければ遊べないことだった。コアラクラブは地域の公園でも施設でも、はては、道を歩く人達とも気軽に挨拶したり、一緒に遊ぶことが日常であった。ゆずりあったり、ときにはけんかしたり、協調し合いながら誰とも遊ぶのがごくあたりまえのことであった。

学校へ行ってから変わりがなく、

帰宅後翌日の用意を済ませると、外へ飛び出していく。

公園に級友がいれば一緒に遊ぶのだ

南大泉地区区民館にて
縛っているのが文彦。私が写真をとる。後で女の子達が「写真をとって
いて助けなかった」と逆襲してきた

96 9 14

が、移動したりするとき（特に級友の自宅へ）には「文彦くんとは約束して
いないから来ないで」と言われ、何度
も「別にいいでしょ。遊ぶんだから同
じでしょ！」と言っていたが、なか
なかわかってもらえないと悔しがったり
していた。

私達の家にだれかが遊びに来て、そ
こにはかの友達が来ようものなら「約
束していないのに遊ぶんなら、自分は
帰る」と言って、本当に帰ってしまった
子どもも何人かいた。文彦は「一緒
に遊ばないでしょ」と何度か説明し
ていたが、あまりの固定観念に閉口
し、私に相談してきた。「どうしてだ
ろう、へんだよね」と私は言っただけ
だったが、「そうだよ」と納得して
いた。

後日、担任と会う機会があり、この
ことを話してみた。

「子ども達が悪いのではないのです。
近所の子だけでなく、園バスなどで遠
くから通っている子どもにもいるし、あ
まり大勢だと一ぺんには家に入らない

こともあるし、いろんな都合で順番や
約束を取り交わし、親が中心になって
調整することが多いのです。これは、
年々ひどくなってきました。約束の
理解が違うのです。そういう幼稚園時
代の生活習慣を、そのまま小学校に
もってきてしまうのです」

卒会してからのつながり

文彦が卒会した後、私はコアラクラ
ブの保育協力者になった。

事情で、会員だけでは持ち回りの当
番が、体力的にきつい会などは、自分
の子どもが卒会しても親が手伝うこと
はよくある。が、どちらかというと体
力は会が一番ない私だし、現役が失敗
を繰り返しながらも楽しくつくり上げ
るのがよい、と思っていたので、少し
躊躇し、考えた。

だが全員一致で私に望むことは、精
神的な支えと協力だった。地域活動や
子育ての経験から、お母さんたちの子
育ての悩みや活動する上での困ったこ
との相談にのってほしい、ということ

だ。

わたしは新たな気持ちで、活動に参加することにした。

今年の三月には美佳、早紀、隆之の三人の卒会式を終え、それぞれの小学校に送り出した。恐竜も忍者も受け止め方はそれぞれ違うし、個性もいろいろだが、楽しかった思い出は心の中にしっかりと根を下ろしている。

うらやましいのは、ときに顔を合わせると、いつでも一緒に遊んだ子ども達だけの世界へするりと入っていき、言葉も手続きもなしに、ともに一緒にいる時を楽しんでいることだ。兄弟よりも兄弟みだいに、互いを思いいたわり、尊重しあっている……。

卒会前のことだが、頑固な三人はひらがなを覚えようとしなかった。もちろん無理に教えるつもりなどもうとうない。一番の頑固ものの早紀は「字は学校へ行ってから習う。今はいっぱい遊ぶ」と言っている。文彦は「教えてやるよ、自分の『けんぼうさき』の名前だけでも読みなよ」と言って、三人



左、文彦（小学二年）
中央が真大（二歳）小さい子ぐみ
右、秀憲（四歳）ヤッホークみ年中

に教えた。もともと活動中に店の看板や表札、地名などに関心があつたし、文彦が言ったことは素直にきいて楽しくやっている。大体教えるほうもおぼつかないのだが、やっているほうは真剣なだけに、その様子を見ている私達はとても可愛らしいと感じた。

文彦が三人の本棚作り（木工）を手

伝った。いつものように自分達で設計図を書き、ノコギリで切っていく。一般の大人からみたらガタガタかもしれないが、なかには母親よりうまい子もいる。側面に好きな絵を描き、仕上げにニスを塗る。一足先に入学した文彦が、国語や算数の教科書を出来たての本棚に並べると、美佳、早紀、隆之の気分は絶好調だ。

こうして卒会後も、コアラクラブで育った子ども達の強い絆は続いている。いとおしく何よりも得難い関係だ。文彦の遊びきる姿を見ていたくてコアラクラブを始めたが、子どもは親だけでは育たないことを、痛切に感じさせられた。

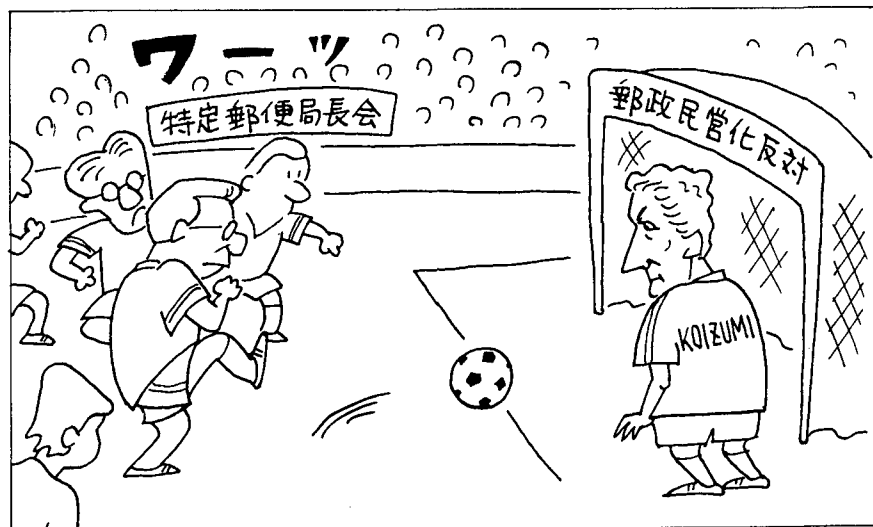
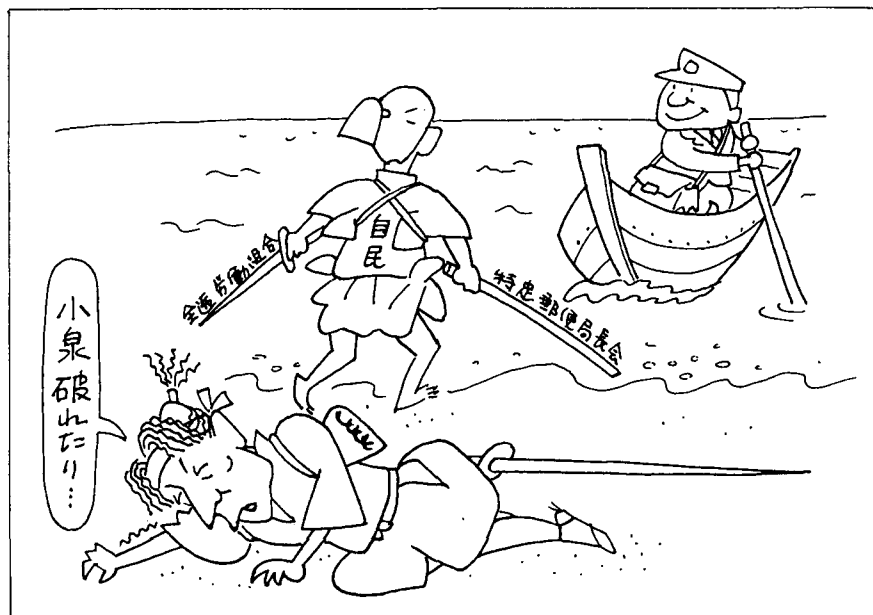
人と人との諦めない（相手の言い分を聞き、自分の言い分もはつきり言う。そして互いに育てあう）関係が、街作り、社会作りになることを知った。

自主保育には限りない「育児の夢」がある。夢はつかむものだ。自分次第で続いていくのだ。

泡も消えたか？ 郵政民営化

一筆
両断

①



座談会 私も言いたい

倒産する老人ホーム、 しないホーム



司会 和田好子

出席者 (五十音順)

五十嵐さち子・社団法人全国有料老人ホーム協会 総務部長

堀田良勝・宗教法人阿弥陀寺 敬老事業本部 (有料老人ホームを多数経営) 総務部長

見市 拓・神鋼ケアライフ株式会社 (有料老人ホームドマーニ神戸を経営) 代表取締役常務 社団法人全国有料老人ホーム協会 副理事長

水落時子・老人ホーム情報センター主任研究員

稀代の天才詐欺師

司会 今回の企画をいたしましたのは、岡山の有料老人ホーム倒産事件があって、被害者からの投稿が「わいふ」に連載されたことがきっかけです。体験者だけあって、じつに迫真的な報告でした。

このような事件がありますと、読者からみれば、有料老人ホームは全部倒産するよいうな印象を受けかねない。しかし、実際には倒産事件なんて本当に稀な話で、この三十年間で、十件に満たないんじゃないかと思っんですね。

今日は事情をよくご存知の方々においていただきましたので、そういったことを踏まえて、倒産するホーム、しないホームについて一般論としてどう考えたらいいか、お話ししたいかと思っています。

とにかく、投稿された方が裁判の傍聴をされて、また手紙が来たんですよ。結局、倒産したホームの経営者は実刑判決になったんですけども、何度も検事から(入居者にお金を)返す気があるかと訊ねられても、返す気が全然ない。

それでいて、ホームの跡地を自動車学校に貸して結構お金をとっている。本人は保釈金を払って出てしまう。傍聴席で聞いていた被害者は怒るわけです。

このようなことが起こるのは、厚生省がしっかりとしていないからだ、と手紙に書いてあった。厚生省がうんと監督すればいいという議論なんですが、いかがでしょう。



見市 拓さん

見市 (苦笑) どうなんですかねえ。今回の事件は、非常に特殊な例だろうと思えます。

水落 どういう部分が特殊なんですか。

見市 一つには、特別養護老人ホームもやっておられたそうですけども、老人ホームが金儲けの手段でしかなくて、人間を相手にする仕事だという認識のない方が、始

められたという点。

私はこれまで有料ホームの倒産を全部調査したわけじゃありませんので、厳密な比較はできませんけど、条件が悪くてつぶれそうになって経営者が変わった、という話はいくつか聞いています。

でもそれは、思いはあっても経営的な視点が欠けていたり、条件をうまく整えることができなくて、足らざるところを他の人が補ったということです。今回の場合は様々な点で特殊だと思います。

司会 金儲けとおっしゃいますが、本当に儲ける気があったのかどうか。つまり、あれほど破綻的なことをしていたら、儲からないに決まってる。

見市 こんなことを言うと叱られるかもしれませんが、特別養護老人ホームをやっておられる方というのは、経営者じゃないんです。運営者にすぎない。お金はほとんど公費から出てくる。営業努力がいらないんです。(注・特養には入所者一人につき月に二十四〜二十九万ほどの公費が支給されるので、経営は安定している)

司会 それに特別養護老人ホームは数が不

足しているから、いくらでもお年寄りが入居してくる。

見市 そう。『門前市をなす』状態です。その要領で有料ホームをつくった。勘違いの部分がすごくあったんだろうと思います。

司会 あれ、名譽欲ですね。地元のボスで、手を広げて自分をかっこよく見せたい。その欲望が強いんじゃないか、という感じがしました。

見市 NHKテレビに出ているのをチラッと見ましたけど、その時点では、悪いことをしたわけじゃない、という主旨の発言をしておられた。連載に「天才的な詐欺師」だという話が出ていましたが、彼の行為で有料老人ホーム全体を押し量られたら、とんでもないことになる。

有老協の限界

水落 私は消費者サイドの窓口ですから、そのとき全国有料老人ホーム協会(有老協)はどうなのか。とても関心があります。

五十嵐 今回の事件がおきた時点で、担当した人たちが感じたのは「ああ、無力だな

あ」ということでした。要するに、限界がある。

司会 どうにもならない？

五十嵐 ええ。

見市 有老協もそうですが、基本的に善意を前提にして、物事をすすめる仕組みになっていますから……。

水落 だけど、有老協は決算書の提出を命じていますよね。

見市 粉飾決算が出ていたんです。

水落 でも決算書はわかる人が見れば、利息と借入金の関係を見ただけでも、粉飾かどうかかわかると思いますが、どういう見方をされていたんですか。

見市 実体とは違う虚偽申告でしたが、入居人数も、徐々に増えているように言ってきました。〇〇年間たったなら、これくらいのレベルに達します、と。最初の経営計画に近い人数で入会申請が出ているから、一応有老協としては、形式は整っているとみるわけですよ。

水落 ほほう。

見市 入居者基金の申請にみあうように、入居者の人数も徐々に増えている。それに

あわせて決算書がつくられていたら、借金が少々多くても、まあ、一応経営としては軌道に乗りつつある、とみるわけです。特別な連絡がない限り、そりゃギリギリまでわかりません。



堀田良勝さん

水落 県庁は、倒産する二年前から、決算書を見ておかしいってわかってたみたいね。

五十嵐 他のホームもそうですけど、決算書で赤字なんてたくさんありますよ。

うちでも二年前に実際にやって見ていますが、「じゃあ、足りない部分はどうするんですか？」とたずねたときに、「〇〇銀行から借入れができます」と言われれば、こちらとしては、文句は言えないんです。赤字解消が、十年のところ十五年になるかもしれないけど、まあ、ナントカやつ

ていけるだろうという読みをする。

稀代の天才詐欺師、という表現がありましたが、私たちは善意に解釈しますから。

司会 しかし、すごい嘘つきですよ。とにかくもう、ペラペラと。入居者をだまして、お金を借りてるでしょ。

見市 信じられないですけどね。

司会 貸すほうも貸すほうだと思っけども。

見市 普通は、入居者から借りるなんて発想自体、浮かばないですよ。

水落 普通の老人ホームの施設長は、恥ずかしくてできないよね、そんなこと。

見市 できない。

五十嵐 さらに言えば、何年か前に、特別養護老人ホームで資金の流用があったなんて話、有老協は全然知らなかった。県はその情報を持っていたんだろうと思います。県とのつながりが悪い、と言われればそれまでですが、県も外部には言いませんよ。

水落 そういうところで、もつと有老協の権威付けがほしいと思いますね。とくに今回の介護保険なんか見ていると……。

司会 私、思うんですが、老人福祉法に有

老協の業務が規定されてるでしょ（カコミ参照）。いかにも厚生省が権威付けをしてるような印象を与える。厚生省は有老協

有料老人ホーム協会に関する福祉法の条項

第三条の二 協会は、その目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

一 有料老人ホームを運営するに当たり、この法律その他の法令の規定を遵守させるための会員に対する指導、勧告その他の業務

二 会員の設置する有料老人ホームの運営に関し、契約内容の適正化その他入所者の保護を図るため必要な指導、勧告その他の業務

三 会員の設置する有料老人ホームの設備及び運営に対する入所者等からの苦情の解決

四 有料老人ホームの職員の資質の向上のための研修

五 有料老人ホームに関する広報その他協会の目的を達成するため必要な業務

にお金を出してるんですか。

見市 出してないです。一銭も。

司会 でしょう。だから私、ヘンだと思っ

のよ。あれは完全に役人の責任逃れです

よ。有老協に監督責任を押し付けておけ

ば、自分たちは何もしなくてすむ。

水落 ちよつと小耳にはさんだんですが、

有老協の理事長にはお給料が出ていないっ

て、ホントですか？

五十嵐 はい。理事長はじめ常務理事以外

の理事には出ていません。

司会 天下りする人は？

見市 いません。

五十嵐 要するに、資金としては会費しか

ないんですよ。

司会 それで、責任負わせるだなんて、厚

生省もホント図々しいと思うよ。言われた

ら、それだけのことをやらなきゃいけない

わけでしょ、有老協の立場としては。だけ

ど、お金がなかったらやれないもの。

見市 できません、できません。

水落 もうちよつとプッシュして、厚生省

が有老協の意見をくんでくれるようなパイ

プを、通さなきゃいけないんじゃないで

しょうか。

経営母体が大事

堀田 さきほどの倒産の話ですけどね、福

祉事業というのはそんなに利益は出ません

から、やはり経営母体がしつかりしていな

いと駄目なんですよ。イザというときに補

填ができるような母体がないと、難しい。

そこに経営者の福祉哲学が、問われてくる

と思います。

司会 でも福祉からお金が出ていないのに、

福祉だと言われても困る部分がありま

すよね。堀田さんのところでは、以前、東

京都三鷹市で倒産した分譲型の老人ケアマ

ンション（ホームでない）の有老協会員で

はなかった）を、お引き受けになったんで

すよね。

堀田 はい、三年前です。入居者もそのま

ま引き継いだのは三鷹が初めてですが、入

居者が入らなくて最初から引き受けたのは、

あと二つあります。

三鷹は、大手の不動産会社が始めたんで

すけど、母体が経営に行き詰まってしまっ

た。入居者十八人が残って、一年間は管財

人が運営をして、最低限の生活はしていたんですが、入居者は一千万の介護金を支払っている。それで、まだ裁判が続いています。高い部屋だと八千万から九千万。その他に介護費用として、一千万、とられているんです。

水落 スゴいねえ。それでつぶれたんじゃ、どうしようもないねえ。

五十嵐 本社が多角経営をしすぎちゃったのですかね……。

水落 母体が倒産して、つぶれた？

堀田 うちも弁護士を立てまして、値段の折衝から入りましたけども、まず、入居者の生活を安定させる、安心感を与えることが第一。ホントにみなさん、目の色がスゴイですよ。自分の財産がなくなつて。

司会 そりやショックですよねえ。

水落 私、ちょうど引き継がれて新しくオープンした日に、三鷹に行ったんですけど、以前からいらした方々が、そりや喜んでいらしたですねえ。

司会 引き受け手がなかったというのは、今回の岡山が初めてじゃないですか。

五十嵐 かなり引き受け手を探し歩いたん

ですよ。実際に見に行つてくださったホームもあった。

水落 でも、あそこは誰も引き受けないですよ。場所が悪すぎる。あんな山奥じゃ。

見市 要するに、ビジネスといっちゃ語弊があるかも知れないけども、入居者を集められるかどうか。その点の配慮がなさすぎた。入居者が入ってくればナントカなるわけですから。

三鷹は親会社の影響を受けた連鎖倒産ですが、そういう意味で経営母体とかグループをみる、入居前に調べるということはものすごく大事でしょうね。

水落 これは要望なんですけど、神奈川県の場合は県庁内に福祉パルというところがありまして、各ホームの決算書が見られるようになっていいる。そういうシステムを有老協でやっていただきたい。決算書を読める人を置いて。

見市 今回の岡山の事件も一つのきっかけですし、公取委の警告もあって、運営の透明化、公正化のもと、各ホームの決算書を閲覧できるようにはしてあります。

水落 でも読めないからね、素人じゃ。

見市 そうなんです。誰か読める人がキチンと読まなきゃいけない。しかし、宗教法人が株式会社か、財団法人かなど、母体の違いによって決算のスタイルも違ってくる。だから、全部横並びにしてスタイルを揃えることができないんです。

堀田 私、経理畑ですけどね、宗教法人でも収益事業の形態は、株式会社と同じ、税制上も同じですよ。有老協がすすめていらつしやるように、経理を公開して統一化すれば、できると思います。

水落 そうですね。

五十嵐 読む人を置いたところで、公平に読んでも、公平じゃない、と文句をつけたときに防御できないと……。どうも困ります。

司会 厚生省がお金を出していなくて、みなさんが加盟ホームからの拠出金で運営していらつしやる状態では、なかなか公平なことはできないと思いますよ。

見市 入居者がある程度集まるまでは、基本的に赤字は出るものなんです。ドオーンと設備投資をして、そこから始まるわけですから。



五十嵐さち子さん

オープンして二三年目のホームの赤字を普通に読めば、こんなに巨額赤字の事業はない、ということになる。

もう一つは、老人ホームには介護がつきものですが、普通は、物をつくる事業でもサービス事業でも、決算のときにすでに原価が発生しているんです。原価が発生しているから売り上げがたつ。それで、赤字だとか黒字だということになる。

ところが有料老人ホームの場合は、何百万円かの介護費用を預かって、すぐ介護が必要になるわけじゃない。十年後か十五年後かも知れない。

だのに、預かった時点で売り上げだと見なされる。

司会 それは儲けじゃないですよ。

見市 ところが税金を払わされるわけです。

儲かったようにみえるから。本来ならばストックしておくべき費用なのに、普通の事業と同じように決算をしなければならぬ。そういう意味では、すごいハンディキャップです。

水落 別途積立金にできないんですか。

見市 できない。

五十嵐 税制上、駄目。

水落 そういうの、プッシュしましょうよ。

司会 介護費用から消費税までとる、というのはヒドイ。

見市 何のために消費税をつくったんだろうと思いますよ。

介護費用は保険金

水落 有老協が厚生省に対して、強く出られるような団体になるにはどうしたらいいんでしょう。

五十嵐 もつとホームの数を増やさないと。今みたいに入居者が一万八千人じゃ、役所は動かない。

見市 ホームの数が増えるということは入居者の数が増えることで、選挙パワーにな

りますからね。

介護保険のからみで、有料老人ホームは冷遇されている、という見方があるのかも知れないけど、一方で、介護保険の中に一項目があつて、有料ホームの介護サービスそのものが評価の対象になっている。有料ホームのやっているサービスそのものに、保険給付をしましょう、と。

これはまあ、有料ホームの介護が評価されてきているのかなあ、とわれわれは前向きに受けとめているんですけどね。

堀田 ただね、私たちの介護型は、特別養護老人ホームと同じ基準で、ピシッと厚生省の基準にもとづいてつくついても、補助金がもらえない。

水落 有料ホームの介護型は、特別養護老人ホームよりずっと介護の質がいいですからねえ。

堀田 でも適用されない。

司会 専門的な話になりましたが、一般の人からみれば、結局、介護型が何なのか、健康型が何なのかかわからない、というのが現状です。

おさめた介護費用もそのまま自分にかけ

てもらえると思っっている人が多い。五百一六万円払ったって、長期の介護になったら、そんな金額ではとても足りないということがわからない。

見市 まあ、単純に考えていただとわかりますが、家庭内で人手が充分あれば別でしょうけど、例えば二十四時間体制で人を雇った場合、人手は三人必要です。一人一万円として一日に三万円、一月で九十万円、年間でいくらですか、と。これが介護にかかる人件費の実態ですよ。

ただ介護というのは、みんなが一〇〇パーセント、何カ月も何年も必要になるものでもないですから、「介護費用は相互扶助ですよ。六人の方から介護費用を数百万円いただくとして、そのお金で介護が必要になった方一・五人を支えるんですよ。介護期間が短ければハッピーだけれども、長かったらごめんなさい、多少みなさんにご迷惑かけます、ということと自動車の賠償保険と一緒に」と説明しています。

司会 入居時に介護費用をとらないで、実際に介護が発生したらとります、というホームがありますが、本当に介護が必要に

なったら個人で大金を出さなければならぬと思うのよ。こわいですね。

見市 そうですね。まあ、それも有料老人ホームを選ぶときの、見極め方だろうと思います。

本当に自分はないかと思っっていて、万一介護が必要になったときには、先の見通しがつかなくても、三年でも五年でも毎月数十万円払い続ける経済力がある、だからならないほうへ賭けてみよう。万一あったときにはいくらかかっても払うわ、というつもりだったら、介護費用のないホームへ入るのも選択の一つでしょうねえ。

司会 ところが、たいていそんなふうに考えないんですよ。ただ安いからいい、くらいで。

堀田 家族の方もそうですが、元氣な高齢者ほど考えない。ところが家庭で介護の経験のある方は、考えてくださる。初めて介護をやってみた、というような人が一番悩む。まったく介護をしたことのない人は、まず理解がない。

水落 自分の親ぐらい自分で看ますよ、と簡単に言っちゃうんですよ。簡単じゃな

いのに。

見市 「そんなにお金を払うのなら、お母さんやめときなさい。私が見てあげる。」それで見たことがあるかといったら、ない。僕らも入居相談をいろいろ受けますけど、だいたいそうですよ。それで、イザ介護となると家族中スツタモンダしてしまう。

一方で、家族も環境も整っている人が、入居にすぐ前向きに來られる。「私は自分の母も姑も看ました。これはもう、娘や嫁たちにさせることじゃない。だから入居させてください」という相談がたくさんあります。

介護型と健康型

水落 倒産問題に戻したいんですが、私は老人ホーム情報センターで相談を受けていて、最近オープンしたホームは非常に紹介しづらいんです。

このホームは非常によくて、この方にあるのだ、経営母体もそんなにあやふやじゃない。しっかりしてる。けれども、三年たっても入居率が四〇パーセントしかない。こんなとき、どうしたらいいですか。

見市 それは、バブルのときに計画をして建築した、というようなホームですね。コスト的に多少高くなつて、不利な条件に置かれていたのかも知れません。

たぶん経営者は、年齢別に支払い費用を小さくするなど選択肢を工夫して、入居率を高める努力をしておられると思いますから、それが実を結んだら入居率はトントンと高まるんじゃないかと期待しますけどね。

司会 問題はやっぱり、経営母体がどれだけ資金を持っているか。そこじゃないの。

五十嵐 うちの相談室にいらつしやる方は、入居金の金額が二十万円以内だったら退職金で入れるとハッキリおっしゃる。だけれどそれ以上になると難しくなる。とくに二人入居は金額が高くなる分難しい。

堀田 うちでは介護型をたくさん持ってますけどね、病院からの紹介で入居される方は一年か二年で亡くなってしまう。正規の契約だと返還金がすごい。去年も三億円ぐらい返して、かなり厳しかった。

それまで自宅で見ていらつしやつて、お入りになった方は、五、六年生活なさる場合が多いです。

水落 どうして病院からの紹介ははやいんでしょう？

堀田 わかりません。

五十嵐 もう健康状態が限度まできているからじゃないですか。

司会 「わいふ」でみていると、子供つてありがたいもんで、親が八十歳を過ぎていても病気が治ると思つているのよね。あと十年くらいは生きると思つている。それで、病院のことをいろいろ悪く思う。治してくれないとか。



老人ホーム情報センター・水落時子

けれども、八十歳を過ぎて重病になれば死ぬ可能性がずいぶんあるわけで、病院から紹介されるのはそういう人なんですよ、きっと。

堀田 家族の方は病院へ入れたいという人

が多いですね。

見市 病院で死ぬなら許せるけれども、老人ホームで死んだと言われたくない、みたいな。

水落 それともう一つ、単独で終身利用の健康型ホームは年々入居者の年齢が上がっていきますね。今は八十歳以上のところが多くなりました。見学に行くと、車いすばかり、というホームがある。痴呆症状に対応できなくなつた場合、どこかの介護型ホームと提携して、そちらへ移つてもらつたほうが他の入居者のためになるんじゃないか、というようなホームがあるんですよ。

見市 うちなんかホームとしては新しいんですけれども、介護型と健康型とわけることのメリットと、一緒になることのメリットと両方あると思うんですね。

確かに運営側からすれば、わけたほうがラクです。でも「古い」を常に意識しながら、車イスをちよつと押してあげる、話相手になつてあげるとか、一緒に生活していく。六十代、七十代の元気な人が「ああいうこともあるんだな。明日、自分もそんな

るかも知れない」というのが、ものすごく勉強、教育になるんですね。

ホームの見極めを

水落 もう一つ、教えてください。倒産しないホームを見つけるにはどうしたらいいですか。私がみているのは入居率なんです。

見市 もちろん入居率は大きいです。

堀田 あとは、経験。

見市 経験って、ものすごく大きな要素で、普通のビジネスだったらどこかで退けるわけです。ところが老人ホームは始めたらやめられない。

これから有料ホームを始めようという人の相談に対しては、やめるつもりがこれっぽっちでもあるなら、最初からやめときなさい。やるんなら未来永劫、腹をくくってやり続ける覚悟があるならどうぞ、と言っています。

要するに、やめられない事業であるという認識を、しっかり持っている事業者であるかどうか、の見極めでしょうね。

そして、経営としての母体、バックグラ

ウンドがどれだけしっかりしているか見極める。

水落 経営者の哲学は、どうしたらみえますか。

見市 話せばいいんじゃないですか。だって、話すよりしょうがないでしょ。

司会 みてるとね、みなさん、人頼みというか、倒産の問題でも、とにかく誰かがチェックしてくれるは大丈夫だ、有老協がチェックしてくれば、と思っている。

見市 厚生省にお墨付きを出してください、なんていっても、それは無理なんです。できないんですよ。有老協も、申し訳ないけど、できない。ここはつぶれるか、つぶれないか、なんてとてもわからない。

それはやっぱ、入居しようとする人の自己責任の部分がある。

五十嵐 倒産はね、あり得るんだと思います。資本主義の世の中では。

見市 銀行だつてつぶれるでしょう。

水落 だけど、本当に福祉の心がなくてはできないご商売ですね。

結局、私が思うのは、日本人には「老いては子に従え」という儒教の精神がしみつ

いている。とくに女性は自分で考えない。相談を受けて、電話で「あなたはどうしたいんですか？」とたずねても、「子供があの辺にいるから……」とか、「寒い所がいやだとおっしゃるんだつたら伊豆もありですよ」と言うと、「いいですね。でも、子供が〇〇にいるから……」。

とにかく自分で判断ができない。自分の人生を設計するどころか、住むところさえ見つけられない。

見市 自分の生き方をどうしたいか。よく考えることと、最後にやっぱ、夫婦で入居する場合は二人で決めなさいよ、と。

契約の問題は、これは非常に大きなチェックポイントですが、女性のほうが後に残る可能性が高いんですから、夫任せにせず、妻が主導して決めるぐらいでないといけない。

だいたい、奥さんの亡くなった男性は元気がないけど、ご主人のなくなった女性は元気になりますから。

まとめ・富前和

* 次回の座談会のお知らせは、一四九ページをごらんください。

* 老人ホーム情報センターの連絡先は一四四ページに記載しています。

こんな特養ホームだったら入りたい

日本全国特養ホームめぐり



石川奈津子著
築地書館
本体2000円+税

高齢になって自分の身の回りの始末が出来なくなったりとき、どこに住み、どんな生活をするか、誰でも無関心ではられません。

著者は三級のホームヘルパーの養成講座を受け、特養で一年半ほど夜勤専門の寮母をした経験があります。

「自分が入りたいと思えるホーム」を判断基準に、北海道から沖縄まで十八カ所の特養を見学しました。

それらの施設を三つのランクで評価し、「入りたい」「悪くはない」「出来ればご遠慮したい」と分類しています。

個人的な好みが大きく作用しているとしても、興味深い結果です。(水)

反抗期とわかっていても
イライラするお母さんへ

中・高校生の心が見えてくる
セルフ・カウンセリング



渡辺康磨著
学陽書房
本体1450円+税

著者は、親と子の間のトラブルは、親たちが社会的なモノサシにとらわれて、子どものネウチをマイナスに評価することから始まっているという。

また、子どもを変えるというのではなく、まず親自身が、自分のモノサシにとらわれているということに、気づく必要があるという。そのために著者が考えだした、セルフ・カウンセリングという方法を用い、自分と子どもとのある場面を、ありのままに書いてみることから始めようと呼びかけている。思春期の子どもの持つ母親たちの、自主的で創造的な、問題解決体験記、六例も紹介されている。前に幼児向けが出され、今回思春期版。(新)

猫写！

猫をじょうずに撮るヒント



新美敬子著
WAVE出版
本体1800円+税

「ネコめぐり」という、ネコの写真の日めくりカレンダーが売っていて、かわいい！を連発してめくる愛猫家の存在を裏付けている。

ネコ好きはネコの写真も好き、飼いたいネコの写真を撮っておきたいと思うものだが、志はあってもじつは写してみると、黒ネコはまっ黒けの塊となり、白ネコは薄汚れてしまったり……案外難しいものだ。

この本はネコを上手に撮るための技法を教えてくれる。著者は世界中のネコを写して旅している、プロのネコ写真家。その具体的な指南に従えば、きつとうまく撮れる。サンプルのネコ写真多数、見るだけでもかわいい！(和)

添加物のQ&A

食品・化粧品は安全か



同志社大学教授・医学博士

西岡 一著
ミネルヴァ書房
本体2200円＋税

一〇二ページずつのQ&A方式なので、あまり順序にこだわらず読めるところがいい。食品の歴史的背景や世間話風の事柄も満載で、ウィットにとんだ内容は大変面白く、興味深い。添加物のいろはから、気になる発ガン性についても随所で触れられており、おこげや野菜のアク、アルコール、食物繊維とまるで健康読本のように。活性酸素の項目では、ビタミンC入り缶ジュースの思わぬ落とし穴を暴露。化粧品については、その辺の雑誌よりほとんど分かりやすい。化粧かぶれやしみにについても科学的に説明され、シャンプーやリンスなど日用品も登場。暮らしに必要な知恵がぎっしりの一冊。(宮)

恋と仕事には本が効く



杉山由美子著
WAVE出版
本体1500円＋税

本の紹介本である。タイトルの軽さに比較して中身は濃い。異常殺人の「羊たちの沈黙」が紹介されているかと思えば、女性エンジニアには未来がある、と「ピアスをする女性技術者たち」「女性技術者の現場」などの本が紹介されている。「EQ―こころの知能指数」(ダニエルゴールドマン著/土屋京子訳・講談社)の読み方も、この著者ならではの特徴があって面白い。「女性」はもともとEQが高い。日本の男性は仕事場でのEQは高いが、子どもやパートナーに対するEQは高くない」という。読んでいて楽しい。本を買う前に読んでみようがいい本。(間)

スカーフ&ハンカチベスト70 素敵なアレナジ



山縣朝恵著
いかだ社
本体1350円＋税

おしゃれな人は小物の使い方が上手である。特にスカーフは色、形が豊富なので、使い方もいろいろ工夫できて楽しい。この本では、こんなにもたくさんの結び方があるのかと思うほど、スカーフの使い方、ハンカチのアレンジの例を示している。さっそくためしたくなること請け合いだ。ねんざや止血の応急手当てが紹介されているのも、役にたちそう。しかし、なんとといってもパレオ(一枚の大きな布)の結び方を紹介してあるのがうれしい。次の夏はリゾートウェアを工夫してみようかな。一冊身近に置いておくと楽しめそう。(下)

若者犯罪の社会文化史

犯罪が映し出す時代の病像



間庭充幸著
有斐閣
本体1800円＋税

は、管理と競争への反発からくる犯罪。浪人生による、両親の金属バット殺人事件などがあつた。

そして、九〇年前後から今日に至る、第四期のゲーム型犯罪。代々木公園ホームレス殺傷事件も、神戸の頭部切断事件もこのタイプである。

これは他者がモノにしか見えない無感動な人間が、「カネか怨みか」という伝統的な動機もなく、ゲームのひとコマとして簡単に傷つけ殺す犯罪である。

青少年を、生きた他者から遠ざけ、仮想現実に向い込んでいる状況と、どう格闘するか。大人はその重い課題をつきつけられる。(鈴)

エイズ患者診ます

開業医が歩んだ長い道



西村有史著
青木書店
本体1400円＋税

ければならない矛盾。

九六年三月に薬害エイズ裁判は和解成立したが、驚くほど何も解決されていない。保障問題も医療体制も問題だらけだ。あの薬害を引き起こした医療者の責任もほとんど取られていない。

そんな中、この著者は開業医としてHIV診療を行ない、「手をあげ続ければ周囲は確実に変わる」ことを実践し続ける。また「HIV感染者と向き合うことを公表し、積極的に地域での受け入れ先として名乗りを上げていく」医師によるカミングアウトを提案する。この筆者に免じて、医療をもう一度信じてみようかという気にさせる一冊。(井)

ズバリ一言

「リレー廃止」について

神奈川県中部 石井しのぶ（38歳）

九月になって、子供から「今年の運動会は、リレーも騎馬戦もなくなるそうだよ」と聞いた時、正直いって少しショックだった。うちの六年と三年の子供たちは、去年そろって選手に選ばれたので、今年もまた活躍してくれるのではないかと、内心楽しみにしてい

たのだ。特に小六の娘のほうは、去年はじめて念願の選手になることができ、今年もがんばろうと張りきっていたので、本人もがっかりしている様子だった。

二期最初期の授業参観後の懇談会では、当然その話が出た。先生方からの説明によると、クラスで十人しか出られないリレーは不公平なので、近年この小学校でも廃止される傾向にあるということだった。しかし、親の側の意見としては、

「子供たちの意見も聞かず、いきなりなくすのはおかしい」

「子供は、選手でなくても見ていて楽しいから、なくさないでほしいと言っている」

「親子でこれほど盛り上がる種目は、他にない」

など、リレー廃止に反対意見が多かった。私自身も子供のころから一度も選手に選ばれたことはないが、足の速い子たちが、全力を出しきって走っている姿を見るのは好きだった。夢中でク

ラスを応援することで、自分も参加している気になり、楽しむことができた覚えがある。

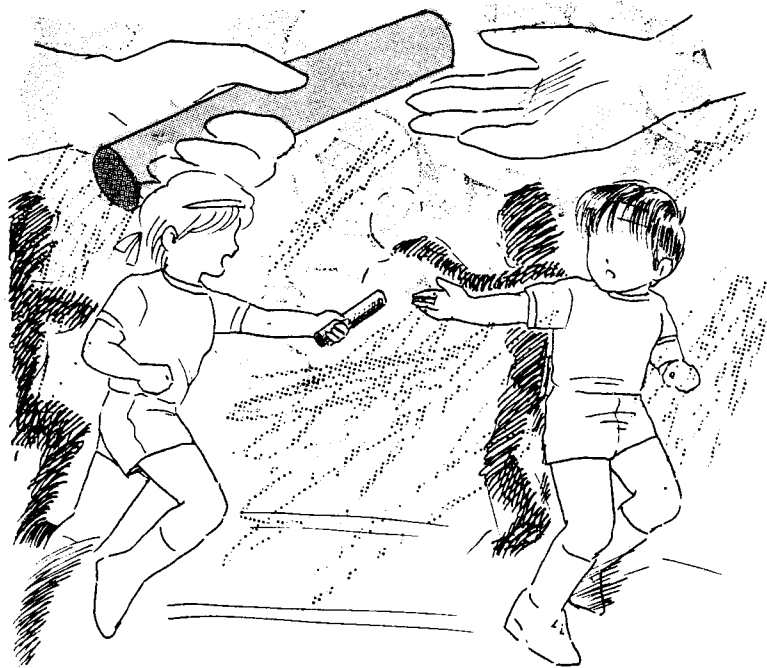
しかし、中には「出たくても出られない子にとって、いやな種目なのでは」という意見もあった。先生方の中にも、「私はあってもいいと思うのですが、何しろ多数決で決まったことなので……」

という人もいて、何ともすっきりしない感じだった。

私は、全員参加のリレーならどうだろうかと提案したのだが、それはすでに生徒から反対されたということだった。

結局、その後もう一度、職員会議で検討するということになったが、最終的にリレーはやらない方針に決まったようだった。またこれまで五、六年男女で行なわれていた騎馬戦は、六年生からの強い希望で、六年だけではできないようになった。

最近の小学校は、通知票でも徒競走でも、何でも順位をつけないように気



を配っているようだ。が、逆に何かで
がんばっている子たちを認めてあげる

ということが、少なくなってしまった
気がする。

足が速い子、絵や歌がうまい子、勉強がよくできる子……などがいてあたり前なのに、評価することが差別になると考えるのはおかしいと思う。何かの機会に、積極的に認めてあげるべきだと思う。

運動会でリレーをなくしたことは、結局、足の速い子の活躍の場を、奪ってしまったことにはならないだろうか。子供のうちから、お互いのよさを認めあう気持ちを持つことは必要だ。中学からは、いやでも競争になるのだから、小学校時代は、せめて成績にこだわらず、のびのび過ごさせてあげたいということなのだろう。しかし中学に入って、いきなり厳しい現実をつきつけられるほうが、子供のときよりは大きいのではないだろうか。

リレーを見たかったというのは、選手になれそうな子を持った、親のエゴなのかもしれない。でも「リレーがない」というのは、何か考え過ぎのような気がしてならない。

新連載

アメリカ南部 小さな町の学校

東京都中野区 河上友子

旅立ち

一九八八年十月十三日、十七時発のノース・ウエストは三十分遅れで、成田を飛びたった。これから三カ月間暮らすアメリカ南部の、ノース・カロライナの小さな町にゆくとこである。

三年前、朝日新聞にインターナショナル・インタナショナル・プログラム（IIP）という団体が「アメリカの学校で、日本文化を紹介してみません

か」というような意味の広告を載せていた。早速、問い合わせると、パンフレットが届いた。そこには「現地の身元の確かな先生の家に滞在し、その地域の学校で、日本について紹介しながら、英会話を身につける。往復の費用と月額一五〇ドルの食費と小遣いは自己負担で、その他の費用は現地の学校が負担する」とある。その時、妙に印象的だったのは「身元の確かな」という箇所、そうすると、やはり、アメ

リカって恐い所なのかもしれないなと思っただのを覚えていた。

応募の書類が送られてきた。日本語と英語で、応募した理由を書けというものだったと思う。その他に、希望滞在期間を書く欄があつて、最長十カ月（ビザの期間は一年間）、一カ月、三カ月、六カ月を選ぶというものだった。最初は「絶対に、一年間行きたい」と



思っていたが、だんだん可能性が出てくると、稼ぎに行くのでもなく家族を置いて行くということに、後ろめたさを感じ始めた。迷った末、結局「三カ月」と記入した。それを送ると、しばらくして、試験と面接の日時が送られてきた。

試験の当日、試験場には、若い男女がほとんどだったけど、中年の女性がちらほら、お坊さんらしい衣を着た男性などいても、なんととはなしに安心した。試験は日本語と英語の簡単な常識の問題。それが終わると、三人一組みで面接が行なわれ、日本語と英語の簡単なインタビューがあり、おしまいだったと思う。

このような「善意の」信用のおける機関の橋渡しによって、私は長年の夢に向かつて飛び立った。

そのとき私はもう少しで五十歳になろうとしていた。娘はアメリカの大学へ留学中、夫はエジプトへ長期出張中。大学生の息子だけが一人自宅に残った。シカゴには定刻に着いた。ここで、

成田と一緒に発ったIIPの仲間たちと別れ、一人になって入国審査の列に並ぶ。どこから現われたか、係官に連れられたビーグル犬が、長い列の人たちの荷物を一つ一つ鼻付けては通り過ぎていった。あつという間だったが、人間より有能な可愛い麻薬検査官なのだった。

IIPの事務局の人の話によると、入国審査の際には、審査官の印象次第で、ビザの期間が短くなることがあるということなので、ドキドキしながら番を待った。いよいよ私の番になり、「ハロー」と愛想よく言って書類とパスポートを渡す。黒人の審査官は無言で点検していたが、見終わるとニコっとして返してくれた。ビザは予定どおり二月十四日までになっていたので、ほっとする。

さて、これから国内線に乗って、ノース・カロライナのグリーンズボロという所まで行かなければならない。滞在先のデービス家に「シカゴに無事着いた」と電話をしたと思ったが、

テレホンカードを空港内で売っていなかった。

電話をするのを諦めて、四時間の待ち時間を、ブラブラと待っていた。この時、コインを使えば電話を掛けられると、思い付きもしなかった。冷静だと思っていたが、やはり舞い上がっていたのだろう。

シカゴ発ニューヨーク行きは定刻に離陸した。しかし、グリーンズボロには予定より一時間早くついてしまった。アメリカの飛行機の時刻表はいいかげんだな、など思いながら、降りて行く。こここの時計は予定の時刻になっている。シカゴとグリーンズボロとは一時間の時差があったのだった。先ずは広い国に來たんだなと実感させられた。二人とも眼鏡をかけた、すらりと背の高いデービス夫妻が、ニコニコと私を送った葉書を手にして、立っていた。二人の笑顔を見ると、長旅の疲れがふつとんでしまった。

空港からヤンシービルのデービス家まで、一時間ちよつとかかった。空港

を出ると、真っ暗な中を走っていたような気がする。車の中では、まず、旦那さんのトミーは左の耳が聞こえないので、大きな声で話してくれるように言われた。奥さんのバーバラばかりでなく、運転しているトミーも、絶えずしゃべりかけてくる。「旅はどうだった疲れなかったか」「食物はどんなものが好きか」「家族は」などなど。そして二人が日本を旅行したときのことや、二人いる娘たちのことなど。

とても楽しいドライブだったけど、コミュニケーションが最上のもてなしなんだな、沈黙してはいられないのだというのが、感じたことだった。

ホストファミリー

私が三カ月滞在するホスト・ファミリーの、バーバラ&トミー・デービス夫妻は英国系の白人。二人とも四十九歳。トミーは兄と共同でドラッグ・ストア（彼は薬剤師で、処方箋をもってきた人に薬を調合して売っているが、店には食料品以外の日用品が置いてあ

り、コーナーでは、アイスクリームやコーヒール、コーラ類、それにハンバーガーやサンドイッチが食べられる）を経営している。

バーバラは高校の社会科の教師。後で聞いたところによると、二人は、現在住んでいるヤンシービル（の近くで生まれ育ったおきななじみで、高校時代に婚約し、大学卒業後、結婚したそう

だ。夫妻には二人の娘がいる。姉のナンシーは二十六歳。高校時代に一カ月間、スイスにホーム・ステイしたことがあり、夫のエリックもスイス系のアメリカ人とのこと。二人はサウス・カロライナのチャールストンという、開拓時代からの古い、南部らしい美しい街の郊外に住んでいる。ナンシーはホテルに勤めていて、宴会場のセールスを担当している。今のホテルは勤め始めて二つ目の職場だそうで、最初は「受付」から始め、様々な仕事をやってきたが、現在の仕事が入っているとかで潑刺としている。エリックは

ナビスコの代理店を、自宅を事務所にしている。

妹のセーラは大学を卒業して、女友だちとアパートを借りて隣町に住んでいる。今のところアルバイトをして暮らしているが、最近、銀行員のロスと婚約した。翌年二月には結婚するので、フルタイムの仕事を探していた。私が滞在している間に、大手の飛行機会社の事務職に就くことができ、一カ月間ダラスで研修を受けた後、働き始めていた。

高校

カジュアル県で、唯一の高校、バレットヤンシーハイスクールがバーバラの職場である。その高校はデービス家の目の前、道路を隔てた所にある。私が三カ月間、日本のことを教える場所でもある。アメリカに来て、歩いて学校に行けるなど、思ってもみなかった。ここでは交通手段がないので、小学校から高校まで通学はすべてスクールバス。ただし、高校生はマイカー通

学もいる。

スクールバスがどんどんくる道路をやつと渡って、芝生でおおわれた学校の敷地を、足早に行く生徒たちに交じって歩いて行く。校舎は靴のまま入れる、外と段差もない一階建てのレンガ作り。校舎に入り、ロビーの横の小さな部屋に行った。その部屋はこの校舎の事務室のようだ。そこには大きな

木の机があり、電話と出勤簿が置いてある。その横の壁には、この校舎の教室で教えている先生たちの私書箱が並んでいるだけ、誰もいない。バーバラは出勤簿に記入すると、生徒がたむろしている廊下をずんずん歩いて行く。黒人の生徒がとても多い。

教室に着くと、バーバラは入口の鍵を開けて入る。教室には入口が一つ、

校舎は平屋で、屋根がそのまま天井になっているので、教室の天井がとても高い。教壇はなく、先生用の大きな机が一つ、生徒用の、机と椅子がくっついていてのが三十個並んでいる。教室の四方の壁面の内の二面が広い黒板になっている。入口と反対の隅に、大きなカギのかかるロッカーが二つあって、バーバラは私物、教材の資料すべてをここに入れて、カギを掛けている。

教室は入口を閉めると、窓も開かないので密室になる。でも、冷暖房完備で天井も高いので、快適である。入口に先生の名前が書いてあり、先生の空間なのだ。バーバラは広い壁面に、社会科の先生らしく、世界の都市の写真の大きなパネルを飾っている。黒板の横のフェルトのボードには、自己紹介の手紙に同封した、私の写真が貼ってあった。

一時間目の授業を受ける生徒たちが入ってくる。始業のベルがなる。バーバラは出席を取ると、私を紹介する。皆、神妙に聞いている（後で聞いたと



気のよい高校生たち。パレットヤンシー
ハイスクールのバーバラの教室にて



ランチタイム

ころによると、この学校には一人、日系の男生徒がいるが、日本からやってきた日本人を見るのは初めて、という生徒たちがほとんどのようだった。

バーバラは生徒たちに課題をやるように言い、「ちよつと、ミセス河上をミスターウイリアムソン（先生は皆ミスター、ミセス誰誰と呼ばれている）に紹介してくる」と言つて、生徒に自習をさせ、私を連れて校長室へ行く。

校長室は中央校舎にあるという。バーバラの教室は東校舎にあるので、校庭（二面の芝生に、二メートル幅のコンクリートの歩道が作つてある）を横切つて、中央校舎に行く。ここには本部事務所があり、学校の運営の中核である。ここから各教室へ直接連絡できるようになっていて、授業中だろうが、おかまいなしに、先生始め生徒への連絡事項、呼び出し、伝言の放送がだされる。放送が流れ始めると、授業を中断して、先生も生徒も一斉に、放送を注意深く聞く。私も最初は戸惑つたが、慣れてきて、どんな時でも、放送

が流れると聞耳をたてるようになった。

話が横道に逸れたが、事務所の奥にある校長室に行く。ウイリアムソン氏はアメリカ人にしては小柄な白人で、とても気さくな人。「ここでは、自由にやつてください」と言つてくれた。

この学校には、プリンシプル（校長）という役職の人が四人いるという。白人女性一人、黒人男性一人、そして白人男性二人。白人女性はその学校の風紀の管理、黒人男性はスクールバスの管理、白人男性二人は、それぞれ学校運営（日本の校長に当たる）と、事務（日本での事務長の仕事と、生徒の学業以外の「生活指導」的分野）を担当している。日本と違うのは、教頭という役職はなく、学校運営と事務のプリンシプルには、それぞれ秘書が仕事の補佐をしている。

二時間目からは一日中、バーバラのクラスにいた。バーバラは早速、私を先生たちに売り込んでくれる。日本流の教員室というものがないので、文書にして配った。驚くなかれ、すぐに、

授業の申し込みが来始める。「何でもいいから、日本のことを話してくれ」というのから、「医療制度」「職業教育」「学校」について話してくれなど。

第二日目には、バーバラが「私のクラスで何かしゃべつてみたら」というので、一時間目から、七時間目まで、六時間目を除いて、私がしゃべつた。彼女が教えているのは社会科と地理で、九年生と十年生（日本の中学三年生と高校一年生）を受け持っている。一クラス二十五〜六人で、クラスによつては十人前後のものもあった。

まずは、自己紹介をし、「お早よう」「ごきげん、いかがですか」など、簡単な日本語を教えた。生徒の名前を片仮名で書いて見せると、彼らは面白がつて、ノートに書いてくれとせがむ。黒人の生徒は身体は大きいが、人懐っこい子が多い。

一つ気が重いことは教師専用トイレがないことである。アメリカのトイレ（戸の下の部分がなく、外から足が見

える」には慣れたが、生徒たちと一緒にするのは、まだ馴染めないでいる。先生専用トイレを作らないということは、監視の意味があるらしい。なぜなら、昼休みや授業のない時は、先生は教室に鍵をかけてしまう。生徒たちは廊下や戸外で、うろうろしている。昼休みには、先生は交替で廊下に立っている。七時間目の授業が終わり、三時少し過ぎに、バーバラは教室に鍵をかけ、事務所で下校の時間を記入し、そのまま帰る。

トラックで通勤する 校長先生

私は高校だけで授業をするつもりでいたが、「小学校にも行って欲しい」ということになった。教育アドバイザーのミセスチェリーポーターに会いに行き、小学校での授業について打ち合わせをする。まず、一校目では二百人の低学年を相手にするらしい。これから行く十校あまりのスケジュールを、もらってくる。

小学校には、着物を着ていくことにする。簡単な日本語と文字について説明し、折紙で兜を折るデモンストレーションをしようなどと、心づもりする。久しぶりに、着物を着ると思うと緊張する。

今日は小学校でしゃべる初日。早くから目が覚めて落ち着かない。着物に着替えて、そわそわしていると、ドラッグストアに出勤するトミーが通りかかり、「きれいだよ。がんばってね」と声をかけてくれる。チェリーポーターが、少々草臥れた大きなアメリカ車で迎えにきてくれる。公共の交通機関のないここ、ヤンシービルでは、デービス家の送り迎えがないと何処へも行けない。

ダンカン小学校に着くと、校長室に通される。控えの間には秘書がいる。挨拶がおわると、校長のミスターパロットみずから、私が授業を行なう図書室に行き、オーバーヘッドプロジェクターやビデオの用意をする。子どもたちの椅子の配置やこまごましたこと

まで、すべて校長が指示している。このような場合、私の中には、校長先生とは、挨拶したら後のことは他の先生たちに任せてひっこんでしまおう、というイメージがあるので、びっくりしてしまった。が、こちらの校長職とはこ

バレットヤンシーハイスクールの校長先生と私



ういうものらしい。

ミスターパロットが先ず私を紹介してくれる。子どもたちは私の着物姿を見て、ざわざわとおしゃべりを始める。ほとんどの生徒は日本人を見るのは初めて。まして着物、帯、足袋、草履はとても珍しいようだった。

因みに、別の小学校でのことだが、五、六年生のクラスでしゃべり終えて、帰ろうと廊下を歩いていたら、そこにK-1（五歳児）のクラスが通りかかって、中の一人が、帯をしめた私の後ろ姿を見て、「なんでバックパックしよってるの」と大声で言った。

それを聞いた付き添っていた先生が「すいませんが、あなたの服装について、子どもたちに説明してくれませんか」と言う。私は着物や足袋や草履について、即興で「講義」する羽目になり、「これはバックパックではなく、『帯』というもので、あなたたちのベルトと同じ役目をしているのです」「これはこんな長いけどスリーブ（袖）です、ポケットの役目もします」と

言って、チリ紙とハンカチを取り出して見せた。すると、生徒ばかりでなく、先生まで手品を見るように、目を丸くして熱心に聞いていた。その後は小学校では、先ず着物についての説明を必ず入れるようにした。

さて、この日はカタカナ、ひらがな、漢字をオーバーヘッドプロジェクターを使い、簡単に説明したり、「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」など大きな声で何度も言ってもらったり。また、日本で写してきた私が住んでいる家や、その周辺の店や公共施設などのスライドを、見せたりした。

最後に、新聞紙を使って、兜を子どもたちと一緒に折ったのだが、これにはてこずってしまった。折紙は日本だと幼稚園で教えるので、簡単に考えていたが、紙を折ることに馴染んでいない人に教えるのは、結構大変なものだ。私がやって見せても、その通り出来ない子がほとんどだった。改めて、全く予備知識のないものを教えるのは、難しいものだと思えた。でも、子ども

たちは苦勞して折ったので、出来上がった兜を皆、得意げに被っていた。

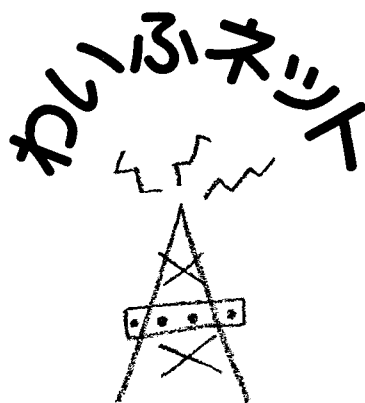
小学校では、高校と違い、一クラスを先生と助手二人で、つきっきりで面倒を見る。低学年だと、それこそトイレに行くのも、昼食も、一緒である。

先生は、子どもたちが帰りのスクールバスに乗り込むまで責任があるようで、特別授業の時も、しっかり自分の生徒達を管理している。おしゃべりしたり、動いたりすると、いちいち注意していた。マナーについては、日本の小学校より厳しいのじゃないかと感じた。

帰りには、私の授業の様子を写したビデオと、ハロウィーンのかかしの飾りもの（もうすぐ、ハロウィーンのお祭りがある）をお土産にもらった。チェリーが都合で私を迎えに来られなかったので、校長先生自ら、彼が通勤に使っている愛用のトラックで、デュービス家まで送ってくれた。

—つづく—

（写真提供・業者）



お答えします

「二世帯住宅のアイデアを」
の沢潟さんへ

二世帯住宅について

埼玉県本庄市

大久保れい子

へよかった事

一階に義母をはさんで長女と長男の部屋がある事。夫婦の部屋は二階にした。火事、地震などの時、まず義母を助ける事

と、常々話してある。開放的で、子供に声をかけて気軽に整頓など注意出来る。子供の友人には、気持ちよく泊ってもらい、家中の者が交流出来る。もし子供部屋が二階だったら、子供に上がってくれるなど言われれば、階下より声をかけるだけだと思う。台所で義母が料理している時、見たり味見したり、良好な関係である。

へ工夫すべき事

台所に電話の子機をセットすべき。義母は、部屋の電話を取りに行き、ほとんどのナベをこがした。子供達が非難せずに、それとなく気をつけるようになった。トイレが二つ欲しかった。年をとるとトイレが長い。家族がいないと二十分くらいトイレに入っているらしい。高齢になれば、トイレが近い所にあつたほうがよい。部屋は玄関の来客の音が聞えるところがよい。近所の年寄が寄りやすい。我が家は玄関より一番奥の部屋が義母の部屋なので、めんどくさがつて、上がらない人もいる。年寄の孤立感、ボケにつながると思っている。

十歳のころより親に手を引かれ、新潟からドッケシ売りの旅人生。すじ金入りの義

母と、私がうまくいくはずがない。数え切れない衝突をし、涙をこぼした。だが、これが人生の苦勞というなら（結婚式で、色々苦勞あると言われた）、何とか乗りこえようと思い、心の隅には義母を尊重しようと思う気持ちが少しあつた。日常生活、

トラブルの種にならないものはない。忍耐と寛容と年長者への少しのやさしい心を持つては、同居のコツがつかめると思う。



教えてください

公共事業への怒り

岩手県岩手郡

近藤和子

一年前父の土地に、念願のマイホームを建てました。そんな矢先、建設省と町の共同事業とのことで「道の駅」なるものを建設予定と、地権者への説明会が突然あり、土地を提供して欲しいとのたまいます。突然のことに地権者五名啞然！ 地上げ屋同然の度重なる自宅、職場への来訪に精神的苦痛を感じています。どのように対処すべきなのか、よいアドバイスをお願いします。

FREE TALK

フリートーク

ふたり

東京都武蔵村山市 大沢 陽子

七月十七日の夕方、電話がかかってきた。「Fです。覚えていらっしゃるでしょうか」。もちろん、覚えている。Fさんの奥さんのTさんだ。声のきれいな人だ。

「今、よろしいですか。……主人が家を出て、一カ月くらい帰って来なかったんです。今日突然ちよつとした荷物を取りに来たので、今まで働くことにばかり目を向けてしまっていたけど、これからは、もっと家庭を大切にするようにしたいというようなことを言ったんですが、もう遅いって言うんです。官舎住まいだったんで、主人の定年までに、自分の家が欲しくて、がむしゃらに働いてきて、四年前にマンションを購入して、これから少しゆりのある暮らしができると思っていた

矢先なんです。仕事仕事で、家のことをおろそかにしていたと反省しています。主人は、去年定年退職して、また就職しているんですけど、うつ病で入院したこともあります。今はよくなっています。昔を知っていらっしゃる大沢さんに相談にのっていただきたいです」と言う。Tさんは今も看護婦さんの仕事を続けているそう。

どうすればいいのだろう。ひとりで生きたいと言っている人に、私が何か言ったって、気持ちを変えてくれるとは思えない。

「時がたてば、帰っていらっしゃると思うんですけど……考え込まないで、なるようになると思って、できるだけ楽しく一日を過ごすようにしたい」と

というように言った。

私は、昔を知っている。Fさんが、どんなに熱烈にTさんと結婚したいと願っていたか、ということ。

三十年近く前に、私はFさんのお母



さんと同じ病室に入院していた。三十歳を過ぎていたFさんにお嫁さんを迎えることが、お母さんの悲願だった。私はFさんに人を紹介しようとした。Fさんは、

「実は、きれいな看護婦さんがいて、みんなに好かれていて、あの人がわたしのほうを向いてくれたら、どんなに幸せか」と言った。

「大変優しくて、責任感が強く、感情のきめが細かく、勘もよく、知れば知るほど好きになるばかりです」とも。

そのころ、Tさんは二十歳くらいだった。Fさんは涙ぐましいまでにTさんを想っていた。応援したくて、私も一度、見ず知らずのTさんにFさんの想いを書いて送った。結婚できれば、ふたりとも幸せになれると信じていた。

ふたりは教会で結婚し、その時の写真を送ってくれた。Tさんは、色白の、目元の涼しい、本当にきれいな人

だった。結婚できたことを、Fさんはそれは喜んでいた。

それからどんな歳月が過ぎていったのだろう。いつ、ひとりで生きていくと決めたのだろう。どうしてそんなふうに決めてしまったのだろう。家もでき、子どもたちも成人した今になつて。

私の夫も、

「この家も貯金も、みんな君に渡す。年金だけを持ってひとりで生きていきたい」

と言ったことがある。

夫は、残り少なくなつた人生を、誰にも煩わされず、まったく自由にひとりで生きていきたい、と思つたのだろう。それもいい、と私も思つた。食事の支度からも、電話や外出を控えようという思いからも解放される。時間を自分の思いどおりに自由に使うことができる。経済的には大変になつても、なんとか食べていければいいと思つた。昨年、咳がひどくなり、痰が切れなくて窒息しそうになった。咳を治

したい一心で飲んだ漢方薬が合わなくて、一カ月で、すっかり肝臓が悪くなつてしまった。毎日のように注射のため病院に通つた。夫がいつも車で送り迎えをしてくれた。夫の母も病気になる、いつとはなしに夫は、ひとりで生きるということは言わなくなった。言わないけど、広々とした海の見える部屋で、誰にも煩わされないで生きて



いくことは、夫の夢なんだろうと思う。本当は、ふたりで世界の名所を巡ったりする、ゆつたりとした豊かな晩年を望んでいるのかも知れない。

私自身は動物たちを助け、犬・のら猫の不妊手術代を得るためのパザーや、相談電話などで忙しい。徒勞のようなくことにきゅうきゅうとしている私に、腹をたてているのかもしれない。

自分も揺れ動く思いがあったから、夫はFさんの気持ちがかかるらしい。「誰でも、残り少なくなつた人生について、このままでいいのかと考える。」

実行する人、しない人、いろいろだけど、Fさんの気持ちはよくわかる」と夫は言う。Fさんも夫も一九三六年

生まれ。とてもまじめな人たちだ。

何が、ひとりになりたいという思いを募らせたのだらう。これから年をとっていき、お互いの助けがいるようになるのに。

Tさんが、住所を教えてと言つても、うるさくなるから、と教えてくれなかつたそうだ。

あんなに熱烈に望んで結婚したのに、Fさんはどうしたんだらう。Tさんに、この家を残していくから、ひとりで生きていつて欲しいと言つて出て行つて、今は居所も分からないそう。TさんはFさんの健康を気づかっている。どうすればいいんだらう。

名案もないままに、私は、ただ、ふたりの幸せを祈っていた。

傷

東京都八王子市 浅川 涼子

三カ月たつたのに、傷が残っている。顔面の左側、頬骨の横、切られの与三郎と同じ位置に三センチほどの傷跡だ。

七月の終わりの週のことだった。自宅近くの公民館から、自転車で帰宅途中に、手押し信号機に手を伸ばそうとしてバランスを崩し、自転車から落ちた。足が絡まつたのか、顔面をもろに歩道に打ちつけた。アスファルトの地面に叩きつけられて、激痛が走つた。道路に倒れたまま手を頬にあてると、ヌルツとする。血だ。手がべつとりと染まつた。慌ててバッグからハンカチをだしてあてる。みるみるうちに赤くなつてくる。

とにかく家に帰らなくっちゃ、私は頬を押えたまま、自転車を立て直し信号を渡つた。そこから家までは四〇〇

メートルほどだ。すれちがつた人が、心配して声をかけてくれた。

「どうしたんですか。大丈夫ですか」

ええ、大丈夫です、と頷いても顔をあげられない。とにかく、急いで、と必死で家に帰つてきた。

家には大学生の娘がいた。のんびりとテレビを観ていた娘は、私の哀れな姿を見てギョツとしている。

「すごい、どうしたのよ」

「助けて、自転車事故」

私は洗面所について顔を洗つた。傷口をまず洗つた。血はもう治まつたのか、それほど流れてこなくなつた。

娘は恐ろしげに私の顔を見つめている。卒倒しそうな傷だという。

「鏡で見てみる？」

「いやよ。怖くて見れないわ」

私は傷をハンカチで覆つたまま、娘に付き添ってもらつて近くの外科にいった。

「かなり深く切りましたね。縫いましょう」

ということになり、すぐさまベッドに

仰臥させられ、麻酔を打たれて手術が開始された。麻酔のおかげで痛みはないのだが、チョキン、カチャと鉄の音などが耳元でする。なかなか終わらない。

「顔ですから痕が残らないように、細かく縫っていますからね」

看護婦さんがいった。

結局、十針も縫うことになってしまった。なんだか氣を失ってしまいそうな数だ。お医者さんは、なぐさめ顔でいった。

「大丈夫ですよ。今はほとんど傷は残りませんよ」

はあつ、といったものの、今度は顔が腫れてくるのが、鏡を見なくても感じられる。

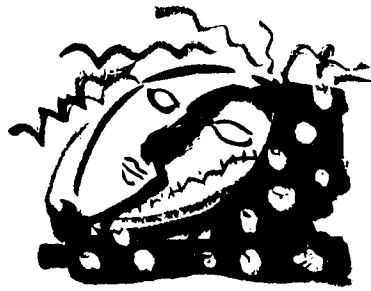
「腫れはそのうちに治りますよ」

看護婦さんもなぐさめてくれた。

家に帰ってきて、おそるおそる手鏡を覗くと、絶句するほどの見事な顔に変貌していた。まるでお岩さんだ。赤黒く盛りあがって、上の瞼が垂れ下がってしまった、目が見えない。ガー

ゼも顔半分を覆っている。

「すごい、こんなになっちゃうの」
ほとほと感心してしまうほどの醜さ



だ。

顔の腫れと痣は、徐々に治っていった。家族に、気持ち悪いから、こっち

を向かないでよ、といわれたほどの顔の変形も、一週間ほどたつうちに、元の顔に戻ってきた。痣も日一日と薄くなり、目の周りにアイラインのように黒く縁取りしていたのが、きっかり十日目に消えた。

抜糸後は、日ごとに絆創膏を貼る範囲が狭くなり、一カ月後にはそれも必要なくなった。

しかし、傷はなかなか消えなかった。腫れて、痣だらけの十日間は外出もままならない辛い日々だった。それに加えて、古傷を思いださせてしまう日々だった。十年ほど前に、丁度同じ目の周りが腫れて、痣だらけになった。そのときは痣が消えるまで一カ月かかった。

夫に殴られてできたものだ。その当時、登校拒否をしていた長女に私がいった一言が氣にいらぬ、と力いっぱい私をなぐった。みるみるうちに赤痣ができた。

「もう、学校をやめてもいいわよ」
「何を！　そういうことをいうから、

裕子がつけあがるのだ」

一年近く、逡巡を繰り返している長女を、まだ「怠けもの」と決めつけていた夫の、私に向けた平手打ちだった。

古傷は、癒やされることがなく残っていた。今度の事故で、心の奥深くにしまいこんでいた過去の傷が浮かんできてしまった。

それにしても私の左目の付近は災難続きである。二度もお岩さんのようになかった。

厳しい校則のなかで

京都府向日市 寺尾 香織(37歳)

十月一日、衣替えの日が来る度に、思い出すことがある。当時、高校生だった私は、朝、いきなり担任の教師に叱りつけられた。

「○○(私の名)、何をしているんだ!」

何を叱られたのかわからず、きょとんとしている私に、教師は言った。

「上着を着なさい」

その日は、秋にしては汗ばむような陽気だった。暑かったから、上着を脱いで椅子の背にかけていたのだ。白いブラウスに紺のジャンパースカート。規定通りの制服だ。

「十月一日からは上着着用、と校則で決まっている。自分が暑いからといって勝手に脱いではいけない。先生を見なさい」

教師は、背広をしっかり着込んだ胸をはって見せた。その額はかてかて汗で光っている。

ばかな、暑けりや脱いで何が悪い。裸になったわけでもあるまいに。言い返そうとしてふと周りを見た。同級生はみな、この暑いのに、上着をしっかり着ている。うつむいて、時が経つのをじっと待っているかのように。なんだか急に馬鹿馬鹿しくなってきた、私

専門の生命保険コンサルタントを派遣いたします。

(東京都内・近郊のみ)

お一人ではチョット心細い、
でも何人かいれば心強いあなた…

お友達・職場の仲間などなたでも結構です。

3、4人でも何人でも

あなたのお宅に、あなたの職場に、お集まりください。

生命保険の専門家が皆さんの疑問にお応えいたします。

くわしくは『わいふ』あて 電話で資料請求してください

わいふ指定代理店 東京海上火災保険株式会社 東京海上あんしん生命保険㈱

杉本保険事務所 杉本侑子 ☎03-3260-4771



は黙って上着を着た。教師は満足そうにうなずくと、授業を開始した。その時のいたたまれない気持ちを、以来、毎年思い出す。

登校時の校門検査でいきなりひっぱたかれたことがある。三つ折りにしなければならぬ靴下を伸ばしてはいたとか、きつちり三つ編みにしなければいけない髪をゆるく編んでいたとか、その程度のことである。その高校は、服装から髪型、持ち物、すべてに細かい規則があり、一切の違反は許されなかった。女子は入学と同時に髪を伸ばし、二学期からは二つに分けて肩の長さの三つ編みおさげと決まっていた。短くても長くても叱責の対象となった。

朝、最寄りの駅から学校へ生徒達がぞろぞろ歩く。同じ髪、同じ服、同じ靴、同じかばん。後ろから見ると誰が誰だかわからない。一人一人が違う家を出て、違う朝食をとった、そんなことすら信じられない。他校の生徒との交際を禁じられ、同級生とも学校を離

れての個人的な連絡は、取り合わないよう指導された。クラスの住所録さえ禁止だったのだ。学校帰りに喫茶店に寄っているのがばれただけで、大騒動になった。もちろん生徒会なんてあるわけもなかった。かつて学生運動で何かたいへんなことがあったらしい。それでここまで厳しいのだ、というのが噂だった。

それなりに名の通った大学の付属校であったその高校は、規則違反者を、大学進学から排除することを取り締まった。

「そんなことをすると上に上がれないぞ」

その一言は実に有効に機能した。何度か、生徒会設立の運動を図って仲間を集めたこともある。が、何人かは退学になり、何人かは大学進学資格を剥奪された。言うことを聞かない者は容赦なく退学になったので、一年間でひとクラス分くらいは人数が減った。学歴という鎖で私たちはしぼり上げられ、そこから逃げられないことで、私

は激しい自己嫌悪に陥り続けた。

言いなりになるのが嫌で、私は他大
学を受験した。付属よりも世間的評価
の高い、いわゆる名門大学に合格し、
教師や学校を見返してやったつもり
だった。同じ思いの友人が何人かいた。
必死に勉強してそれぞれが合格を
得たが、その結果、高校は「受験にも
強い付属校」と評価され、有名大学延
べ何人合格、という数字に私たちは貢
献しただけだった。何よりそんな事だ
けのために入った大学で、私は目標を
失い、長い期間ぼんやりと過ごしてし
まった。

高校を懐かしいと思ったことは一度
もない。同窓会に出たいとも思わない。
今でもつきあいのある友達はみな、一
様に同じことを言う。我が子には、あ
んな思いをさせたくはない。

戦争を知らず、豊かな物のあふれる
時代に育って、君たちは本当に幸せだ、
と大人たちに言われながら、私たちは
ちつとも幸せではなかった。ひとつの
枠にはめ込まれ、規格品以外は除去さ

れる生活が、どれだけ心を圧迫し、の
びやかな精神をゆがめることか。あの
三年間で失ってしまったものはあまり
にも大きい。二十年近くたった今でも
私はそう思わずにはいられないのだ。

眼 目

横浜市旭区 風亜 祐

四時五十分のモーニングコールはま
だ鳴らなかった。今日（八月三十一
日）はローマからパリへの移動日だ。
五時半までにバゲージダウンを済まさ
なくてはならない。

ぼーっとした頭でテレビをつけてみ
た。いきなり鉄の塊みたいな事故車が
映った。

「この国でも事故か、朝から縁起でも
ない」

切ろうとした時、画面が変わり、
「……ダイアナ、ダイド……」

それだけが読め、聞き取れた。

あのダイアナ元妃の事だとは考えも
せずに、

「起きなさい。ダイアナさんが死ん
だつてよ。ダイドって死だよね」

寝起きの悪い息子が跳び起きて、
パツと目を開けた。笑顔の私を見て、

「悪い冗談はやめてよ。休暇なんだか
ら」

テレビは天気予報に変わっていた。

到着したパリの空は青く澄み、コン
コルド広場や、シャンゼリゼ通りが
くつきりと映え、何の悩みもないかの
ように輝いていた。しかしバスがセー
ヌ川に沿って走り、アルマ橋の下に近
づくとき、様子が一変した。沈痛な顔をし
た人々が、手に花を持ち長い列を作っ
ていた。事故現場の道は、緩やかに左
カーブしながらの下り坂で、トンネル
の中に入ると右にカーブしていた。

翌朝、息子と私は凱旋門の屋上に行
こうと、七時にホテルを出た。人影も

少ないコンコルド広場を横切り、シャ
ンゼリゼ通りを、気分だけ颯爽と歩い
ていたら、前方から見た事のある人が

元氣よく歩いて来た。日本のテレビリ
ポーターだった。

九月二日、パリ、ロンドン間を走る

ユーロスターで、ウオータール駅に入
る。この国では四日後の葬儀の準備が
着々と進められていた。ホームから見



えた国旗はみな半旗で、身のひき締まる思いがした。現地のガイドさんが熱狂的なダイアナファンだったらしく、「仕事などする気分ではない。これは陰謀である」

と言い切り、背筋がスーッと寒くなった。ウェストミンスター寺院は葬儀の準備で見学できずに、バッキンガム宮殿に向かう。驚いた事に、大通りには何百人もの人が、花や手紙を持ち、記帳の順番を待っていた。皆、暗い目をしてただ黙々と、肌寒い時間を耐えていた。普段の日なら衛兵の交替を見られた時間であった。

この日ダイアナさんのご遺体は、華やかな結婚式の行なわれたセントポール寺院に安置されていたが、余りの反響の大きさに、急遽セントジェームス宮殿に引き取られたという。隣接する公園のリスやカモは、丸々と太り、市民の憩いの場である事を想像させたが、行き交う人々は、何かにつけ助けを求めるように危うげだった。一刻も早く献花をしたい。列に並びたい。と

いう気持ちが続いて来て、観光でこの場にいる自分が気恥ずかしかった。

九月三日、ロンドンからバスで三時間、ウインザー城に着いた。エリザベス女王お気に入りの城だそう。城内のセントジョージ礼拝堂の前庭は、花束で埋めつくされていた。ほとんどの花はアレンジメントされ、メッセージが添えられていた。

団体で前から見学の予約を取ってあった私達は、親日家であられる司教様のご好意で、何分も待たずに裏口からお御堂に入り、記帳までさせて戴いた。ガイドさんはすっかり感激し、涙を浮かべて言った。

「皆さんは幸運です。私もこれで落ち着きました」

彼女はこのあと、顔付きも口調も別人のように穏やかになった。

寂寥感の渦巻くイギリス、厳戒態勢のロンドンヒースロー空港。

九月五日に日本に戻った。翌日のこのと、久しぶりに家族が揃った居間のテレビからは「エルトン・ジョン」の追

悼歌が流れてきた。

時には退屈でしかなかった我が家だが、そこには分相応な幸せが待っていた。

(一九九七、九、一五)

コンパクトな町が合う

神奈川県平塚市

中野かおる

「お、おかあさん、トイザラスがあるよ」

そうだね、うちの近くにあるといえはあるけど、最寄りの店でも車で一時間かかるし、そこまでしておもちゃを買いに行く気にはならんよ。

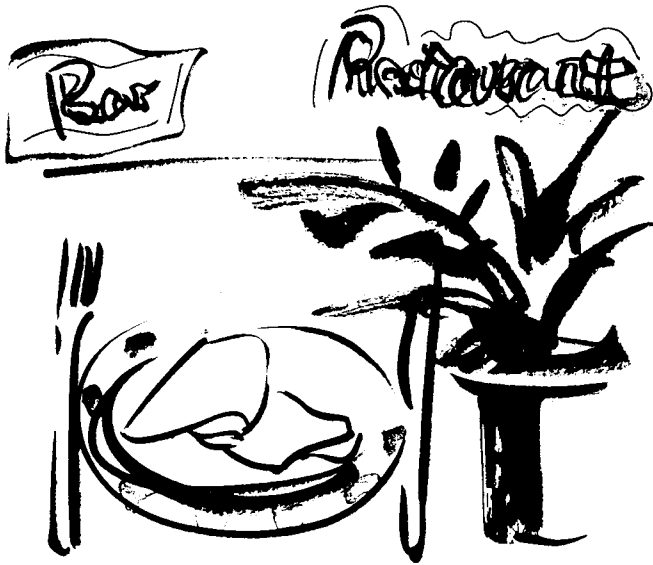
「おかあさん、ジャスコもあるよ」

そこは郊外の店舗だから、同じような店におとうさんとも行った事あるじゃない、珍しくないよ。

今年の夏、帰省したとき、空港から実家までの車中、子供たちは、道の両側にある自分の知っている店の名前に夢中だった。高校を卒業後上京して以来、何回も往復したその道は、わかりきった店が並んでいたはずだったが、ここ何年間で大きく変わってきていた。

数年前まで、まず目に付いたのは、全国展開のファミリーストラン、ファーストフードの店ぐら이었다。そして郊外に行くと必ず目に付く、けばけばしい大型のパチンコ店など。それが道路の整備が施され、町を縦断するバイパスができ、高速道路が延びてくると、今度はこれまた全国展開のスーパーや量販店の看板が目につくようになった。

空港から三十分ほどの間、いったいどれくらい的大型店をみたことか。母によると実家から自転車で行く事のできる距離（十五分くらい）のところに四つはあるという。車を使えば、スーパー巡りで一日をすごす事もできるら



しい。

それと比べて、都心から一時間という一応ベッドタウンである我が町は、なんとこじんまりしていることか。まず、大きなデパートがない。中心はJR沿線の駅ビル周辺だろうし、スーパーもどうみても中規模の店である。したがってセール時ならともかく、品物が少ないので、買っても食料品、日用品までだ。

地元商店街の勢力が強いというのを聞いた事があるが、休日にぶらっとでかけるには、買い物だけではなく、食事もしたいし、子供と遊べたり時間を過すところがほしい。それがないのだ。ああ、物足りない。隣接する市の大形店にかなり客を奪われているだろうなあと思う。実際、我が家も遊びに行くのは、郊外店である。

ところが、である。これほどまで生活環境が整いつつある実家であるが、私にとって一つ難点があった。車である。悲しいかな、郊外に住む者にとって必需品である車を、私は運転できない。

い。やっぱし、住めば都、郷にいれば郷にしたがえ、今のコンパクトな町が私には合っているんだな。銀行や郵便局に行くにも、図書館にぶらっとでかけるにも、日常の生活は今で十分間に合っているのだから。と、都市化の進む実家周辺を横目で見ながら、一人勝手に考えた。ちなみに私の実家は四国・松山にある。

私はずばらな主婦

長野県小県郡

青木 清美(36歳)

自分ほど不潔でだらしない女性は見ることがない。私は、風呂と家事が嫌いである。特に料理とその後片づけが嫌いである。しかし、専業主婦なのでそうも言ってられず、自分なりにやっているのだが、主婦の家事能力の平均

値(そんなものがあるとすれば)に遠く及ばない。他の人と衛生観念がズレているかも知れない。

なにしろ、めんどくさがりで、夏でも一週間風呂に入らなくても平気。台所は油まみれ。流しは二、三日分の洗剤物がどっさり。一日中、顔も洗わず、歯も磨かず過ごす時もある。いつもキレイを心がけていられない。台所も、自分も臭くなり、しょうがないので一気にやる。

臭い時は人に近づかないとか、夫の目に付くところだけそうじするとか、自分なりに考えている。もともと乾燥肌で、脂っぽくならないので、友人知人も、これほどだらしないとは気がつかないだろう。

独身のころは、それでも男性に下心があったので、朝風呂に入り、化粧をし、外見だけはピカピカにして会社に行った。ダイエットもしていたので少しはもてた。

結婚し、専業主婦になると、恐ろしい変貌を遂げた。体重が一五キロも増



え、胸より腹が出ている始末。ウエス
トラインも消滅した。髪も短いので、
近所の子どもに「おじさん」と呼ばれ
てしまった。何よりもショックだった
のは、前勤めていた会社の人達とすれ
違っても、誰も気がつかないことだ。

家事でも失敗してしまった。ガスレ
ンジの魚焼きグリルも洗ってないの
で、魚油が溜まりに溜まっている。あ
る朝、魚を焼いていたら突然魚油に火

が付き、燃え始めた。近所の人が集
まって大騒ぎになり、隣に住む義父
が、はだして粉末消火器を持って駆け
込んで消してくれた。三原山の噴火後
のように、白い粉が私の頭にも台所に
も降り積もった。それをそうじしなが
ら、つくづく反省した。だらしくし
ていると、ろくなことがない。今回の
ことはよい勉強になった。

(え・カステラネンコ)

わいふ文章講座のおすすめ

公民館、女性センター、社会教育課
などのご依頼で、しばしば「わいふ文
章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田、「わいふ」
から巣立ったライター達を講師とし、
五回から十回までのコースがあります。

また、「子育て」「教育」「女性」「高
齢者」「社会参加」など、各種の問題
について講演をいたします。デスクの
間瀬、老人ホーム情報センター主任研
究員の水落も担当いたします。

お住まいの地域で開きたい方は、お
電話をください。資料をさし上げます。
それを持って公民館、教育委員会の社
会教育課などに開講を頼んでみてくだ
されば、引き受けてくれるところも多
いと思います。

●PTA主催の成人教育、家庭教育学
級での講師としてもご依頼ください。

私の意見・

あなたの意見

幼稚園と保育園

《質問》

一、どちらに通わせたいか
二、実際にはどちらに通ったか

仕事をするためには保育園が楽

東京都練馬区 千葉信子

一、どちらかといえば保育園。
二、第一、二子は幼稚園、第三子は保育園。

その幼稚園は完全給食、五時までの延長保育あり(含夏休み)。次女は幼

稚園の年長、長男は保育園二歳児クラスである。この一年、明らかに保育園のほうが楽だった。もし、母親が本当に働きたいなら、私は迷わず保育園を勧めたい。保育園は親が働くことを前提としているから。

幼稚園は、まだまだ母親＝専業主婦とみているところが多いと思う。次女の幼稚園は働く親に対して理解があるほうだと思うが、延長保育の子供はいかんせん少ない。延長保育をいやがることも多々あった。長男は、慣らし保育では大泣きしたが、その後はほとんど病気もせず園生活を楽しんだ。次女をなだめすかして、何とか一年乗り切れたのは、それまでの専業主婦時代に培ってきた人脈のおかげ。ずいぶん助けてもらった。あれがなかったら私は挫折していたかもしれない。

教育面では、子供自身が楽しめればどちらでもいいと思う。ただ、我が家の子供たちについていえば、好き嫌いと社会的自立に関しては、長男が一步リードというところか。

近いところが安いところ

静岡県清水市 鈴木美奈

一、次に述べる理由から、別にどちらでもよかった。深刻に考えることもなかった。

二、自宅から二〇〇メートルの保育所。人気が高かったので心配だったが、なんとか入ることができた。

私の叔母は元幼稚園の先生。退職後も産休の代理等で、市内の幼稚園、保育所はほとんど勤めたことがある。その叔母曰く、

「それぞれ特徴はあるけど、大人になってから人格に影響が出るほどの差はないから、近いところが安いところを選ぶのが一番利口だよ。あと、通園バスがあっても、急病とかで迎えに行くこともあるから、近いに越したことはないと思うね」

以上。悩む必要なし。

私の経験では、意外に思われるかもしれないが、人気が高いところはやめたほうがいい。空きを待ってる人が何人もいえるような保育所は、一人や二人やめても困らないので、高飛車な態度をとることがある。子供が腕を骨折したら「ギブスが取れるまで休んで」。一月ほど入院した子は退所をほのめかされた。冬なのに結膜炎やとびひで欠席させられた子もいたし、延長保育を頼んだらイヤミたらたら……等々。その先生の考え方にもよるのだが、そういう可能性は大きいと思われる。

仕事のあるなしで決められてしまうもの

宮城県岩沼市 横山のり子

一、二とも幼稚園。

これって迷って選んだりすることなのですか。仕事やその他で、どうして

も子どもを預けなければならない人が保育園に入れ、それ以外の人は幼稚園でしょう。他の地方ではどうか知りませんが、こちらでは保育園不足の状態なので、単に「幼稚園より保育園のほうがいいから」などと言って保育園に入れる訳にはいきません。ですから、選ぶとすればどの園にするか、ということくらいです。それに、幼稚園にしても保育園にしてもいろいろありますから、「幼稚園か保育園か」という分け方はちよつと……と思いました。

与えられた中で幸せに暮らせるよう努力を

埼玉県大宮市 井上いづみ

英語の授業や制服着用の保育園もある昨今、保育園と幼稚園の違いって何かしらと改めて考えてみた。

子どもの側から見ると、八時間保育を基本とする保育園と、四時間保育の

幼稚園。時間の差は、生活の場として考えるか、遊び（教育）の場として考えるか、の差につながるだろう。生活の場として考えれば、単調でゆったりとした生活リズムが重要視される。一方、あくまでも生活の基本を家庭と考えれば、幼稚園はわくわくドキドキするところ、だろう。短時間なら、幼稚園で疲れても、家に帰ってゆつくりすればいい。そう考えると、保育内容もおのずと違ってくる。

一方、親の立場で考えると、保育園に子どもを通わせる場合、まずはじめに親の都合がある。ほとんどは働いためだろうが、病気その他の場合もあくまでも大人の都合だ。その大人の都合に、子どももつきあつてね、という感じだ。生活共同者、というか、お互い大変だけどそれなりに頑張っている、というか。

それに比べて、幼稚園に子どもを通わせる場合は、母親は働くことはもちろん、行動の多くが制限される。でも、子どものことを第一に考えて、子

どもにとつて一番いい方法を最優先に考える。もちろん、保育園の親だって子どものことを考えないわけではないが、勤務時間が決められていたりして、子どもを最優先するわけにはいかない事が多い。

こう考えてくると、保育園が幼稚園か、という論争は、親の子育てに対する姿勢への批判（あるいは共感）なのではないかと思う。自分のことばかり考えるわがままな親に育てられて可哀想に、とか、子どものことしか見えない視野の狭い親に育てられると、子どもだって窒息するわよ、などというような……。

でも、子どもはどんな環境でも、自分がそこにいていいんだと実感した時は、それなりにうまく生きていくもののような気がする。

どの生き方が一番いい、などというものはない。全員が同じ事をしなければならなくて、どこかの国みたいで気持ち悪い。要は、その人が幸せだなあ、と思えるかどうか、だ。自分が

幸せだなあと思えば、他人の幸せな姿を見ても嬉しくなる。反対に、自分に幸せだという実感が無い場合、他人が生き生きとすると苛立つ。

保育園と幼稚園、どっちがいいか、という話ではなく、どっちを選んで、それぞれの中で最善になるよう、お互いの持っている智慧を提供し合えばいいのではないだろうか。すべての子どもが皆、幸せになれるように。

……
さまざまな人間のいる環境で育てたい

静岡県田方郡 竹田千文（36歳）

二六七号サーブプレシブ「こんな保育所はイヤ」を読んで、「おー、よくぞ言った!」と圧倒された。この幼稚園・保育園論争は、専業主母・働く母論争との絡みで度々登場するにもかかわらず、幼稚園派を声高に叫ぶ投稿には、お目にかかっていない。当然春菜

さんのような意見の方もいるだろう。

幼稚園か、保育園か。それは春菜さんが言うように、それぞれの考え・事情またはなりゆきで決めていることで、どちらがいいと決める必要もなければ、保育園派の投稿が載ったからといって、それが優勢意見だと思ふ必要もない。いろいろな人の考えを読み、それに対する反響も見えることで、自分もより深くその問題を考えることができるのが、「わいふ」のよさなのだから。

そういう私は、春菜さんの投稿を読んで、子どもに与えてやりたいと思う環境が、あまりににくい違う事に驚き、改めて自分が保育園派であることを実感した。

私は子ども達には、雑多な人間が、それぞれを主張しあいながら暮らす中で、育つてほしかった。我が家の二人の子が通った保育園は、○歳児〜六歳児、車イスの子や難聴の子、フィリピン人、中国人、九人兄弟でもまれまくつ

た子、若いシングルママのとんでる子、精神を病んだ親もいれば、卒園式にも仕事で出られない親もいた。そういう保育園では、いわゆるしつけの面で春菜さんが言うような、眉をひそめたくなる場面も多いのは事実だろう。

でも私は、この清濁あわせ持った環境の中で、子ども達が様々な出来事を、しなやかに受け止め、考えていけるのなら、砂を食べようが、鼻をたらしているような、大した事ではないと思ってきた。二人とも卒園した今も、その気持ちは変わらず、私はやはり保育園派だ。

（あなたへスマッシュへの投稿でした
が、こちらに掲載しました。編集部）

クラス定員が少ない公立幼稚園へ

富山県富山市 沢潟裕子（34歳）

一、自分が働いていれば保育園、働い

ていなければ幼稚園と考えていた。

二、公立幼稚園。

夫の転勤で仕事を辞め、第一子出産後から今日まで専業主婦歴も六年になりました。現在、第二子が二歳で、まだ母親を必要と感じているので主婦を続けています。今年度から第一子が公立幼稚園に入園しました。

私は幼稚園か保育園かという選択の仕方ではなく、園庭に花壇や畑があったり、動物を飼っていたり、親が送り迎えするという点が、決定のポイントでした。また、園の経営を考えていかなければならない私立は、一クラス三十〜四十名なのに比べ、公立は二十名前後という点にも注目しました。そして現在働いていないことから、今の公立幼稚園を選びました。

入園から半年が過ぎ、早朝から夕方まで子供達と接している保育園と違い、幼稚園は八時半〜三時までなので、その分先生方の気持ちに余裕が感じられます。

保育園で服を汚し放題

千葉県印西市 流縞さよ（43歳）

一、幼稚園。

二、幼稚園。

実は上の子を幼稚園入園前の三カ月間、保育園に通わせた経験がある。下の子を出産後の私自身が、人並み程度の休息をとるためにだけ利用させてもらった。はなから保育園には教育的効果など求めたりはしなかった。短期間に垣間見た保育園の実態。案の定、「遊んで、遊んで、食っちゃ寝」させているだけ、だった。遊ぶことに異論などない。よいことだ。納得いかないのは、どうしてあそこまで服を汚させる必要があるのかということ!!

子供自身が、服の汚れなどかまっちゃおれないのは分る。しかし、保母が「汚れないように」、ちよつと気をつかうことは皆無に等しい、のはなぜ

なのだろう。保母自身が、母親替わりですからと言うのはよく耳にする言葉。ならば、「あら、そんなに汚しちやダメよ」ぐらい言うのが、母親じゃないの？ 揚げ句に、着替えは毎日三、四着分（下着はもちろんズボンやトレーナー類も）を園に常備して置くよう、きついお達し。（夕方迎えに行き、汚れ物をドーンと渡されたって、乾燥機のない我が家など、翌日の三着分をどうやって調達しろっていうの?!）

結局、保育園は働く女性のためには絶対必要なものであり、子供にとつては保育園であれ幼稚園であれ、楽しく通えるところであるなら、どっちだってよいということなのではないかしら？

幼稚園選びは親の感性で

埼玉県浦和市 岡 あやり

幼稚園か保育所かの二者択一の考え

方、少し単純すぎませんか。浦和市の場合、保育園入園申請の対象となるのは、同居の親族その他の人が、①昼間働いている、②病気または出産のため、③家庭内に長期にわたる病人がいて常にその看護をするため。これらのいずれかに該当し、乳幼児を保育することができない場合である。

専業主婦である我が家の場合、はじめから幼稚園に入るものと考えていた。でもこの幼稚園選びにも親のさまざまな価値観、子育てに対する考え方が表われている様子。保育所、幼稚園を選択する時に入園案内に書かれている教育目標や園庭の広さ、送迎バスの有無、保育時間の長短など、目に見え、書かれていることだけでは、その園（なり所）のよしあしはわからない。後は親の感性にピピッとくるものがあるかないか。

ちなみに私の場合は家から近いこと（徒歩十分）・送迎バスを使わない園の方針に共感したこと。で娘を入園させた。

親同士共感できるところを

東京都目黒区 クワシイトモミ

一、保育園

二、幼稚園

幼稚園児の母親って、ファッションでも意見でも何でも似ているような気がします。ちよつとでも他と違う人が居ると除外されそうな気がします。幼稚園って制服もあるし。

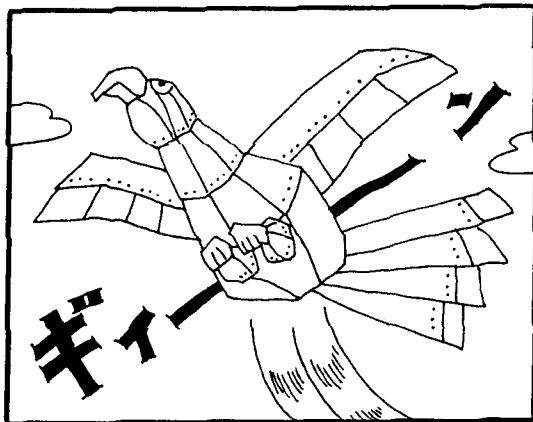
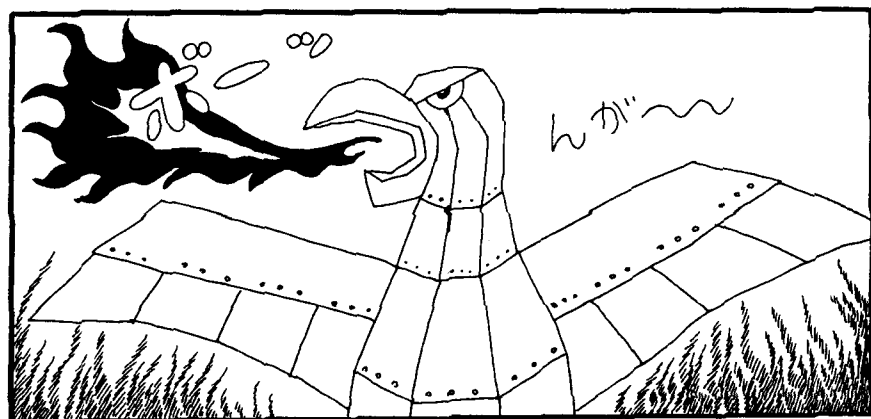
私はずうっと仕事をしていきたいので、子供も保育園に預けてます。幼稚園児の親は専業主婦かパートのかたが多いと思うので、話していても悩みや人生設計、夫婦の役割分担などの面で、共感するところが少ないのではないでしょうか。

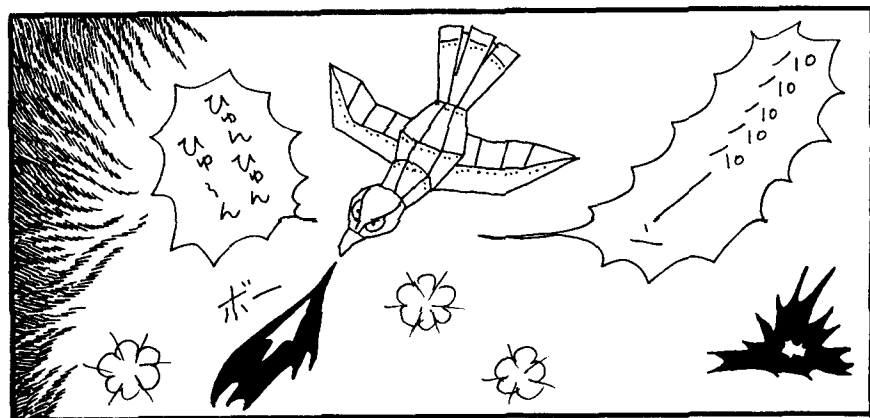
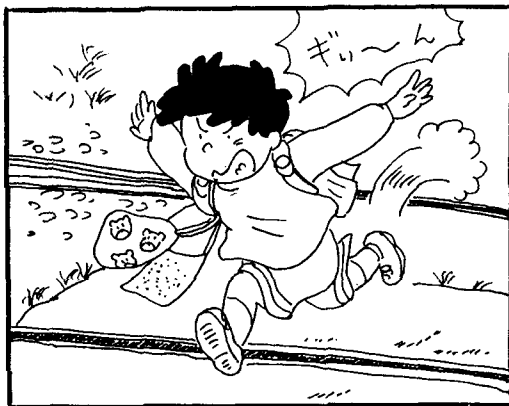
（このコラムに多数のご投稿をいただきましたが、締め切り日過ぎに着いたため、掲載できないものもありました。編集部）

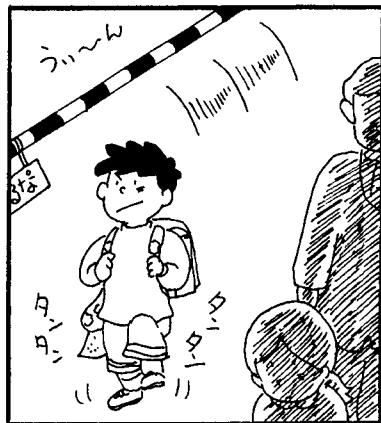
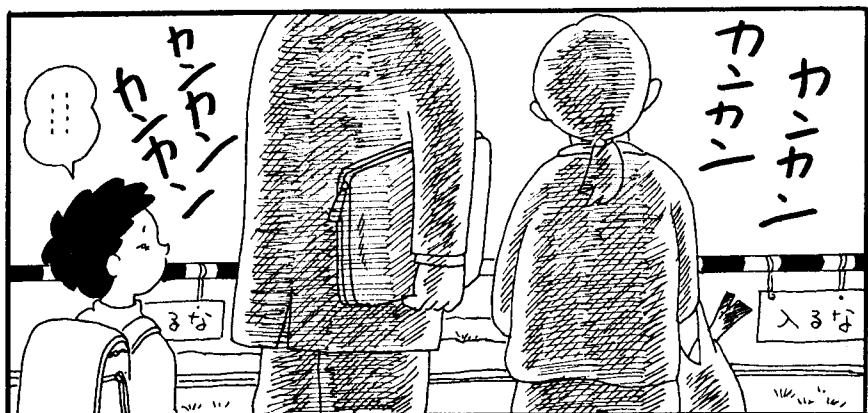
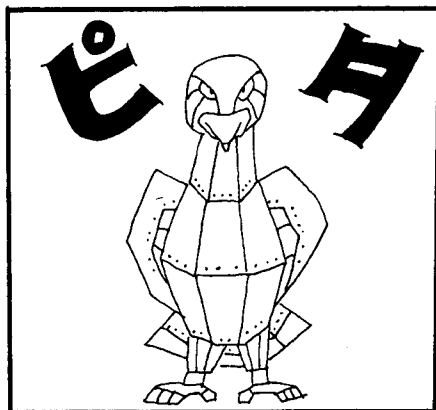
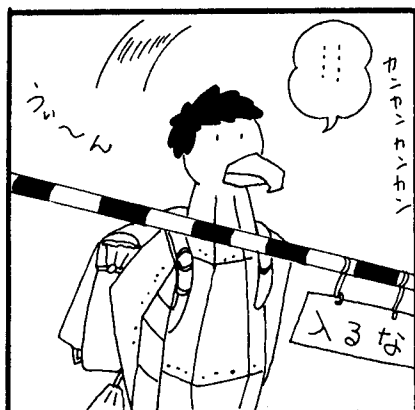
これが 第1話

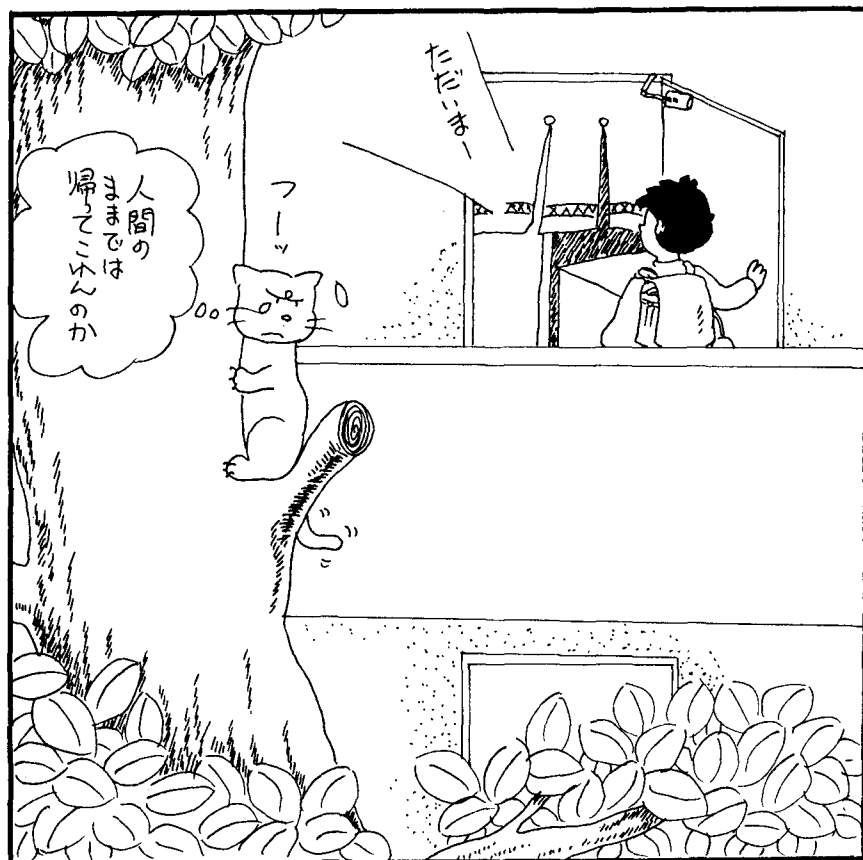
子供の生きる道

栗田知









ワーキングライフ

ファミレスの裏事情

千葉県柏市 西野 蘭美

私三十五歳。身体の弱い子供を抱え、お金に困った私は、主人の帰宅と交替に、夜ファミリーストラン（以下ファミレスと略す）で洗い場の仕事を始めた。

私の勤めたファミレスが、たまたまこうだっただけかもしれないが、まずファミレスは労働者の入れ替わりが激しい。極端な話、毎日のように辞める人、入ってくる人が交替という感じである。それゆえ経営者にすれば、一労働者は単なる「使い捨て」の商品にすぎず、大事に育てようとする感覚などまるでない。加えてファミレスは、若い労働者のたまり場と化しており、年齢差別が正々堂々と行なわれている職場でもある。

私の洗い場での仕事は、皿洗いはもちろん、調理用の冷凍食品を倉庫から運び出して解凍すること、



グラタンやピザの下ごしらえ、そして大釜でのお米ときである。これらをキッチン裏で、一人でこなせというのである。平日ならまだしも、来客の多い土・日など、皿洗だけで精一杯で、とても他まで手がまわらない。キッチンの男の子達が、ひまそうにタバコを吸っていたので、思わず、
「手伝っていただけませんか」

と叫んだら、イヤな顔で私をにらみつけ、

「裏の仕事なんかやってられっかよ!」

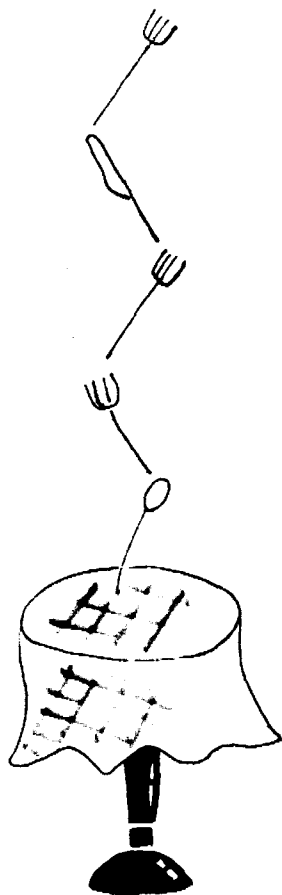
とぶつぶつ文句を言う。そうかと思えば、私が皿洗いの時、ちよつと手を休めて汗をぬぐっているだけなのに、

「ボーッとしていないで、さっさと皿取ってきて洗って下さい」

と何度も何度も、注意してくる。

私は入社の際、店長から、

「主婦の経験を生かして、ぜひキッチンの手伝いをしてもらいたい」と言われていたのに、二カ月たっても三カ月たつて



も、「皿洗いのオバサン」のままである。それどころか、私より後から入ってきた女の子が、先に皿洗いかからキッチンに格上げになってしまったのだ! ブロッコリーとパセリの区別もつかず、満足にお皿一つ洗えないような者でも、「若い」というだけでこんなにも待遇が違うなんて。今までいっしょに皿洗いをしていたのに、キッチンに格上げになったとたん、私に対し命令口調になったのには、あ然とした。たまらず、店長や主任にかけあつても、

「西野さん、わかつて下さいよ。主婦がいるのに、若い子に洗い場をさせるわけにはいかないでしょ」の一点ばり。ふだん洗い物などしたことのない彼ら

は、洗いの辛さに耐えかねて二、三日で辞めてしまおうというのだ。だから若い子にはキレイで楽な仕事、主婦にはいわゆる「3K」の仕事……と、振り分けが決められているというのか。冗談じゃない。それならせめて、裏を二人に増やしてくれないかと言っても、

「二人でするような仕事じゃない」

と、とりあってもくれない。こんな超人的な仕事量を望むなんて、彼らはいったい何を考えているのだろう。二人にしたほうが、疲れも時間も半分になり、より能率的に事が進むと思うのだが、もう一人分の給料を払うのが、そんなに惜しいのだろうか。

結婚以来十年間、子育てに明け暮れる専業主婦でいた私。何もキャリアがないうえに、切羽詰まった事情も重なり、すぐ使ってくれるというファミレスに喜んで飛びついたものの、私は次第に労働条件の悪さと差別に、我慢出来なくなっていた。

ある土曜の夜、私の帰りがけに若い男の子が、
「こんなにお皿、洗い残したのかよー」

と言った一言に、私はついにキレた。私は店のロボットじゃない。人をバカにするのもいい加減にしてくれ！

私は仕事を辞めた。半年間、ついに一度もキッチンに立つことがないままに。

レディ・ファースト

東京都千代田区 田村 安子

四十五歳から通訳になって、多くの外国人と日本人男性を相手に仕事をするようになった。すると、レディ・ファーストと言っても、事はそう単純ではないことが分かって来た。たかが順序ではすまない。報酬にひびくこともあるのである。

一般的には日本でも海外でも、レディ・ファーストの国の人は、予想通り、女性が先に歩くことを期待している人が多い。しかしすべて効率が重んじられるビジネスの世界、ドアやエレベーターが開くのを待ちかねて入るのだから、譲り合いの時間を取る訳にはいかない。礼儀を見せるより、失礼でなく、万事がスムーズにスピーディにすめば、それが一番よいのである。

さらにグループごとに事情が違う。日本にいて通訳していても海外にいてでも、日本人グループに雇われている場合、一番後ろに控え目にいる。相手はまず一〇〇パーセント男性である。こちらは「それ」の人間でかつ女性。ドアを入れるのも最後。それ

でいて一番前にいる偉い人がしゃべりそうな時は、目立たぬように間を縫って先へ出る。用が済むと身を引く。出しゃばりと思われまいようにしなくてはならない。客である外国人グループに対しても、日本側からみて失礼のないように振舞うことを期待される。こういう時だけは「うち」の人間とみなされるからである。

外国人グループに雇われる場合は、少し具合が違ふ。政府高官や民間企業の組織のトップに近い女性



が、グループを率いている場合も珍しくない。そういう女性の隣について廻れば、間違ひなく気楽である。

十年くらい前は、女性が交渉相手ということで、あからさまに驚いたり、当惑した日本側も、このごろは仕方なく慣れてきた。その偉い外人女性の隣にいるのなら、日本の女性が中央にいても、日本のルール違反にはならないらしい。

外国人グループでは秘書の女性も、先頭に歩く一団の中で、丁寧な扱われている。秘書より立場が上の男性でも、秘書の後ろを歩く。が、一旦会議が始まれば組織内の序列がすべてを支配し、秘書の女性は後ろに控える。一方通訳は、日本という異文化の中で支えてくれる、頼もしい味方。突破口を開けてくれるかもしれないので、グループの大切な一員として遇される。雇っている間は忠誠を尽くすものと信じ、いろいろと打ち明けてもくれる。

この点日本人は一般に、まず日本人同士という気がするらしく、たとえ相手が雇っていても、日本人なら自分達の心情を理解し、日本女性なら親切にしてくれるだろうと期待しているようである。

外国人グループで男性ばかりである場合は、その中心人物のやり方に従う。たいていは伝統派で女性に丁寧なので、静かに先に行くのが無難である。駈

け出しのころ、「どうぞお先に。私の国の習慣です
から」と英国人に言ったところ、「私の国はレディ
・ファーストですから」と譲らない。「では貴方の
文化を尊重しましょう」と言うと、何とも嬉しそ



な顔をした。

また「幼い時からレディを先にと躰られた。それ
に反することは出来ない」と泣きそうな顔をしたア
メリカ人もいる。さらに女性を家まで送るように躰

られた人間もいて、二次会を遠慮したくて一人ホテルに戻った翌朝、ホテルまで送らなかった失礼をさるさん詫びられて困ったこともある。

いろいろ例を述べてみたが、外国人がレディ・ファーストで日本人がそうでないと決まっていればまだよいが、そうでない所が困るのである。日本は名だたる男性天国と聞いて、一度女性を従えて歩いてみたいと意気こんで来る人もあり、もともと「男性天国の国から来て」「日本がレディ・ファーストの国でないことに、ほっとした」という人もある。日本人で海外生活が長く、レディ・ファーストが身につけてしまった人もあれば、在日生活が長く、日本流に慣れてしまった外国人もいる。そういう人はドアやエレベーターどころか、車にもさっと先に乗り込み、日本が初めてという後輩に、「日本流」を指南していたりする。

ラテン系のレディ・ファーストは、英米流とニュアンスが違う。レディならば「すべてファースト」という感じで、先に歩くの、ドアがどうだのという前に、世に両性があつて、こちらはそのうちの女性で、だから注目され大切にされるのだと思わせられるようになっていく。ただ女性であるというだけで、素晴らしいということらしい。

総じて言えることは、外国人はオフィスで会う秘

書であれ、エレベーターで乗りあわせた女子従業員に対してであれ、女性一般に対して、ちよつと挨拶する、空間を譲るなどの心遣いを示すが、日本人は知り合いとか、上役の夫人しか、レディの中に入れていないようである。コピーを取ったりお茶を出したりする女性に対する態度には、こちらが恥ずかしくなつて顔を伏せることがある。

アメリカのヒルズ女史が、女性ではじめて通商代表に任命された時のこと。その報がたまたまワシントンでアメリカの上院議員と、テーブルをはさんで日本側が座っている席にもたらされた。日本側の第一声「おんなが?」。私は一瞬、テーブルの向うの人の中で、今の日本語を聞き取った人がいたかどうかさぐっていた。

レディ・ファーストの伝統は長くても、女性が社会的に実力を持つようになったのは、先進国でも最近のこと。英国で女性閣僚が、「女性が先に歩く習慣を止めよう。だれが先に閣議室に入ってもいいではないか」と発言していたのは、数年前だった。

だいたい仕事が忙しくなると、相手がレディのなのと言つていられない。効率こそ第一、ぐずぐずしている人は男性であれ女性であれ、押しのけ突き飛ばすのが現代の習慣であらう。

(え・田沼千恵)

私も ひとこと

社会デビュー

京都府乙訓郡 入江由里 (30歳)

念願が叶い、働き出した。結婚して初めて、実に七年ぶりの社会である。しかも、希望職種で私はハッキリしていたが、現実はその甘くない、緊張感と体力の疲労でヘトヘトである、一日終れば、「今日も乗り切れた」と心からホッとする。でも、好きで働き出したのだ、それに、子供二人と公園に行つて、ため息ばかりついていた時は、働くなでこと夢のまた夢だったなあと、思えば、がんばれるのだ。うん。

まけないぞ!

東京都練馬区 松崎理恵

必要のない状況なのに、職場の男性から手首をつかまれた。冷静に考えれば、私にも全くスキがなかった訳ではないが、なぜか「NO」と言えなかったのか、悔しくてたまらない。手首をつかまれたのが気持ち悪くてたまらない。こんな小さなセクハラでも、自分を責める気持ちが出てしまう。イヤな事はイヤだと言っぞ! 顔に出すぞ! 態度で示すぞ! エイエイオー!

六年目のみかん

千葉県八千代市 佐藤留美

ふと覗いた我が家の垣根際のみかんが色づき始めた。念願のマイホーム記念の苗木だった。毎年味わえると期待したのはその年だけ。春に花が咲くが、新芽が出始めると、姿を見せない虫がすっかり喰い荒していたのである。無精な我が家の事、消毒を頻繁にしたくない。そんな中、よいアイデアをラジオで聞いた。根元近くの幹にビニール袋を巻きつける方法だ。今年六年目の秋、虫退治大成功!

公園

千葉県八千代市 岩井由利子

朝九時、公園のベンチに中学生の男の子が寝ていた。周りに人気はなく、親子連れが来るにもちよつと早い時間だ。昼十二時、別の公園のベンチで、男子高校生がコンビニの弁当を食べながら、ぼーっとしていた。住宅街の中の小さな公園で、やはり周りには人気はなかった。両方とも「ひとり」でいた。この子達にも家族や友達はもちろんいるだろう。しかし、自分の居場所は、あるのだろうか?

おばあちゃんデビュー

川崎市中原区 島 初美

昨年十月に、二十九歳直前で結婚した長女は、今や予定日まで二カ月という身重である。長いこと結婚情報誌「ゼクシイ」を愛読していたが、今は「たまごクラブ」を読んでいる。出産したら、「ひよこクラブ」にするそう。初めて公園へ子供を連れて行くことを、公園デビューというそうだが、その前に、初孫を抱いて、ご近所におばあちゃんデビューをするのが、私の楽しみである。

父の入院

川崎市中原区 松本育子（43歳）

父が病に倒れた。数十年前掛け続けた生命保険が満期を迎えたその月に。七十五年間一度も入院などする事もなく来た人だったから、特約の疾病、入院の恩恵に一度もあずかる事なく期限切れ。いったい保険とは何ぞや。つまりい年金生活の中から工面して保険料を払い込んでいたのに。いざという時には効力なし。釈然としない。父は先週からコバルト治療に入った。私には祈る事しかできない。

文明の利器

広島市西区 武口敬子（29歳）

今日、我が家にファックスが届いた。現在ドイツ出張中の夫とのやりとりにより便利と思い、購入したのだ。

時差を気にすることなく、電話するより安くつき、エメールのように日数もかからない。なんて素晴らしい物なんだろう。

しかし、結婚して四年の間、夫は何度も海外へ出張しているのに、今までファックスの存在に気付かなかった私はバカ？

本のプレゼント

千葉県市川市 村上悦子

？同日の誕生日を迎えた。短大時代からの友人と（彼女も十月生まれ）毎年、自分のほしい本をリクエストし、プレゼントしあうことにしている。もう二十回を超える。こんなに続くことも、私達が？歳になることも、想像せずに始めたことであるが、これがなかなか楽しみになっている。今年は「チョコレト革命」。たった三十一文字の表現力には感動。また大事にしたい本がひとつ増えた。

私は悲しい

千葉県我孫子市 中野耀子

省みれば私も至らぬ者ゆえ、本当は言いたくないのです。でもつい禁句にしている「このごろの若いモンは!!」を、心の中で呟いたのです。地下鉄に、若い男女二人連れが乗ってきて立っていたのですが、一つ席が空いた時に、若い男がさっさと座ったのです。最近こんな光景を四回も目撃しました。ナニが国際化だ。家庭教育はどうなっているのか。私は恥ずかしい。本当に悲しいのです。

プライバシーは保護されてよいのでは？

長野県小県郡 花岡京子

バブルが弾けて以来、頻繁にかかってくる電話。相手は投資会社であったり、一般の企業からだ。「投資しませんか」とか「○○を買いませんか」といった内容。そういうはず供達が高校、大学進学の間になると、決まって「○○塾です。中学三年の○○さんは……」とかかかってきた。どちらも実によくこちらの氏名を知っている。一人一人のプライバシーは守られて当然だと思ふのだが。

映画は最後の最後までゆっくり観たいのに

埼玉県北埼玉郡 嵯峨久美子（37歳）

この夏、私は五回映画館に行きました。話題の「もののけ姫」や「コンタクト」など、じっくりスクリーンに向かいながら、私は心ゆくまで映画の世界をたのしみしました。

そして映画とは、スクリーンのカーテンが開いてまた閉じるまでが映画だと感じました。

でも、遅れて入ったり、エンディングの音楽が流れ始めたとなん、出て行く人が多いのに驚きました。皆さんはどう考えますか。

初めての白髪

東京都世田谷区 後藤 晶 (39歳)

三十九歳の誕生日の三日前に、私は生まれて初めて、自分の頭に白髪を発見した。半分グレーという程度の髪の毛だったが、「トシ」を実感した。今まで、肌も髪も、精神年齢と同じで、若いと言われるのを信じていた。友人は二十代からポツポツ白い筋を見せる人が多い。私の最後の若だった髪の毛。「これで茶パツもできる」と強がってみても、やっぱり白髪にはなりたくないなあ。

他力本願極まれり

静岡県 鈴木美奈 (33歳)

PTAのプリントに「テレビ番組の内容について苦情を受け付け、放送局に提示する対応機関」とやらの紹介があつて、電話番号も書かれていた。だけど、よくない番組だと思ふなら見なければいいじゃない。子供にも親の権限で「見るな」と言えはすむじゃない。なんでわざわざこんな活動を……。

読書感想文

アメリカ・リトルロック市 伊藤琴子

主婦の友社より「やつぱり結婚したい」を出版して数週間。いろいろな人がいろいろな読後感想を聞かせてくれる。面白いことに、スケベな人は私の本をスケベな本といい、インテリな人は社会的愛情理論がよかった、文学好きな人はエピソードや文章が素敵、私にしろとしていいる人はくだらない本、とコメントしてる。私の本が、人それぞれの姿を映す鏡になっていて、面白いと痛感している。

五十二年振りの卒業式

奈良県生駒郡 杉澤庸代

「仰げば尊し わが師の恩……」。
昭和十九年度、第二十三回卒業証明書授与式が、秋晴れの十月十五日とうとう実現した。

十一年前「わいふ」二〇三号に投稿した「いま集団疎開の友だちは？」を、「わいわいがヤガヤ」のコラムに載せて頂いた。疎開先の富山のお寺の方から電話があり、東京の当時からの方にも連絡して下さり反響が大きく、十一年振りに卒業式の朗報が届いた。

主婦の投稿誌？

宮城県岩沼市 横山のり子

「わいふ」ついでに「主婦の投稿誌」なんです。マスコミに紹介されたり、田中編集長の肩書に出たりする時に「主婦の投稿誌『わいふ』」となっています。出発点はそうだったかも知れませんが、今では男性も登場しますし、女性でも「主婦」という枠は吹き飛んでいるように思うのですが……。

「わいふ」に何かもつと新しくビッタリした紹介のことは、つきまじりかねえ。

「編集室から」が楽しい！

埼玉県所沢市 鈴木和子

編集部の皆様のお人柄と近況がわかる、短いおしゃべりのコーナーが大好きです。とてもユーモアがあつて実に楽しいのです。今回はどんな話題かなと読むのが楽しみです。なかなか雰囲気の良い編集室が目に見えるよう。

これからもいろいろと、楽しいお話をたくさん聞かせて下さい。ぜひ!!

ベジタリアンの世界

肉食を超えた人々

鶴田 静 著



人文書院
本体2900円+税

神奈川県藤沢市

木村澄子

世はあげて美食ブーム。グルメ番組のない日はない。美食のメインは肉。タンパク質の豊富な肉料理は体にいいと思われ、和食のヘルシーさが見直されはしても、肉食そのものを否定するのは特殊にしか思えない。

ところがベジタリアンとしての視点で歴史を見直す本書には、意外で魅力的な名があがってくる。私に

とってはシェリーのクイーン・マップ。前書きのその名にひかれてベジタリアンでもないのに、本書を読みはじめたらほとんど一気に読んでしまった。ベジタリアンという言葉は「健康で生き生きとして、生命力にあふれて」という意味のラテン語が語源という。

なるほど動物・黒人・女性への差別、殺戮、戦争に反対し、権力に抵抗する思想になったことも納得がいく。イエス・キリストもいればピートルズもいるベジタリアンの、本書は絢爛たるリストである。

男性優位の美食、肉食と好戦性や残酷さとの関わり等、肉食拒否の心理的、社会的、思想的、宗教的根拠が動機として語られ、刺激も受け、薄々感じていたことの確認もできた。

個々には異論・違和感もあるが、二十年にわたるフィールドワークに支えられたこのベジタリアニズム探究は、一気読みでも、好きな人だけの拾い読みでも、満足が得られるし、女性差別の意外な形の発見にもなるだろう。

食はまだ多くの家庭で女性の重荷だが、裁量の及ぼしやすい領域でもある。食材の選択の基準と根拠の一部を、本書は支えることになるはずだ。愛と平和の実現を訴えたジョン・レノンの「人は食事によって生きる。食事と食事の間の規律によって生きるんだ」という言葉が、響いてくる。

これからもう一度ゆっくり読みなおそう。味読・熟読するべき本だから。

情報コーナー

さかした日出美

ひとり芝居

「ミソケン」を斬った女

映画監督溝口健二を愛した女性を描く一人芝居が、このクリスマスに上演されます。

演じるのは、千葉県柏市の演劇集団「陽気姫」の女優、さかした日出美さん。さかしたさんは、日常は子育てや生協活動に忙しい女性、「わいふ」の座談会にも登場したひとです。「日頃は封印している女の部分をのぞきこんで役作りをした」舞台をぜひご覧ください。

▼日時 十二月二十五日（木）午後三時と六時半の二回

▼場所 船橋市宮本公民館

京成大神宮下車徒歩五分

JR 船橋駅下車徒歩十五分

▼料金 千五百円

▼お問い合わせ

坂下 ☎ 〇四七二七六—四二七二

七海 ☎ 〇四七一七—二七三三七五

We Do

「女と仕事を考える会」

冊子第三号発行のご案内

We Do は、女性が子どもをもっても仕事を続けたり、再就職をしていく過程でおこる問題や悩みについて、文章で意見交換をしているサークルです。

年に一度、外部の方へ向けても小冊子を発行しています。今年発行の第三号は、「働く前と働いてから——座談会&コラム」「仕事を始めてから見えてくる問題点、続けるための工夫」など、実生活にもとづいた主婦の本音が、ぎっしりです。

発行は、十一月末日の予定。

価格は一冊三百円、送料は百九十円（二冊の場合）です。お申し込みは左記へ住所、氏名、電話番号、必要冊数を明記の上、

ハガキでお願いいたします。

〒366 埼玉県深谷市上野台 二三五

二一七三七 小久保早智子

「長男の嫁」

自費出版しました

昭和と同一年の自分史です

戦災に遭い、食糧難の大都会から逃れるように農村へ嫁いだ女の一生です。明治の父母や婚家の両親に育まれた嫁の、赤裸々な気持ちを吐き出しました。

馴れない農業の中、長男の嫁として、自我を捨て、両親を看とり、娘の死、孫育てと波乱の多い人生を涙で綴りました。

感動したと感想を寄せて頂き、書いてよかったと思っています。

ご希望の方は、少々予備があ

長男の嫁



りますのでお送りします。

〒632 奈良県天理市竹之内町一五

九 岡井美代子

▼定価 千円（送料三百十円）

広告コーナー

『ことば塾』
『日本語を遊ぼう』

★第二期生募集★

職場や家庭の中で、コミュニケーションがスムーズにいかないために、思いもよらない誤解や不快を相手に与えてしまったという経験はありませんか。

この塾の講師は、俳優歴四十一年、古典芸能歴五十年、手話シャノン歴二十年などことは

にかかわるプロ揃い。また、個人指導を中心としたユニークな授業は「ことば」に磨きがかかり、自然体で豊かな会話ができるようになった、と好評です。

▼定員 二十名(男性も歓迎)

▼受講料 三万三千元(十回分)

▼会場 竹友社稽古場(ＪＲ・地下鉄四ツ谷駅五分)

▼日時は左記に問い合わせを。

▼申し込み

〒160新宿区若葉一―二―一六

A S T Y 一〇二

原田ワーキングライフ研究所

☎・FAX 〇三―三三九―九七

三〇

正社員募集

再就職をめざしている方、責任ある仕事をした
い方、大歓迎!!

当社はDTP(デスク・トップ・パブリッシング)を主とす

る写真製版、印刷の会社です。事務担当者を探しています。マ

メでマジメでマルチな方大募集。

「仕事」パソコンによる納品書請求書作成、電話応対、営

業の補助(経理知識多少要

時間) 九時―十七時三十分

日祝祭休 土曜休月三回

〔給与〕月給制(十八万―二十

五万円) 経験能力により考

慮します。賞与年二回

〔場所〕ＪＲ錦糸町徒歩七分

墨田区亀沢町四―二―一三

(株)サンコー 担当有蘭

☎〇三―五六〇―八―五七四―

女性のためのビジネススクール

アイムパーソナルカレッジ

プレコース十期生募集

「私のための適職発見講座」

自分に合った仕事を見つける

には、まず適性を知ることから。

十年の実績に基づく独自のプ

ログラムで、自然に適性が掴め

るユニークな講座です。既に六

百人の卒業生が自分の道を見つ

け、一步を踏み出して行きました。

た。家庭と仕事の両立のコツも

学べます。適性・適職診断つき。

▼場所 乃木坂教室(地下鉄千

代田線乃木坂駅より徒歩二分)

▼期間 平成十年一月二十日―

三月二十日(全八回)

▼日時 毎週火曜―十三時

▼受講料 二万八千円

▼問い合わせ・申し込み

〒107港区赤坂九―六―三〇―一

〇五アイムパーソナルカレッジ

☎〇三―五五四―一〇―五四六四

資料を無料で差し上げていま

す。

●情報コーナーに投稿される方へ

投稿の際はこのページを参考

になさってテーマ、期日、会場

連絡先、参加費などを明記の

上、一段(二十四行)におさめ

本をプレゼント

官製ハガキに、ご希望の本の

番号、住所、年齢、会員番号、

お名前を明記。次のアンケート

にお答えくださった方へ。(抽

選で五名)

①「わいふ」で読んでみたい話

②書いてみたいこと

③二六九号で一番面白かった投

稿

1 「女性が輝く時代」

日本BPW連合会 編

産能大学出版部刊

2 「お父さん、あそぼ!」

芳賀 哲著 さとう有作 絵

大月書店

3 「野菜は自然のクスリ箱」

東海大学病院 片岡邦三 監修

同文書院

4 「輝くわが最晩年」

雲石とみ著 ミネルヴァ書房

5 「裁判の女性学」

福島瑞穂 著 有斐閣

締め切り日 十二月十二日

老人ホーム情報センターにご相談を！

老後をどこで過ごしますか？

●「わいふ」が運営している「老人ホーム情報センター」は、有料老人ホームを中心に高齢者住宅の入居相談に応じています。

●身の回りのことが出来る方も、介護が必要な方も、ご事情に合わせて、入居できるホームがあります。

●今号の座談会に出席している主任研究員の水落が、親身になって、あなたにふさわしいホームを探すお手伝いをいたします。

●無料電話相談

木曜日 十一時より十七時まで。

●面接相談もお受けします。(有料)
電話でご予約ください。

☎〇三—三二三五—二八五四

ファミ・ポリティク

会員募集

●一九九三年創刊の季刊誌。「わいふ」編集長でもある田中喜美子が編集長を務め、女性の視点での政策提言を目指しています。

●年間購読料一六二〇円(送料・消費税込み)

CONTENTS:

「中教審答申」にひそむ危険
フランスの国民議会選挙と女性の進出
共産党はどこまで伸びる？
弁護士なしで訴訟をする法
ここが言いたい——投稿のページへ



・A 4判20ページ
・1997年秋号発売中

☆「親と教師の望む教育改革」
政策を提言する女性の会編も発売中
定価一〇〇〇円送料二四〇円

●ご注文は「わいふ」へ ☎〇三—三二六〇—四七七一

NMS研究会より

〈NMSと同じ考えが

アメリカでも〉

嬉しいことに、アメリカで売れている「ホワイト博士の育児書」が、私の唱道するニュー・マザリングシステムと、ほとんど同じ内容の育児のやりかたを勧めていることを知りました。

よき育児は結局は常識であり、バランスであり、誰でも納得できる内容なので、要は、子どもは可愛がりましょう、でもないけないときには毅然としないといましようという、ただそれだけのことなのです。ただし、しつけを始める時期を逃してはいけない、生後五カ月をすぎたら始めないと遅すぎる、二年になったらもう手遅れというところ、それもまったく同じ。読んでみてください。

(田中喜美子)

ニュー・マザリングシステム研究会
連絡先

☎〇三—三二六〇—二五〇九へ

父母と子の立場から教育・学校を考える

母と子

十二月号

五〇〇円・千六八円
(見本誌(旧号)進呈)

今月の視点

子ども期の葛藤体験

葛藤を生み出すための教師の仕掛け

河合 達

好評発売中「母と子」臨時増刊シリーズ 各一〇五〇円

PTAって何?

不思議なPTA

地域がつくるPTA

いじめの迷宮

子どもと読む

子どもの権利条約

子どもの権利条約

市民・NGO意見集

お申し込みは書店か母と子社へ

☎ 203 東久留米市中央町五・四・八
☎ 〇四二四一七四一九一二五

母と子社

見本紙 お届けします。お問い合わせ下さい。

草の根は

伸びつづける。



世の中に?も
もち始めた
男たちにも。

女たちの情報紙
ふえみん
f e m i n
婦 人 民 主 新 聞
WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL

からだのしんばい
はたらくもんだい
こころのえいよう
さべつへのいかり
アジアのつぎぎ
あんぜんでなに?
きのうまでのみず
あしたへのみち
わたしのいけん
あなたのいけん
おんなという
ちから。

創刊以来、無党派の立場で50年。
女の視点で創る、もうひとつのメディア。

新聞代
(送料込)
1ヶ月 750円
3ヶ月 2,250円
6ヶ月 4,500円
1年 9,000円

毎月・5日・15日・25日発行

東京都渋谷区神宮前3-31-18-301 大阪府協 大阪市北区中崎西3-1-5
TEL 03(3402)3244・3238 TEL 06(371)2429
FAX 03(3401)3453

ふえみん婦人民主新聞
婦人民主クラブ責任編集

(○で囲んでください)

タイトル・住所・氏名

本文

私もひとことは、投稿してみたいけど、長いのはチョットという方のためのコーナーです。わいふネットは相談や質問、掲載された質問への答えをお寄せいただくペー

ジです。あなたの声をお待ちしています。
投稿には、右の原稿用紙をご利用くださ
い。

●タイトル、住所、氏名は一行めに。もし、

二〇字を超える場合には横目にこたわらず、小さい字で、住所、氏名は他のコラムを参照してください。

●二行めから本文、全体で九行一八〇字。

[illegible]

各

地でのスキー場オープン
は、青春の甘ずっぱい思
い出。春の雪どけまで続けたア
ルバイトは楽しかったな。群馬
でこんなにやくを作る村の青年
や、東北からのおじさんたちと
出逢った。大ケガをした私を背
おつてくれた友とは今も続く。
ヒザが痛むと胸までもキュンと
なる。

(菊池)

例

のN生命保険は、代行処
理するA社から計算書が
来た。内容は推して知るべし。
あきらめるより仕方なさそう。

ここだけとは思った大手企業
が、「海の家」にお金を送り続
けていた。「わいふ」のご近所
D印刷もそうらしい。今年は腹
の立つことばかりだった。(成井)

十

一月二十二日は、いい
夫婦の日(？)「ネー、秋
の夜長をジャズでも聴きに行か

ない?」どうしてわざわざ電車
に乗ってジャズ聴きに行くんだ

? 風呂に入って酒飲んで寝る
よ! アー! 定年後は仲良く暮
らせなくても、各自が楽しく暮
らせれば、よしとしよう。(野村)

た

だ今減量中の夫。体脂肪
計付きのヘルスメーター
を買い込んだ。たびたび乗つか
つて、増減に一喜一憂。フィッ
トネスクラブに通い、駅までは
歩き、お昼はうどんを食べる。
最近、絶対効くという毛生え薬
を手に入れ、熱心に振りかけて
いる。ウーン……。(浅野)

わ

「いふ」に就職して三年目
に入りました。石の上に
も三年といえますから、あと一
年がんばらないと……。

五十歳を迎えたせいで、これ
からの生き方をどうするか、日
々探っております。不惑?とい
うわけにはいきません。こうし
て年をとっていくのかな。(間瀬)

新

しく「わいふ」のデザイン
を担当してくださる宮塚
真由美さんは、若くてとても
キュートな女性です。フリーで
この近所のいくつかの仕事を
かけもちで、神楽坂を上がつた
りくだったり。おばさんたちと
も仲よく仕事ができるめずらし
いタイプ。乞ご期待! (望月)

十

月ハイスクール・レポー
トの編集が始まった。担
当者として仕事に没頭している
私の傍らで、編集部のもっぱら
の話題は不倫。堅物の私には耳
にするのも、おぞましいはず
だった。なのに、こともあろう
に横浜の明倫高校を不倫高校と
書いてしまった。嗚呼。(山本)

各

地の公民館が文章講座を
依頼してくださるので、
田中と和田、それに「わいふ」
から集立ったライター達が講師
になって行なっている。大てい
大入りで抽選になることも多い。

受講者から「わいふ」に入っ
て、投稿者になる人が必ずあ
り、この人たちはずいぶん誌上
で活躍してきた。福田由利子さ
んは今号にもおもしろい作品を
寄せている。亡くなった阿部美
砂江さんもそうだった。

一二三ページをご参照の上、
皆さん開催にご協力を。(和田)

九七六年に東京で編集を
引き受け、一三八号を発

行したときからの「わいふ」の
歴史を書いていきます。二十二
年の物語、大変ですよ!

忘れていた事実が続々とよみ
がえってきて驚くことばかり。

最初のうちは投稿者が少ない
ので、夫たちまで動員されてい
てびっくり。和田副編集長の夫
は愛妻家なので当然ですが、私
めの夫も書いています。「コン
ピューターが家庭を変える」で
すって。少しは手伝ってくれた
んだ。見直しました。(田中)

和田 新しい人の投稿が多かったような気がするのだけど。

間瀬 そうなんです。ずっと読むだけ会員だった方が、ダイアナさんの事故の際パリにいて、千載一遇のチャンスというところで書いてきてくださった。そういうのがあると、すぐうれいしですよ。

和田 傾向と対策を考えたりして、似たようなものを投稿してくるのは困ります。「載りたい」ものより、「載せたいもの」、本当に書かずにはいられないで書いたものが欲しい。浅野 リニューアルに伴って新コラムを作ったんですけど、「私の意見・あなたの意見」には、たくさん投稿をいただいていた。問題設定がおかしいというご意見もあって、反省すべき点もありますが、とにかく皆さんの反応があった。どんなテーマだと読者の方は書きたいと思うのかしら。

和田 原稿用紙の使い方を「投稿の

選考を終えて

きまり」に載せてどうだった？

間瀬 はい、皆さんきちんと住所、氏名、ペンネームなどを最初に書いてきてくださったので、原稿整理に手間がかからず楽でした。

浅野 「わいふ」の中では、あとおりに書けっというてるみたいで、官僚的だって言われたんですが、「あんな感じに」ということで、例を出してみたんです……。

和田 特集「再就職で得た仕事・得られなかった仕事」は、どれもとてもよく書けていたわね。

浅野 書いてくださった方、皆さんたいへん前向きで、感激しました。励まされることが多かった。読む人が元気になるというか。

間瀬 楽しんでお読みいただいた「自主保育つておもしろい！」の連載も、今回で最終回。以前のアンケートでは、連載もの、一本ものが面白かったという意見が多かったので、特別寄稿として長いものも欲しいです。

自費出版は

「わいふ」へどうぞ！

「わいふ」ならではの
親身なアドバイス

良心的な費用

ご満足いただける仕上がり
をお約束します。

● 自分史、回想録、旅行記、童話、詩集、歌集、句集、同人雑誌、絵本、コミックなど何でも作れます。

● ご自分で撮られた写真やイラストを使って楽しめます。もちろん、イラストレーターに依頼もできます。

● 興味がおありの方は、わいふ編集部（☎〇三—三二六〇—五〇七〇）までご連絡ください。案内のリーフレットをお送りいたします。

募集します

特集テーマ

二七一号（九八年四月一日発送）の特集のテーマは「思い出の着物・思い出の洋服」。

みなさまのお宅には、家に代々伝わる婚礼衣装、ご家族の形見の着物、染め直した喪服など、思い出のある着物

座談会 私も言いたい

二七〇号は「家事嫌い大集合」。奥さんだから、主婦だからどうして「家事」をしなければいけないの？家事なんてだいっ嫌い！って思ってる人、集まってください。

今号「フリートーク」の青木清美さ

私の意見・あなたの意見

最近、世間を賑わせているのが「不倫」やれ、「失楽園」だ、「不機嫌な果実」だと騒がしい。

「わいふ」でも、夫の、妻の「不倫」に関する投稿が見受けられます。

そこで、ずばり「夫が浮気したらあ

があるかと思っています。そんな着物にまつわるうれしい話、かなしい思い出、どちらでもけっこうです。

着物だけでなく、入学式や新婚旅行など、折々の行事と洋服も深い関係にありますね。おかあさんが縫ってくれたウェディングドレス、編んでくれた

んのご投稿を読み、編集部一同「ここまでやらないか！」と大受け。家族はどうしているんでしょうと思わず聞きたくなってしまうのですが、ここまではなくても、手抜きを励行している方は多いはず。でも、何かにつけ、言い訳を考えたり、肩身の狭い思いを

なたはどうしますか？」が、質問。

「相手の女性に会いに行く」「夫に抗議する」「離婚する」「放っておく」

「自分も浮気をする」。いろいろありますよね。もちろん「こうした」という過去形あり、「こうしている」という進行形あり。

手編みのスーツなど、思い出とつながった洋服の話もお書きください。

流行を追って失敗したこと、好きな男の子のために編んだセーターの話なども歓迎します。

四〇〇字詰原稿用紙五〜十枚。
締め切り 九八年二月十日

していませんか。

みなさんに、家事嫌いをやり抜く法もご教示を。気軽にご参加ください。
申し込みは十二月十一日までに電話で編集部へ。

日時 十二月十五日（月）午後二時
場所 わいふ分室

「浮気と不倫は違う」というご意見もあるかもしれませんが。「ふざけるな」というのもけっこう。

四〇〇字くらいにまとめてお書きください。

締め切りは他の投稿と同じく十二月十七日必着。

定期購読を申し込まれている方はどなたも投稿できます。
投稿の前に以下を必ずお読みください。

◆グラビア「私の……」

写真と文で登場してみませんか。ご希望の方は、編集部へ電話でお申し込みを。詳しく説明します。

◆特集

毎回テーマを設定しています。一四九ページをご覧ください。

一六〇〇字のコラム

(どのコラムも字数は目安で、多少長くても内容がよければ掲載します)

◆エッセイスト・クラブ

キマった文章、豊かな内容の随筆をお送りください。

◆ズバリ一言

オピニオン、評論のページ。あなた独自の考えを。

◆家族のスケッチ

同居、別居を問わず、あなたの家族のことをお書きください。

◆子育てフォーラム

おさない子、思春期の子。どんなときも親にとって子どもの存在は気になるもの。ありのままの関係を描いてみませんか。

◆ワーキングライフ

あなたは、どんな働き方をしていますか。さまざまな仕事の喜びや苦勞話を。

◆今これに夢中

人生八十年時代。趣味その他、仕事以外に生きがいを持つ方も多はず。あなたは何に夢中ですか。

◆フリートーク

どんなテーマでもどうぞ。どのコラムにも当てはまらないテーマを。自由なコーナー。

八〇〇字のコラム

◆あなたへスマツシュ

本誌の投稿や記事についての感想、意見を載せます。何号のどの投稿に対するものかを明記して。

◆ことばでハッピー

ことばの使い方はとても難しいですね。時には人間関係をこわしたり。でも、発想を変えて工夫することで、お互いの関係をよくすることも可能です。

◆パソコンワールド

失敗談も含めて面白い話題をどうぞ。急速に普及し始めたパソコン。楽しんでい

る人、振り回されている人、体験談を。

◆おすすめの一冊

書評のコラム。どんなジャンルのものでも結構です。お読みになった本について感想を含めて、ご紹介ください。

四〇〇字のコラム

◆笑える！

嫌な話題の多い世の中。思わず笑ってしまった楽しい話を。

◆私の意見・あなたの意見

賛成か、反対か一四九ページにテーマを載せています。皆さんの素直な意見を求めます。

その他

◆私もひとこと(一四六ページ参照)

どんなことでも気軽に書きください。

◆わいふネット(一四六ページ参照)

教えて欲しい、聞きたい！ それに対するお答えも。読者参加のQ&A。

◆情報コーナー

お知らせ、募集など。要点を漏れなく整理してお寄せください。(二四三・二〇行にまとめて)

投稿の

◆特別寄稿

字数自由。どのようなジャンルのものでも結構。本誌に適合と思われるものは掲載します。出版社に紹介することもあります。(ただし詩、短歌、俳句を除く)

◆コミック、イラスト、写真

一度作品をお送りください。本誌に合うものであれば依頼したいので。

注意

- 原稿はお返しできません。
- 投稿は一人一篇。ただし、「あなたへスマッシュ」「私もひとこと」「わいふネット」「情報コーナー」とはだぶっても可。
- 締め切りは原則として偶数月の二十五日。当日必着。

●他誌との二重投稿はお断りします。

●写真や、イラストを用意できる方は原稿とあわせてお送りください。

●誌上での匿名、ペンネーム使用可。ただし、いくつものペンネームを使い分けるのはご遠慮ください。

●掲載を希望しないお便りは「私信」と断り

書きを。

●投稿は多少添削することがあります。

●最初に次のようにお書きください。

右上1カ所をホチキス留め
ペンネーム・匿名希望の方は明記

本文……	タイトル	コラム名
		ペンネーム・匿名 住所 会員番号 本名 電話番号 年齢

① ページを明記 (場所はどこでもよい) なくても可 匿名の方は住所を載せるかを明記

●四〇〇字詰原稿用紙に縦書き。

●ワープロ打ちも二〇字×二〇字一枚で。

投稿のきまり

編集集一だ一より

*リニユアルした「わいふ」いかがでしょうか。コンセプトは「読んで書いて、みんなでつくる」。一人でも多くの方に参加してもらいたいと考えています。

全体のデザインは宮塚真由美さんにお願ひしました。表紙のイラストは箕輪絵衣子さん。気に入っていただけたらうれしいです。

*今回の投稿数は一二六通とたくさんだったうえに、初めて投稿して下さる方が目につきました。初めて出して載らないと、がっかりなさるかと思いますが、あきらめずに続けてご投稿ください。まだ投稿されていない方もどんどん書いてみてください。

購読申込は……

ハガキか電話、ファクスでどうぞ。すぐに、本に郵便振替用紙を添えてお送りします。折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様に。限られた書店にしかおいてありませんので、直接お申し込みください。

購読中止は……

必ずお申し出ください。誌代が切れる際には、郵便振替用紙を同封していますが、送金をお忘れになる方があるため、誌代が切れても、引き続き送本しています。ご連絡がないと、お送りしてしまいますので、ぜひハガキかお電話を。

お待ちしております。

*二六八号の八七ページ、写真のキャプションが、間違っていました。長男文彦とあるのは、次男文彦さんの間違いです。お詫び申しあげます。

*「わいふ」には書評用をはじめとしていろいろな本が届きます。その中から会員のみなさまにプレゼントいたします。くわしくは一四三ページに載っていますので、ふるってご応募ください。

「わいふ」の読者の方々は、本の紹介の欄を、とても楽しみにしていただることを、アンケートの結果分かりました。これからもこの欄に力をいれてまいります。

*「私の職場体験記」は続けて募集しておりますので、いろいろな体験談をお寄せく

ださい(原稿用紙八枚ほど)。今回の特集にある、ガス配管の設計士などのような現場の仕事も、なかなか興味深いですね。

*ホームページを開く準備をすすめてきましたが、途中でちよつとした故障があつて遅れました。アドレスが決まりましたらお知らせいたしますので、見てください。

*「わいふ」ではご本人の了解なしには、会員の住所を教えないようにしています。会員の方へのお手紙は、転送いたしますので、「わいふ」までお送りください。

*長年の投稿者で、連載「私と英語」などの筆者酒井智恵さんが十一月九日に亡くなられました。ご冥福をお祈り致します。

*二七〇号の投稿締め切り日は十二月十七日です。

わいふ◆269 (隔月刊)

- 発行日 1998年1月1日
- 編集 わいふ編集部
- 定価 560円 (本体534円)
- 年間購読料 4560円
- 印刷 平河工業社
- 発行所 (株)グループわいふ、〒162 東京都新宿区矢来町115 東海神楽坂マンション406 電話(03)3260-4771 FAX (03)3260-4773
- 郵便振替 00150-3-110430 加入者名 わいふ編集部

青木書店

東京都千代田区神田神保町1-60 価格税別

TEL|03|33219-2341 FAX|03|3219-2585

善積京子●著

¥2500

〈近代家族〉を超える

非法律婚カップルの声

家事・育児・家計・セックスの実態、日常生活の利点と障害、そして周囲の反応。婚姻届を出さずにカップルとして生きる女と男のありのままをアンケート調査・インタビューから紹介。

清水博子●著

¥1500

夫は定年 妻はストレス

夫の定年が妻のストレスを引き起こしている。顔を突き合わせる毎日。惑い、揺れる妻たちの声を聞き、老いに向かう時を豊かに生きる知恵をフェミニスト・カウンセラーが紹介。

吉廣紀代子●著

¥1500

殴る夫 逃げられない妻

「夫も食わぬ夫婦げんか」として放置されてきたもう一つの家庭内暴力。夫からの身体的・心理的・性的暴力に苦しむ女たちが語りはじめる。

アンカップリング研究会●編

¥1200

妻に異議あり

男の離婚

離婚の危機に夫婦関係や家族の意義を真剣に考え直していった男たちの本音をインタビュー。パートナーとのよりよい関係を築くためのヒントがいっぱい。

シリーズ 21世紀へのヒューマン・セクソロジー

科学・人権・自立・共生の性教育

編集◎「人間と性」教育研究協議会

編集代表◎高柳美知子・村瀬幸浩・山本直英

1 性教育—その考え方・進め方

2 小学校の性教育

3 中学校の性教育

4 高等学校の性教育

5 障害者・マイノリティの性と性教育

6 共生・人権をめざすエイズ学習

7 性的ふれあい・性交についてどう学ぶか

8 性教育—その用語と教材 [B5判]

[B5判] 本体価格各2330円

★日本図書館協会選定図書

セックスレス・ カップル

奈良林 祥著 [四六判上製] 本体価格1500円

心とからだの主人公に 隔月刊◆定価1260円(税込)

性と生の教育

Human Sexuality No.14

編集◎「人間と性」教育研究協議会

1998.1

編集長◎山本直英

●B5判

[特集]

子どもと創る性教育

【座談会】「子どもと創る」とは、「子どもから学ぶ」と【論文】子どものニーズに応える性の学習とは何か【レポート】東京都狭山青年の家の「からだ探検隊」【学校での取り組み】小学校/中学校/高校/障害児教育【親が性教育に期待すること】学生による「性教育点検」【時評】同性愛差別撤廃・断絶確定 編集長対談●性教育は「生きる力」=「自立と共生」を育てる ほか

●定期購読受付中!

全国どの書店でもお申し込みいただけます。

郵便振替 00180-8-10590 1年間 9,400円

〒112 東京都文京区春日2-17-3 あゆみ出版 ☎03(3815)5511 FAX03(3815)3777



●1月・2月



●3月・4月



●5月・6月

いわさきちひろ カレンダー'98

A2判・高級カラー印刷

1400円(消費税別)

絵7枚・59.4cm×42cm



●表紙



●7月・8月



●9月・10月



●11月・12月

■ご注文は、部数・住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入の上、ハガキでおねがいします。

■送料は、全国一律500円(都区内400円)(税別)をいただき、宅配便または小包でお送りいたします。ただし、カレンダー5部以上、あるいは他の商品との合計金額が1万円以上(税別)で1カ所へお送りする場合は当社で負担いたします。

■代金は商品と同送する振替用紙でお振込ください。

■万一、不良品があった場合、商品到着後10日以内にご連絡ください。お取り替えいたします。

■発送は、ご注文をいただいてから2~3週間位かかります。また時期によりご注文が集中する場合にはさらに遅れることがあります。

■カタログご希望の方は、ハガキでご請求ください。

企画 ● ちひろ美術館

いわさきちひろ作品普及会

〒166 東京都杉並区杉並郵便局 私書箱3号

(東京都杉並区阿佐谷南1-4-1)

テレホンサービス(フリーダイヤル)0120-212-030